

山口大学東アジア研究科
博士論文

日本語自然会話における「話者間反復」に関する研究

2022年09月

常艶麗

目次

1.	はじめに	1
1.1.	研究動機・目的.....	1
1.2.	本論文の構成.....	2
2.	先行研究	4
2.1.	反復・繰り返しに関する研究.....	4
2.1.1.	日本語の会話における研究.....	4
2.1.1.1.	中田智子(1992).....	4
2.1.1.2.	田中妙子(1997).....	5
2.1.1.3.	松田文子(1998).....	7
2.1.1.4.	杉山ますよ(1998, 2002).....	7
2.1.1.5.	岡部悦子(2003).....	9
2.1.1.6.	泉子・K・メイナード(2005).....	9
2.1.1.7.	伝康晴(2007).....	10
2.1.1.8.	竹田らら(2017).....	10
2.1.2.	日本語の文章における研究.....	11
2.1.3.	日英両言語における対照研究.....	12
2.1.4.	日本語母語話者と非母語話者の比較研究.....	12
2.2.	話題・トピックに関する研究.....	12
2.2.1.	泉子・K・メイナード(1993, 2005).....	13
2.2.2.	串田秀也(1997).....	14
2.2.3.	庵功雄(2007).....	15
2.2.4.	三牧陽子(2013).....	15
2.2.5.	大谷麻美(2018).....	16
3.	本論文の立場	17
3.1.	研究対象	17
3.2.	分析方法	20
4.	会話データについて.....	23
4.1.	言語調査による会話データ.....	23
4.2.	BTSJ コーパスによる会話データ	24
5.	分析	30
5.1.	名詞が反復される場合.....	30
5.1.1.	名詞が1つの場合.....	30
5.1.1.1.	主節に起こる場合.....	30

[1]	格成分に起こる場合.....	30
[1-1]	ガ格に起こる場合.....	30
[1-2]	ヲ格に起こる場合.....	38
[1-3]	ニ格に起こる場合.....	40
[1-4]	デ格に起こる場合.....	41
[1-5]	ト格に起こる場合.....	42
[1-6]	ノ格に起こる場合.....	45
[2]	述語成分に起こる場合.....	47
5.1.1.2.	従属節に起こる場合.....	50
[1]	格成分に起こる場合.....	50
[1-1]	ガ格に起こる場合.....	51
[1-2]	ヲ格に起こる場合.....	52
[1-3]	ニ格に起こる場合.....	53
[2]	述語成分に起こる場合.....	55
5.1.1.3.	倒置文.....	56
[1]	格成分に起こる場合.....	57
[1-1]	ガ格に起こる場合.....	57
[1-2]	ヲ格に起こる場合.....	59
[1-3]	デ格に起こる場合.....	61
[2]	述語成分に起こる場合.....	62
5.1.2.	名詞が2つ以上の場合.....	64
5.1.2.1.	主節に起こる場合.....	64
[1]	格成分に起こる場合.....	64
[1-1]	ガ格に起こる場合.....	64
[1-2]	ヲ格に起こる場合.....	77
[1-3]	ニ格に起こる場合.....	78
[1-4]	デ格に起こる場合.....	82
[1-5]	ト格に起こる場合.....	86
[1-6]	ノ格に起こる場合.....	87
[1-7]	無助詞に起こる場合.....	90
[2]	述語成分に起こる場合.....	92
5.1.2.2.	従属節.....	101
[1]	格成分に起こる場合.....	101
[1-1]	ガ格に起こる場合.....	101
[1-2]	ヲ格に起こる場合.....	105
[1-3]	ニ格に起こる場合.....	110

[1-4]	デ格に起こる場合.....	111
[1-5]	ト格に起こる場合.....	113
[2]	述語成分に起こる場合.....	114
5.1.2.3.	倒置文.....	117
[1]	格成分に起こる場合.....	117
[1-1]	ガ格に起こる場合.....	117
[1-2]	ヲ格に起こる場合.....	119
[1-3]	ノ格に起こる場合.....	123
[1-4]	無助詞に起こる場合.....	124
5.1.3.	話者間反復(N)の制約について.....	125
5.2.	動詞が反復される場合.....	127
5.2.1.	動詞が1つの場合.....	127
5.2.1.1.	主節に起こる場合.....	127
[1]	述語成分に起こる場合.....	127
5.2.1.2.	従属節に起こる場合.....	137
[1]	述語成分に起こる場合.....	137
5.2.1.3.	倒置文に起こる場合.....	140
[1]	述語成分に起こる場合.....	140
5.2.2.	動詞が2つ以上の場合.....	145
5.2.2.1.	主節に起こる場合.....	145
[1]	述語成分に起こる場合.....	145
5.2.2.2.	従属節に起こる場合.....	167
[1]	述語成分に起こる場合.....	167
5.2.2.3.	倒置文に起こる場合.....	171
[1]	述語成分に起こる場合.....	171
5.2.3.	話者間反復(V)の制約について.....	173
5.3.	形容詞が反復される場合.....	175
5.3.1.	形容詞が1つの場合.....	175
5.3.1.1.	主節に起こる場合.....	175
[1]	述語成分に起こる場合.....	175
5.3.1.2.	従属節に起こる場合.....	183
[1]	述語成分に起こる場合.....	183
5.3.1.3.	倒置文に起こる場合.....	184
[1]	述語成分に起こる場合.....	185
5.3.2.	形容詞が2つ以上の場合.....	189
5.3.2.1.	主節に起こる場合.....	189

[1] 述語成分に起こる場合.....	189
5.3.2.2. 従属節に起こる場合.....	193
[1] 述語成分に起こる場合.....	193
5.3.2.3. 倒置文に起こる場合.....	194
5.3.3. 話者間反復(A)の制約について.....	194
6. まとめ	195
6.1. 話者間反復の形態的な制約について.....	195
6.2. 話者間反復の統語的な制約について.....	196
6.3. 話者間反復の談話的な制約について.....	196
6.4. 話者間反復について.....	197
7. 問題点・今後の課題.....	198
7.1. 会話データに関する問題.....	198
7.2. 話者間反復に関する問題.....	198
7.2.1. 合成語の話者間反復について.....	198
7.2.2. S_2 の考察について.....	203
7.2.3. 複数回反復される話者間反復について.....	203
7.2.4. 話者間反復の繰り返しについて.....	205
7.2.5. 集中的に起こる話者間反復について.....	207
7.2.6. 副詞の話者間反復について.....	209
7.2.7. 話者間反復の定義について.....	210
7.2.8. 話者間反復と感動詞について.....	211
7.3. 話者間反復と最適性理論に関する問題.....	212
7.3.1. 倒置文に起こる話者間反復について.....	212
7.3.2. 話者間反復の優先順位について.....	216
7.3.3. 話者間反復の制約と生起環境について.....	219
8. おわりに	222
参考文献	223
謝辞	227
【付録】	229
【付録1】 言語調査に関する話者承諾書	229
【付録2】 話者間反復の会話データ	229
【付録3】 言語調査の会話データ	229

1. はじめに

1.1. 研究動機・目的

日本語自然会話においては、以下のような様々な反復現象が多く見られる。

- (1) A: べちよべちよの雪が、薄っすら
- (2) A: 天気は万能やな、天気は万能
B: そう天気の話しとけば、うん、何とかなる
- (3) B: やばいこと言っても
A: やばいことってないじゃん
- (4) A: さすがにそれを着ていった、長はいない
B: 長はいない、でも間違えてスカート着て来たバイトの先輩はおる
- (5) A: でも冬の方が好きやわ
B: え？そうなん？
A: うん、だって夏暑いもん
B: いや冬は寒いやん
- (6) A: 雨と一緒だよ
B: 同じですよそりゃ

まず、反復される要素の言語単位によって分類すると、(1)の「べちよ」、(2)の「天気」、(3)の「やばいこと」、(4)の「長はいない」のような、形態素、語、句、文の反復がある¹。次に、(2)では、話者Aは自分の発話「天気は万能」を反復している、話者Bは話者Aの発話の「天気」を反復している。すなわち、誰の発話を反復するかによって分類すると、一人の発話内での反復と、異なる話者間で起こる反復がある。また、(2)、(3)、(4)のようなもとの発話にすぐ続いて反復するものと、(5)の「冬」が反復されるような、離れて出現するものがある。これは反復が起こる位置によって分類するものである。最後に、反復の形によって分類すると、(2)、(3)、(4)、(5)のような同じ形での反復と、(6)の「一緒だよ」と「同じですよ」のような異なる形での反復が現れる。

¹ 「べちよ」のような形態素が繰り返されることは「重複」と呼ばれることが多い。「べちよべちよ」のような単語は「疊語」、あるいは「重複語」と呼ばれる。これらは会話上には現れるが、本稿で扱う会話レベルでの反復とは異なるものである。

これらの反復現象は「繰り返し」、「反復」と呼ばれ、従来一括して研究されてきた。特に会話分析の研究分野では、「繰り返し」と呼ぶことが多いが、「反復」と「繰り返し」が区別されて扱われることは見られない。

しかし、様々な反復現象の中には、反復される要素の言語単位、反復する発話の話者、反復が起こる位置、反復の形などが異なるため、これらの反復現象を厳密に区別して扱う必要がある。そこで、本稿では以下のような反復に焦点を当てる。

- (7) C: かなり材料を買いまして家から一步も出なくていいぐらいのずっと料理して(うん)食べて、皿洗って、料理して、食べて、(うん)皿洗ってみたいなのんびりとした生活がこう繰り返されているというか、まあちょっと鼻水が花粉症できつくて
- D: ああ、俺も花粉症、この前山口県庁に行って、山口県庁って山で囲まれてるから

(7)では、話者Cの発話の末尾文にある「花粉症」が話者Dの発話の冒頭文に現れていることが観察される(下線部参照)。これは話者をまたいだ反復であり、話者Cの発話の直後の文で、語が反復されている。本稿では、このように、ある話者の発話の末尾文にある要素が、次の話者の冒頭文に反復される現象を「話者間反復」と呼び、これを対象とする。

従来反復現象に関する研究は、コミュニケーション上の働きなど、機能面を扱うのが主であった。しかし、機能的な観点だけからでは、(7)で、「鼻水」にも話者間反復が起こりうるが、なぜここは「花粉症」だけに話者間反復が起こるのかという問題について、十分な解答が得られない可能性がある。

そこで、本稿では、日本語自然会話を対象とし、「先行発話のどの要素が選択されて話者間反復が起こるのか、なぜ特定の要素だけが選択されて話者間反復が起こるのか」という問題を解明することを目的とし、形態的・統語的・談話的な観点から複合的に記述していくことを目指す。話者間反復の現象を同時にこれら3つの観点から記述したものは管見の限りないことから、新たなアプローチによって、この現象に潜む仕組みを解明できるのではないかと考える。

より具体的には、この3つの観点から観察することで、話者間反復が起こる要素が選ばれる際に、どのような制約が存在するのか、制約同士はどのように相互作用しているのかを明らかにしたい。制約同士の相互作用によって、特定の要素が選ばれて話者間反復が起こるのではないかという仮説を立てて検証していく。このように考えることによって、「なぜ特定の要素だけが選ばれて話者間反復が起こるのか」という問題の解決に至ることができるのではないかと考える。

1.2. 本論文の構成

ここでは、本論文の構成を述べる。本論文は8章から構成される。各章の詳細は以下のと

おりである。

第1章「はじめに」では、研究動機・目的を述べ、各章の内容を簡潔に説明する。

第2章「先行研究」では、反復に関する先行研究、および話題・トピックに関する先行研究を記述する。

第3章「本論文の立場」では、本稿の研究対象となる「話者間反復」の定義、および本稿の分析方法となる「最適性理論」について詳しく説明する。

第4章「会話データについて」では、言語調査による会話データ、およびBTSJコーパスによる会話データを述べる。具体的には、調査方法、会話データの概要・書式・文字化などについて示す。

第5章「分析」では、「名詞が反復される場合」、「動詞が反復される場合」、「形容詞が反復される場合」という3つの節に大きく分けて、形態的・統語的・談話的な観点から分析していく。それぞれ話者間反復の形態的・統語的・談話的な制約を仮定し、検証していく。

第6章「まとめ」では、第5章の分析結果を踏まえて、形態的・統語的・談話的な制約についてそれぞれまとめる。

第7章「問題点・今後の課題」では、残された問題点について述べる。

第8章「おわりに」では、研究意義と今後の展望について述べる。

2. 先行研究

本章では、「反復」「繰り返し」に関する先行研究、および「話題」「トピック」に関する先行研究について述べる。

2.1. 反復・繰り返しに関する研究

まず、本節では反復および繰り返しに関する先行研究を見てみる。

2.1.1. 日本語の会話における研究

まず、日本語の会話における反復・繰り返しに関する先行研究として、中田(1992)、田中(1997)、松田(1998)、杉山(1998)、杉山(2002)、岡部(2003)、メイナード(2005)、伝(2007)、竹田(2017)が挙げられる。本節では、これらの研究で、どのような反復・繰り返しを研究対象とするのか、どのような結論まで至ったのかを見ていく。

2.1.1.1. 中田智子(1992)

中田(1992)は、会話における発話の繰り返しがコミュニケーション上の方策としてどのように機能しているかを考察している。ここでは、分析用の事例を以下のようなタイプに分類している。

- 【誰の発話のくり返しか】 自身の発話のくり返し
他者の発話のくり返し
- 【出現のタイミング】 もとの発話にすぐ続くもの
多少離れて出現するもの
- 【くり返しとしての形状】 以下の六種類に分類を試みた。
 - 再現型(ほぼ同じ形でくり返す)
A「頼もしいねえ」 B「ほんと、頼もしいねえ」
 - 一部変更型(多少の変更を加えてのくり返し)
「収益はあがんねえやナー。たしかに収益は上がりませんよ」
 - 補足型(くり返す際に何かをつけ足す)
「点数にならない……つまり、出した札以外は点数にならない。」
 - 言い換え型(意味を保持してことばを言い換える)
A「Gパンと綿シャツばかり着てからに」 B「同じもんばかり着て」
 - 要約型(内容をまとめた形でくり返す)
「300キロまで走れてね……アノー日曜ですと六千円になります……エー300キロまで六千円ね」
 - 対句類
「あその女中さんの行儀のええこと、お客に対して態度のええこと」

(cf. 中田 1992:272-273)

また、会話における発話の繰り返しがコミュニケーション上の方策として果たす機能として、以下の7つのカテゴリーを設定している。

関說的機能	対象を指示する機能。何かを述べたり情報をやりとりしたりするような伝達内容重視のコミュニケーションを助けるはたらき。
心情的機能	会話における話者の心情や態度を表現するはたらき。
動能的機能	指示や説得のように会話の相手に直接的な影響を与える(与えようとする)はたらきかけに関わる機能。
交話的機能	ことばのやりとりによる接触関係を保つ上での機能。
詩的機能	音やリズム、ことば遊びのような効果をあげるはたらき。
メタ言語的機能	相手の言ったことばの意味を尋ねるなど、言語そのものについて言及する機能。
談話構成的機能	談話の構造表示や運営に関わるはたらき。

(cf. 中田 1992:273)

以上の7つのはじめの6種は、Jakobson(1960)による言語の機能として同様のものが提唱されているため、繰り返しに特化した機能とは言い難い。7つ目の「談話構成的機能」には、「結束の表示」「発言・話題の収束」「話題の呼び戻し」「話の筋の修正」が挙げられる。「話題の収束」「話題の呼び戻し」という機能は、会話上のある内容を繰り返すことによって実現される。繰り返された内容は「話題」と関連していると言えるだろう。この点は、本研究の「どの要素が選ばれて反復されるのか」という問題に繋がっていると考えられる。

中田(1992:300)は、繰り返すという行為が会話の方策として果たす機能を種類別に記述した上で、「くり返しのタイプ(誰の発話をくり返すか、出現のタイミング、再現の形状)によって用いられる目的や表現効果にも違いがある」と述べたが、繰り返しの機能面しか考察していない。

2.1.1.2. 田中妙子(1997)

田中(1997)は、以下のような「くりかえし」を研究対象としている。

〈くりかえし〉の具体的な形式としては、次の四つが考えられる。

(1)相手の発話の一部(または全部)をそのままの形で繰り返す。

例) A: 私は東京で生まれたんです。

B: あ、東京。

(2)相手の発話の一部(または全部)を形をやや変え、繰り返す。

例) A : 私は東京で生まれたんです.

B : あ, 東京生まれ.

(3)相手の発話の一部(または全部)に助詞・助動詞を加えて繰り返す.

例) A : 別に急ぐ必要はありません.

B : 急ぐ必要はありませんよね.

(4)相手の発話の一部(または全部)を形をやや変え, に助詞・助動詞を加えて繰り返す.

例) A : 別に急ぐ必要はありません.

B : 急ぐことはないですよ.

(中略)ここでの〈くりかえし〉は語形・意味の面で先行発話とほぼ同一の表現であるものという程度に定義にておく.

次に, 本稿の研究対象としての〈くりかえし〉は以下のような条件を伴うものとする.

(a)会話の相手の発話を繰り返した表現である.

(b)事柄的な情報量としては会話の相手の発話に加えるものがない.

(cf. 田中 1997:49)

田中(1997)は, テレビ番組を文字化した資料を利用し, 以上のような「くりかえし」が, 対人的にどのような機能を持ち, また会話の展開上どのような役割を果たしているかを考察している。その結果, 以下のような結論に至った。

(1) 〈くりかえし〉は, それによって相手に事柄的な情報を提供することはできないが, 受け取った情報に対する様々な心的反応を相手に伝達するという機能を持っている。

(2) 〈くりかえし〉を会話の流れの一部として捉えると, 上記(1)の機能を利用して会話を先へ進めようとする意識的な働きかけが〈くりかえし〉発話にも見られる。

(3) 〈くりかえし〉は会話の展開上, 相手の発話方向を決める, 自分の発話を進めるといふ二つの役割を果たす。後者の場合, 〈くりかえし〉は相手から発話権を得る, 相手の発話を利用して自分の発話を補う。相手の発話に自分の発話を合わせる, ということのために行われる。

(cf. 田中 1997:66)

以上より, 田中(1997)は「くりかえし」の機能面だけを考察している。

2.1.1.3. 松田文子(1998)

松田(1998)が考察する反復表現の範囲は、以下のようである。

本稿で考察する反復表現の範囲は、Tannen(1989)に倣って(1)自分が発話した要素の反復(以下自己反復)と(2)相手が発話した要素の反復(以下他者反復)の双方を扱うこととし、反復表現の起こる位置についても、(3)元の発話にすぐ続く反復(以下直前反復)と(4)元の発話と反復との間に他の発話は挟まれる反復(以下非直前反復)を対象とした。なお、「関連語句群」をどこまで分析の対象とするかについてはTannenと同様に意味の尺度で捉え、「類義語」の範囲までとした。「指示表現」は反復の対象とし「省略」は今回は扱わないことにする。また「言う」「ある」「いる」などのような文脈においても頻出し文脈の特徴的な語句とはなりえないようないわゆる「無性格語」は対象から外した。

(cf. 松田 1998:61-62)

松田(1998)は反復表現の機能を分類するにあたり、「情報量の変化」という観点から機能分類を試みている。

反復表現がきっかけとなって情報量を増やしコミュニケーションの流れを先へと進める機能「進展機能」、情報量そのものは変わらないが反復表現がコミュニケーションの流れを支える役割を果たす機能を「補強機能」とした。

(cf. 松田 1998:63)

松田(1998)の「進展機能」は、田中(1997)の「会話を先へ進めようとする意識的な働きかけ」と似ているのではないかと考えられる。また、松田(1998)も反復表現の機能しか考察していない。

2.1.1.4. 杉山ますよ(1998, 2002)

杉山(1998)は、テレビ番組の情報提供場面において、ゲストと進行役の会話に見られる繰り返しの特徴と機能を観察している。ここで扱われる「繰り返し」は、以下のように広くとらえられている。

ここで扱う「繰り返し」は広くとらえ自分の発話の「繰り返し」と相手の発話の「繰り返し」を対象とした。形状も先行する発話をそのまま再現したものだけでなく、意味を保持した言い換えや要約も「繰り返し」とした。

(cf. 杉山 1998:47)

杉山(1998)は、中田(1992)の「繰り返し」の機能を7つのカテゴリーに分類するものをもとに、進行役とゲストの発話に見られる繰り返しの機能と相違点を探った。その結果、杉山(1998:57)は、「情報の重要性、種類や時間的制約など様々な要因が「繰り返し」の機能の出現に影響を与えていることがわかった」と述べている。

また、杉山(2002)では、「対談タイプ」「実演タイプ」「講義タイプ」という3種類のテレビ番組を対象とし、繰り返しの形状、位置関係の分布と機能の関係について分析している。杉山(2002)で扱う「繰り返し」の範囲は、杉山(1998)と同じである。以下のような分析結果が得られている。

- (1) 比較的短めな再現型の直後分布に情動的な表出がみられる。特に自己の発話のくり返しに顕著にみられた。
- (2) 要約型、対句型以外では他者のくり返しであいづちの働きがみられた。あいづちは素早い相手への反応を示すので、どの形状でもくり返しの単位は比較的短く直後分布であった。
- (3) 補足型ではあいづちは簡単なくり返しの後に感想などを付け加えるものもとの発話とくり返しの間に感想などを挟むものが観察された。この両者の構造が自己のくり返しとなると、補足説明となる。「自己のくり返し」でも「他者のくり返し」でもくり返しの後に話が続いていくパターンは話題の展開の機能を果たし、もとの発話とくり返しの間に挟まれる情報量が多い場合は話題の収束がみられた。
- (4) 理解の強化は特に言い換え型、要約型、対句型によくみられた。
- (5) 複数のキーワード、フレーズなどがある談話内に数回くり返されることによってある話題が継続中であることが明示される。つまりどのような内容の話が継続しているかがわかる。

(cf. 杉山 2002:84-85)

ここで注目したいことは、(5)の「複数のキーワード、フレーズなどがある談話内に数回くり返されることによってある話題が継続中であることが明示される」ということである。杉山(2002:69)は、この繰り返しが「談話の運営に関わるくり返し(話題の継続、話題の展開、話の収束、話のまとまりの表示、話の呼び戻し、話題提示)である」と述べている。すなわち、繰り返される要素は話題、あるいは話題と関連するキーワード、フレーズなどである。ここは、本稿の「どの要素が選ばれて反復されるのか」という問題に繋がっていると考えられる。

杉山(1998, 2002)は、すべてテレビ番組の言語資料を対象とし、限られた場面の会話での繰り返しの機能面しか考察していない。

2.1.1.5. 岡部悦子(2003)

岡部(2003)は、日本人高校生と高校留学生を対象にし、課題解決場面における、繰り返しの対人関係調節機能の考察を試みた。

岡部(2003:103)では、「直前の他者発話のすべて、あるいは一部を、同様のイントネーションで再現している部分を「くり返し」と考える」のである。

また、岡部(2003)での課題解決場面のデータにおける繰り返しの機能を大きく「思考の共有」、「感情の共有」、「情報の共有」に分けている。さらに、「思考の共有」と「感情の共有」を「「内側」の認識の共有」にまとめ、「情報の共有」を「「外側」の情報の共有」にまとめる。日本人生徒同士の会話と、日本人生徒と留学生の会話に、この2種類の繰り返しの出現頻度を比較することで、繰り返しの対人関係調節機能が異なることを述べている。

しかし、岡部(2003)は、課題解決場面という限られた場面における、異なるペアの会話での繰り返しの機能面しか考察していない。

2.1.1.6. 泉子・K・メイナード(2005)

メイナード(2005:171)は、繰り返しはトピックの管理とディスコースの結束性を実現すると論述している。それは、ある要素をトピックとして繰り返すことで、「トピックを設定したり、相手のトピックを受けて維持したり、トピックを展開したり、そのトピックについて質問したりという談話上の機能である」。ここでは、以下のような会話例を挙げている。

瀬名：ねえ。

南： は？

瀬名：空にさ。

南： 空？

瀬名：空に星あるじゃん。

南： はい。

瀬名：あれってさ、星がキラキラ光って見えるのって、まわりに暗い部分があるからでしょ、闇っていうか。

南： うーん、確かに昼間星って見えないもんね。

瀬名：星を輝かせるために存在する闇? (#)俺ってそんな感じかな。

(cf. メイナード 2005:171)

すなわち、ある要素はトピックとして取り上げられ、繰り返される。これは本稿の研究対象となる「話者間反復」と、「どの要素が選ばれて反復されるのか」という問題に関連していると考えられる。しかし、メイナード(2005)では、繰り返しの範囲について言及されていない。

2.1.1.7. 伝康晴(2007)

伝(2007)は、頻出する語句の繰り返しと語句の言い換えに焦点を当て、その形態的・音響的特徴を比較した。その結果、繰り返し型には置換型にない以下のような特徴が見られることを指摘した。

繰り返し型と置換型でさまざまな形態的特徴の違いが見られた。まず、繰り返し型は、置換型よりも発話単位中の早い位置で生起し、とくに発話単位冒頭で生じる割合が置換型よりも高かった。これは、語句の繰り返しが冒頭付近で果たされるべき何らかの機能と結びついている可能性を示唆する。

次に、文節途中や語中での中断率の比較から、繰り返し型は文節途中や語中で中断する割合が高かった。置換型にはこのような偏りは見られなかった。

(cf. 伝 2007:117)

音響的特徴に関しても繰り返し型と置換型でさまざまな違いが見られた。

まず、中断区間の休止は繰り返し型・置換型のいずれでも相当数観察され、とくに繰り返し型では置換型と比べて中断区間休止長の長いものが比較的多かった。これに対して、修正部分直後の休止はいずれのタイプでもほとんど観察されなかった。このことは、分析データの選定基準にも起因するが(修正部分直後が文節としてつながっていることが多い)、非流暢性の機能とも関係しているように思われる。

(cf. 伝 2007:123)

さらに、繰り返し型の形態的・音響的特徴は、「繰り返し型の主たる機能が流暢な発話産出の実現とその準備に時間を取ることの「事前の弁解」であると考えられる」と伝が論じている(2007:128)。

2.1.1.8. 竹田らら(2017)

竹田(2017)では、「反復」を以下のように定義している。

本論のキーワードである「反復」とは、同じ話者やことなる話者の発話について、「びっくりしたこと」「びっくりしたこと」のように、前の発話をそのまま繰り返すか、「買って」「買った？」のように、前の発話の時制を変えたり、その一部を取り出したりするなど、部分的に繰り返す行為である。このうち、同じ話者が前の発話を繰り返すことを自己反復(self-repetition)と言い、異なる話者が前の発話を繰り返すことを他者反復(allo-repetition)と言う。

(cf. 竹田 2017:71)

竹田(2017:77)は、「自由対話」と「課題達成談話」という2種類のジャンルに見られる反復を分析し、「強調・次の発話への足がかり・共感・焦点の明確化といった機能があること、また、ジャンルや参加者間の関係に応じて、反復の機能や出方に違いがあることを明らかにした」。そこで、反復によってもたらされる表現的側面での協調性と文脈的側面での協調性について、以下のように論じている。

この協調性は、他者の発話に注意を払って参加者同士の関わり合い(involvement)を高めるといふ、Tannen(1989)が論じる反復の性質につながり、落合他(二〇〇六)が指摘する「話し手のリズムに調和することによって、同調を促す機能」(三〇頁)や、わかりあうためには、他者反復のように「相手とまったく同じことを言えばよい」(菅原一九九六、二八二)という考え方が反映された、表現的側面での協調性である。

一方で、本論では自己反復にも着目したが、相手に対する同調や驚きの強調・次の発話への足がかりという機能は、発話の中で何が強調され、何に焦点があてられているのかをより明確にして、参加者間で内容や気持ちを共有しやすくすることで、一緒にインターアクションを進めることができる。そこから、前述の表現的側面での協調性とは別の、文脈的側面での協調性を有していると考えられよう。

(cf. 竹田 2017:77)

以上、日本語の会話における反復・繰り返しの研究を見てみた。総じて言えば、多種多様な反復現象が区別されないまま研究されるものが多く、ほとんどのものは反復・繰り返しの機能面に関する研究である。

以下は日本語の文章(書き言葉)における研究を見ていく。

2.1.2. 日本語の文章における研究

次に、日本語の文章における反復の研究として、佐久間(1993)、小林(1998)、塩澤(2005)が挙げられる。反復のレトリック機能についての先行研究には中村(2003)がある。以下では簡潔に説明していく。

日本語の文章における反復の研究について、佐久間(1993)は、文脈展開形態の代表的なものとして挙げ、反復表現は2つ以上の文をつなぐ働きをする言語形式であると論じている。小林(1998)は、結束的連鎖の枠組みに基づいて、語の繰り返しを用いることにより、文章構造に反映される仕組みについて検討した。塩澤(2005)は、コラムを分析資料として、文章に現れる語句の繰り返しの機能を検討し、繰り返しは文章を展開させる方策として、「初出の話題を進める」「話題の展開」「話題を終了させる」などの機能を果たしていると述べている。

反復のレトリック機能について、中村(2003)は、反復はレトリックの表現技法であるとして、リズム感を呼び起こし、韻律関係の機能を果たすと主張している。

2.1.3. 日英両言語における対照研究

また、日英両言語における反復・繰り返しの対照研究として、牧野(1980)、落合・植野・野村(2006)、町(2010)がある。以下では簡潔に説明していく。

牧野(1980)は、日英両言語を対照しながら、かなり広範な角度から反復現象を観察し、会話だけではなく、文章における反復についても、言語的・非言語的反復についても、その構造・意味機能を探った。

落合・植野・野村(2006:30)は日本語と米語の自由会話を比較し、「日本語の繰り返しは米語よりも即行的・密着的に行われ、あいづち同様、話の「場」を盛り上げる役割を果たす。このような日本語のあいづちと繰り返しは、聞き手が話し手のリズムに同調することによって、同調を促す機能を持つ」と述べている。

町(2010:57)は日英会話を用いて、「日本語話者の方が英語話者よりも頻繁に他者の発話を繰り返す」、「日本語話者は主観性を含む語句を頻繁に繰り返し、それらを通して共感や同意をする」、「英語話者は客観的事実を多く繰り返し、それらを話題に対する質問・回答・確認に用いる」ことを論じている上で、二言語間では繰り返しのメカニズムが異なることを明らかにした。

2.1.4. 日本語母語話者と非母語話者の比較研究

日本語母語話者と非母語話者の対照研究については、森恵・前原・大浜(1999)、福富(2010)がある。以下では簡潔に説明していく。

森恵・前原・大浜(1999)は、「問い」と「繰り返し」を談話展開に必要なターン譲渡の方略として、日本人に問いが、留学生に繰り返しがそれぞれ多用されることを明らかにし、日本人と留学生のターン譲渡の働きかけには違いがあると述べている。

福富(2010)は、日本語母語話者と日本語学習者の会話に現れた繰り返し発話について分析し、その違いと特徴を考察している。そのうち、日本語母語話者と日本語学習者、日本語学習者の初級と中級、それぞれでの繰り返し発話の機能別の使用状況が異なることが分かった。

以上、様々な場面での反復・繰り返しに関する研究を見てみた。以上の先行研究の中で本稿と深く関わるのは、会話レベルでの反復・繰り返しの研究である。会話レベルの先行研究において、本稿の「どの要素が選ばれて反復されるのか」という問題に繋がっているのは、中田(1992)、杉山(2002)、メイナード(2005)である。この3つの研究には、「話題」に関連する要素、「トピック」となる要素が繰り返されるといえる考えが共通している。以下では、「話題」「トピック」に関する先行研究を見ていく。

2.2. 話題・トピックに関する研究

次に、本節では話題およびトピックに関する先行研究を見てみる。

「トピック」は会話レベルにおいて、「話題」と呼ばれることもある。前節の中田(1992), 杉山(2002), メイナード(2005)は, 「話題」に関連する要素, 「トピック」となる要素が繰り返されると述べているが, 「話題」「トピック」の定義については言及されていない。会話における「話題」「トピック」の定義を論じた先行研究として, メイナード(1993), 串田秀也(1997), メイナード(2005), 庵功雄(2007), 三牧陽子(2013), 大谷麻美(2018)が挙げられる。以下では, それぞれの研究で「話題」「トピック」がどのように定義されているのかを見ていく。

2.2.1. 泉子・K・メイナード(1993, 2005)

メイナード(1993)では, トピックを次のように定義している。ここでは「テーマ」という用語が使われているが, トピックと同義である²。

テーマとは句または命題(proposition)の形で表現される枠組で, その枠組に情報が関係づけられるもの, またはその枠組内に命題が当てはまるものの場合を言う。テーマはFSPの原則にのっとって旧情報から新情報へという情報の流れを提示することにより, 談話にテーマを軸とする結束性を与えるものである。

(cf. メイナード 1993:127)

メイナード(1993)は, この定義に従って, どのように会話の中でテーマを確定するのかについて以下のように述べている。

(1) (F7 : アナウンサーの仕事)

(1.1) A : A テレビか/

(1.2) でも^レアナのことだよね/

(1.3) ^レアナ。/

(1.4) B : うーんまたこの前とっしよだから2千人位いるんじゃないかな。/

ここでAが(1.1)~(1.3)を発話した時点では, 会話のテーマは存在しない。Aが提示している情報をBがまだどう受け止めるか判断できないからである。実際Aの発話(1.1)~(1.3)の中の要素がどれでも会話のテーマに発展する可能性を持っていると言える。しかし「^レアナ」が2度繰り返されていること, そして強調のアクセントをもとなっていること等により, アナウンサーの概念が, 前景化されていることは確かである。つまり(1.1)~(1.3)は「^レアナ」がテーマとして選ばれるのを期待して表現さ

² メイナード(1993 : 46)によると, 「FSPとは, テーマとレマという2つの異質の情報が, 組み合わせられるというその性格故に, 文の情報構造を理解し, その情報がどんな視点から表現されているのかを認知し, ひいては文の意味理解のために役立つ一つの枠組であると考えたら良いと思う」と述べている。

れた発話であると言える。これを「アナ」が「テーマ向け前景化」されたケースと呼ぼう。この「テーマ向け前景化」に答えてBが(1.4)を発話する。Bは「アナ」という名詞は使わないが、(1.4)の意味内容を理解するためには「アナウンサーの仕事」という解釈が必要となるので(1)の会話部分でAとBが共有し、(1.1)から(1.4)が意味上含まれる枠組は「アナウンサーの仕事」ということになる。話者Bは(1.4)でAの期待に答えて「アナ」の概念をテーマの枠組とし、更にそれをテーマと設定し、続いてその展開へとすすんでいく。ここで会話上のテーマ選択、及びテーマ設定には話者同士の合意と協力が必要であり、それは相手を与える情報を組み入れ、しかもFSPの原則に従って、旧情報に相手が新情報を付け加えるプロセスを通して展開していくものであることが分かる。このプロセスをまとめると、1. 「テーマ向け前景化」を含む情報提供をする話し手の順番取り 2. それに答えて、相手がテーマの設定をする順番取りの2つの段階を経ることがわかる。

(cf. メイナード 1993:127-128)

また、メイナード(2005:65)は、コミュニケーションの場において、「機能面からとらえると、トピックとは既知の、またはすくなくともそのコンテキストから知ることができる情報で、談話の起点となる要素である」と述べている。

2.2.2. 串田秀也(1997)

串田(1997)は、「トピック」が以下のような特性を持つものであると述べている。

それは、「それについて話されているところのもの」と言い換えられるような何かであるが、同時に、この一言で表現しきれないさまざまな性質を有している。例えば私たちは、「話題がとぎれた」ので何か「話題を探す」とか、相手に合わせて「話題を選ぶ」とか、「話題についていこう」とするけどどうも「ついていけない」というような形で、それを経験する。トピックとは、これらのフレーズで表されるような、豊富な彩りを備えた観念である。

これらの彩りのなかでも、とりわけ基本的だと思われるのは、会話のトピックが、明確な単位として区切ることのできない「流れ」という特性をもつことである。「話題が途切れる」とか「話題についていく/ついていけない」といったフレーズは、このことを端的に示している。そして、単位性をもたないということは、それが情報伝達ないし意味伝達という観点からは、捉えきれない現象であることを示唆する。

他方、「話題を選ぶ」「話題を探す」などのフレーズに示されるように、トピックは選択可能な「要素」という特性をもつものとしても、経験されるようである。(中略)
「探す」「選ぶ」のはたんなる要素ではなく、いわば「流れを構成しうる要素」だといえよう。

会話のトピックは、たんに発話(群)の意味理解という働きの一環として現れるだけでなく、ある発話の後に一定範囲の発話を連鎖させることを促進すると同時に制約もする、という規範性を帯びたものとして現れてくる。上に挙げたいくつかのフレーズは、いずれもこうした規範性を暗示しており、それを一言でいえば「流れに乗って流れを作れ」ということになろう。1つひとつの発話は、この流れを参照することによって行われうるが、他方で、この流れ自体は発話と発話の連鎖を通じて作り出される。トピックとは、伝達されるものではなく、このような循環的営みを通じて会話者たちが相互行為的に作り出す「規範性を備えた流れの様式」なのである。

(cf. 串田 1997:175-177)

2.2.3. 庵功雄(2007)

庵(2007)は、指定指示で使われる「この」「その」がテキスト送信者(話し手/書き手)による先行詞の捉え方の違いに応じて使い分けられることとトピックの関連性を述べる際に、「トピック」を以下のように規定している。

「トピック(topic)」という語は文レベルでの主題—題述(topic-comment)構造における「主題」を指す語として使われることもあるが、本書ではこの語をそれとは異なるテキストに付けた「題(title)」を意味するものとして用いる。具体的に定義すると次ようになる。テキストの内容を1名詞句で要約する時、その名詞句をそのテキストの「トピック」、トピックを構成する意味上の諸要素の中で、特に重要度の高いものをそのトピックと関連性が高い名詞句と呼ぶ。

(cf. 庵 2007:93)

2.2.4. 三牧陽子(2013)

三牧(2013)は、初対面場面で話題選択がどのように行われるのか、また、ある話題から後続話題への転換という側面から、談話におけるポライトネスを考察する際に、「話題」を以下のように規定している。

「話題」は談話レベルにおける概念である。会話の中で導入、展開された内容的に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その発話の集合体に共通した概念を「話題」とする。さらに、メイナード(1993)と同様、会話参加者の相互協力によって話題の枠組みが設定され、話題が選択され、展開すると考える。つまり、参加者の一方が話題候補を会話の中に導入しても、例えば相手があいづちだけでその内容をそれ以上取り上げなければ、単なる情報提供とし、「話題」とは認定しない立場をとる。

(cf. 三牧 2013:167)

2.2.5. 大谷麻美(2018)

大谷(2018:98)は、日本語とオーストラリア英語の初対面会話において、会話参加者がどのように話題を連鎖、展開させているのかを分析し、比較する際に、串田(1997)の定義にのっとり、話題を「会話の中で話されることで、参加者たちの相互行為を通じて関連性を保ちつつも移り変わるもの」と定義している。

以上、「話題」「トピック」の定義を論じた先行研究を見た。話題・トピックを定義する際には、会話に対して、第三者の観察者として定義するのか、あるいは聞き手の立場に立って定義をするのかによって、大きな違いがある。本稿では、後者の立場をとる。すなわち、ある話者が話者間反復の要素を選ぶ際に、この話者は自分の発話が行われる直前の発話までしか聞いていないことから、何が話題であるのかは、その直前の発話の時点でしか話者は認知できないと考える。先行研究においては、前者の立場をとるものがほとんどであるが、本稿で議論する話者間反復においては後者の立場をとらなければならない (cf. 【3.2. 分析方法】)。

「話題」という用語は会話分析で多用されている。また「トピック」という用語は会話だけではなく、文中の要素を表す場合もあるので、混同を避けるため、本稿の談話的な観点からの考察では、「話題」という用語を用いて定義していく。

3. 本論文の立場

本章では、本稿の研究対象および分析方法について述べる。

3.1. 研究対象

まず、本稿の研究対象となる「話者間反復」について述べる。

以下、話者間反復についての定義を示すとともに、それが指す範囲についても設定していく。話者間反復を(8)のように統語的に定義する。

(8) 話者間反復の定義:

話者 A の発話の末尾文 S_1 に含まれる X と、話者 B の発話の冒頭文 S_2 に含まれる Y が、同じあるいは類似している場合、 X と Y は話者間反復の関係にある。

A: (…) $\overset{S_1}{\dots X \dots}$
B: $\overset{S_2}{\dots Y \dots}$ (…)

まず、 S_1 と S_2 を規定する。 S_1 と S_2 は文であり、単文や複文が含まれる。単文は1つの節で成り立っている文であり、複文は2つ以上の節で成り立っている文である。節は、1つの述語とそれが要求するいくつかの成分から成り立っており、主節と従属節に大きく分けられる。しかし、以下のような場合がある。

(9) A: 服も高いし
B: いや、だって服っておかしくない、だってさ

(9)で、Aの発話「服も高いし」のような場合は、白川博之(1990, 1996, 2001, 2008, 2009)の考えに従い、従属節のみで終結した「言いさし文」と見なす。すなわち、(9)のような場合は従属節ではなく、単文として扱うことにする。また、(9)では、「服も高いし」は S_1 であり、「服っておかしくない」は S_2 である。 S_1 と S_2 の間に感動詞「いや」や接続詞「だって」が挟まれているような場合があるが、本研究では感動詞や接続詞は文あるいは文の一部とは見なさない³。

通常、発話にはいくつかの文が含まれている。しかし、(9)のように、話者Aの発話には一文しかない場合がある。この場合、その一文が「末尾文 S_1 」となる。また、話者Bの発話に一文しかない場合、その一文が「冒頭文 S_2 」となる。

次に、 X と Y を規定していく。 X と Y は単語である。「 X と Y が同じ」というのは、両者の形式が同一であることを示している。一方、「 X と Y が類似している」というのは、両者の

³ 接続詞は独立語として、文を連結させる要素であるため、文の一部と見なさない。感動詞は会話において独立的に使われ、他の語と特定の統語的關係を持たない要素であるため、文の一部と見なさない。現時点ではこれらは話者間反復に関与しないと考えているが、今後の課題である。

形式の一部が同一であることを示している。「X と Y が類似している」場合とは、具体的には(10)の①～⑦のような場合が含まれる。

(10)

①「酒」～「お酒」などのような、名詞とそれに対応する「お」「ご」がつく美化語の場合。

E: 酒と向き合う時間

F: あ、お酒がメインか、やっぱ

②「分かる」～「分かります」, 「買いました」～「買った」などのような、動詞の普通体と丁寧体の場合。

F: 次々、次の問題はー、みたいな、ああ、あれは分かるか

E: 分かります分かります

E: なるんか、いやPSvitaは出たときに、買いましたね

F: あ、vitaは買った?

③「見失った」～「見失う」, 「すごかった」～「すご」などのような、動詞・形容詞の過去形と非過去形の場合。

J: うん、見失ったわ

I: ね、逆に見失うね

U: 土田すごかったよ

W: すご、見た

④「言って」～「言う」, 「入って」～「入った」などのような、動詞の中止形と非過去形・過去形、および動詞とそれに対応するアスペクト形式(～ている)の場合も含む。

J: うん、で、なんかおばさんが怖いって言って

I: うん、なんかやっぱ言うよね

D: 僕だと、なんかペーパーで模試があったんやけど、トップテンに入ってね

C: そうやね、入ったよね、一応ね

⑤「起きる」～「起きろ」などのような、動詞の断定形と命令形の場合。

A: 絶対干そう、頑張って起きる

B: 起きろ、今日はじゃあ早く寝んにやな、明日部活はおるんやろ?

⑥「降った」～「降ってた」、「空いてる」～「空いとる」などのような、動詞とその方言的な表現の場合。

B: ああ、山口大学、今日なんか午前中は微妙に降ったよね

A: 降ってた降ってた、うちさ2コマ行ってさ、帰る時、降ってた、もうビショビショになりながら帰った

D: 一週間以上空いてるんじゃないかな?

C: けっこう空いとるんやね、え? どう? 最近何しとる?

⑦「出してきた」～「出した」、「分からんくなってきた」～「分からん」、「教えて」～「教えてもらいました」などのような、移動の方向や恩恵的事態を表す補助動詞などがつく場合。

A: あー、もう出してきた?

B: うん、出した出した出したよもちろん

J: 高いけどなんか、最近感覚が分からんくなってきた

I: うん、分からん、なんか、最近

U: 教えて

W: あれもUさんに教えてもらいましたからねー

また、以下のような場合は話者間反復として扱わない。

(11) D: うん

C: うん、やっぱ覚えるのも難しいのかなっていう、ちょっと思うね、踏みとどまる理由では、あるかなって感じがするね

(12) I: うん、分からん、なんか、最近

J: なんか、だって、服とか、1回買ったらさ

(13) I: 自己幸福覚?

J: 自己幸福覚?

(14) H: いや, 店員さん

G: 店員さん?

(11)の「うん」は感動詞, (12)の「なんか」は言いよどみ, (13)はオウム返し, (14)は単純な聞き返しであるが, これらのような相づち的な発話の反復は話者間反復とは見なさない。

なお, 記述を簡潔にするために, 以下は「話者間反復」を単に「反復」と表現する。従って, (8)のXは「反復される」要素と呼ぶことにする。

以上, 話者間反復の関係にある S_1 と S_2 , X と Y を規定した。ここから分かるように, (8)の定義は, 「ある話者の発話の末尾文にある要素と, 次の話者の冒頭文にある要素が一致(類似)している場合」という環境を持っている。従って, 「話者間反復は, この環境で起こる」ということを定式化しているに過ぎない。しかし, 重要なことは, S_1 の要素 X が何であるか, なぜ X が選ばれて反復されるのかということである。この問題を解明することが, 本稿の目的である。そのため, 最適性理論(Optimality Theory)の考え方を応用する。次節では, 最適性理論の考え方を説明する。

3.2. 分析方法

まず, 会話データの分類方法を説明する。本稿では, 話者間反復が S_1 のどこに起こるのかによって, 会話データを構造的に分類し分析していく。まずは話者間反復が S_1 の主節・従属節, 倒置文に起こるという3つの場合に大きく分ける。また, それぞれの下位分類として, 格成分と述語成分に起こる場合に分ける。格成分に起こる場合は, さらにガ格・ヲ格・ニ格・デ格・ト格・ノ格・無助詞に起こる場合に細かく分類する。このように分類することによって, 会話データを明瞭にまた網羅的に扱うことができると考える。

次は, 本稿で適用する「最適性理論」の考え方を論じる。

制約を理論の中心にすえる最適性理論は, 言語現象を規則ではなく, 制約同士の相互作用によって記述しようとする。プリンス・スモレンスキー(2008)は最適性理論について以下のように述べている。

提案の核心は, 入力に対するどの分析(出力候補)が対立し合う条件の集合をもっともよく満たすか—あるいはどれがもっとも違反が少ないか—を正確に決定する方法である。ほとんどの入力に関して, 考え得る分析のどれもが多くの制約に違反することになるであろう。文法は, これら全ての分析を, 制約の集合全体をいかによく満

たしているかによって評価し、そのリストの中で一番上位となった分析が最適(optimal)であると宣言する。そのような分析は、文法によってその入力に対する出力と指定される。文法的に適格な構造とは、この意味において最適なものにほかならない。

与えられた入力に対して、どの分析が相反する適格性の条件の集合をもっともよく満たしているかを、文法はどのように決定するのであろうか。最適性理論(Optimality Theory)は、ある制約の遵守よりも絶対的に優先されるように指定できるという、制約の相互作用に関する、概念的には単純だが驚くほど奥の深い考え方に基づいている。文法の用いる相互対立の解決手段は、制約を厳密優位性階層(strict domination hierarchy)にランク付けすることである。どの制約も、階層上でその制約より低くランク付けされた制約に対して絶対的な優位性をもっている。

(cf. プリンス・スモレンスキー2008:4)

また、最適性理論では、最適性の計算は「制約のタブロー」と呼ばれる。ただし、最適性理論の考え方と本稿での考え方と大きく異なる点は、前者では、例えば音韻部門(phonological component)であれば、音韻的制約同士だけの相互作用を考慮しているのに対し、後者では、部門(component)を超えた制約同士の相互作用を仮定していることである。そのため、後者では、前者で用いられているような制約のランキングについては、現時点では導入していない。

一例を挙げると、最適性理論は以下のように適用される。まず、(15)の会話データが得られたとする。

(15) A: あーなるほど、え?じゃあ夏とか短パンでいいじゃん

B: 短パンはちょっと良くないかも(笑)

(15)では、「夏とか短パンでいいじゃん」が S_1 であり、その文中の「短パン」が反復されている。しかし、ここで疑問が浮かぶ。なぜ「夏」は反復されないのだろうか。 S_1 内で、「短パン」と同じ名詞としての「夏」が反復されることも可能である。すなわち、 S_1 にあるどの名詞でも反復される可能性があり、 S_1 内の名詞がすべて候補になる。そして、これらの候補の中から、ある制約によって、最終的には最適な候補が選ばれて反復される。以上が、本稿の考え方である。

話者間反復のような反復現象では、反復される要素が1つに限定されるわけではなく、どの要素も反復される可能性があると考えられる。このような現象を記述する場合、ルールのアウトプットを1つに限定する従来のルールに基づく考え方では、説明できない。そのため、複数のアウトプットの候補を容認する最適性理論を採用するのである。

そして、最適性の計算は、反復をする話者の脳/心(brain/mind)内で行われる。すなわち、

(15)の話者 B が、ある制約によって、話者間反復に関する最適性の計算を行う。従って、話者 B の脳/心内にどのような制約が入っているのかを解明しようとすることになる。

4. 会話データについて

本稿では、以下のような2種類の会話データを利用する。

- 筆者独自で行った言語調査による会話データ
- 『BTSJ 日本語自然会話コーパス(トランスクリプト・音声)2018年版』(宇佐美まゆみ監修(2018)。以下、「BTSJ コーパス」と呼ぶ)による会話データ

本章では、それぞれの詳細について説明する。

4.1. 言語調査による会話データ

まず、本節では筆者独自で行った言語調査による会話データについて説明する。

本稿では、日本語の自然会話における話者間反復を分析するために、日本語母語話者による会話調査を実施した。会話調査では、7本の会話を収集した。それらを「データ01」「データ02」…「データ07」とそれぞれ呼ぶ。被調査者の属性を含め、言語調査による各会話データの概要を【表1】に示す。

【表1】言語調査による会話データの概要

データ番号	話者(記号)	性別	年齢	調査日
01	A	女	20	2018年6月1日
	B	女	20	
02	C	男	21	2019年1月28日
	D	男	22	
03	E	男	20	2019年2月1日
	F	男	21	
04	G	女	19	2019年2月13日
	H	女	19	
05	I	女	20	2019年2月15日
	J	女	19	
06	K	男	20	2019年3月17日
	L	男	20	
07	M	女	22	2019年3月27日
	N	女	21	

【表1】に示したように、会話調査は、大学生(10代後半~20代)の友人同士の二者間、

男性ペア 3 組と女性ペア 4 組でそれぞれ行った。被調査者は計 14 人である。調査時間は各 30 分間である。調査の前に、被調査者に「話者承諾書」(【付録 1】を参照)を渡し、個人情報や会話データが記された資料は、厳重に保管すると説明し、調査への参加の同意をもらっている。調査者(筆者)は、会話のテーマは指示せず(自由会話である)、また調査時には同席していない。録音は iPhone 7 plus のアプリ「ボイスメモ」を使用する。

本稿では、言語調査による会話データを次のような書式で記す。

- 010054 B そうだよ、ジーパンでも、ズボンやったらなんでもいい、スカートはちょっとあれやけど
- 010055 A あーなるほど、え?じゃあ夏とか短パンでいいじゃん
- 010056 B 短パンはちょっと良くないかも(笑)
- 010057 A そうなん?

初頭にある 6 桁の数字は、個々の会話データの ID である。最初の 2 桁はデータ番号、次の 4 桁は発話番号である。その次にあるアルファベットは話者記号である。その次に、会話データを漢字仮名交じりで表記している。

また、言語調査による会話データの文字化の際には、次のような記号を使用する⁴。

- | | |
|------|---|
| , | [全角]ごく短いポーズを示す。 |
| ー | 音声の伸ばしを表している。 |
| ? | [全角]直前部分が上昇調の抑揚で発話されていることを示す。 |
| () | [半角]短く、特別な意味を持たない相づちは、()にくくる。 |
| # | [全角]聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。 |
| (笑) | 笑い声を表す。 |
| 「人名」 | 被験者のプライバシーを保護するために明記できない氏名を示す。また、各データでの出現順番によって通し番号をつける(例えば、「人名 1」、「人名 2」など)。 |
| 『 』 | [全角]本や映画などの題名のような固有名詞は、『 』でくくる。 |

4.2. BTSJ コーパスによる会話データ

次に、本節では BTSJ コーパスによる会話データについて説明する。

本稿では、会話データの種類を増やし、話者間反復を分析するために、宇佐美まゆみ監修(2018)の『BTSJ 日本語自然会話コーパス(トランスクリプト・音声)2018年版』から、7

⁴ 記号「()」、「#」、「『 』」は宇佐美(2019:16-17)を参照している。

本(女性3組, 男性4組)の日本語母語話者二人の自然会話のデータを抽出した⁵。言語調査の被調査者の属性と統一するために, 友人同士の同性大学生(10代後半~20代)の日本語自然会話を選択し利用する。BTSJ コーパスによる会話データの時間は各20分前後, 総時間149分(約2時間30分)である。BTSJ コーパスによる各会話データの概要を【表2】に示す。

【表2】 BTSJ コーパスによる会話データの概要

データ番号	話者(記号)	性別	年齢	時間数
08	JF092	女	20代	21分47秒
	JF093	女	20代	
09	JF094	女	20代	19分23秒
	JF095	女	20代	
10	JF096	女	20代	22分27秒
	JF097	女	20代	
11	JM001	男	10代後半から20代半ば	22分44秒
	JM002	男	10代後半から20代半ば	
12	JM013	男	10代後半から20代半ば	22分01秒
	JM014	男	10代後半から20代半ば	
13	JM015	男	10代後半から20代半ば	17分58秒
	JM016	男	10代後半から20代半ば	
14	JM019	男	10代後半から20代半ば	22分44秒
	JM020	男	10代後半から20代半ば	

BTSJ コーパスの会話データに使用される記号は, 宇佐美(2019)によると, 以下のようである。

- 。 [全角] 1 発話文の終わりにつける。
- ,, 発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。なお、入力の誤りを防ぐために、発話文が終了したラインには「*」、発話文が終了していないラインには「/」を、「発話文終了」の列に入れる。従って、「。」と「*」、「,,」と「/」の対応関係をチェックすることができるようにしてある。
- * 発話文が終了するごとに、「*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、

⁵ 『BTSJ 日本語自然会話コーパス(トランスクリプト・音声)2018年版』には, 合計333本, 総時間4746分24秒(約79時間)の会話が収録されている。このうち音声付きデータは203会話, 2402分22秒(約40時間)である。このコーパスに収録されている会話は, 会話参加者の年齢, 性別, 話者間の上下・親疎関係, 話題などが統制された形で収集されている。

- 発話文番号と発話内容 中の句点「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
- / 発話文が終了していないラインの「発話文終了」セルに記入する。発話内容中の「,、」と「/」の数は必ず一致する。
- 、 ① [全角] 日本語表記の慣例に従って読点をつける。
② [全角] 慣例として表記する以外に、語句の途中、或いは、語句と語句のあいだに短い間があった場合にも「、」をつけて、語句の発音がスムーズでなかったことを記す。
- ‘ ’ ① [全角] 複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘ ’に入れて示す。
② [全角] 通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、‘ ’の中に正式な表記をする。
- 『 』 [全角] 視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの、例えば、本や映画の題名のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明したような部分等は、『 』でくくる。
- “ ” [全角] 発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“ ”でくくる。
- ? 疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?、」をつける。
- ?? 確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
- [↑][→][↓] イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いて表す。
- 《少し間》 話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
- 《沈黙 秒数》 1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
- = = 改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける(ラッチング)。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「,、」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける。

- … 文中、文末に関係なく、音声的に言いよどんだように聞こえるものにつける。
- < > { < > } 同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{ < >の後に、}をつける。
- 【 【 】】 [全角] 第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【 【 】】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【 【 】をつける。第2話者の発話文の冒頭には【 【 】をつける。
- [] 文脈情報。その発話がなされた状況ができるだけ思いおこしやすくなるように、研究者の覚書として、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを[]に入れて記しておく。
- () 短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、()にくくって入れる。
- < > 笑いながら発話したものや笑い等は、< >の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑いが比較的是っきりと聞こえる場合は、「はははは<笑い>」のように記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話文中か、その発話文の最後に記し、その後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。
- (< >) 相手の発話の途中に、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、()とする。
- # 聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
- 「 」 [全角] トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

(cf. 宇佐美 2019:16-17)

また、BTSJ コーパスでは、「発話文」を基本的な分析の単位としている。本稿のS₁は発話文と異なるため、以下では、発話文の認定の違いについて説明する。まず、宇佐美(2019)では次のように説明されている。

BTSJ では、「実際の会話の中で発話された文」という意味で「発話文」という用語を用い、基本的な分析の単位とする。これは、日本語では、スピーチレベルの分析など、「文」単位でコーディングをする必要があるものが多いためである。




「発話文」の定義は、会話という相互作用の中における「文」とする。そして、

以下のように認定する。基本的に、ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるものを「1 発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1 語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1 発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という 2 つの要素が重要になる。

(cf. 宇佐美 2019:2)

BTSJ コーパスでは、1 発話文が終了したところに句点「。」をつける。しかし、本稿では、 S_1 は文であり、発話文ではないことを言っておきたい。 S_1 と発話文の違いは 2 つある。1 つ目は、「うん」などの感動詞、「なんか」などの言いよどみは、BTSJ コーパスでは発話文に含まれることがあるが、本稿では文の要素と見なさないことである。また、BTSJ コーパスでは相手の相づちを挟んでも、1 発話文とされているが、本稿では、相手の相づちを挟む場合、そこで文が一旦切れるものとする。2 つ目は、「あるある」のような間に何らかの要素を入れずに繰り返されている発話は、BTSJ コーパスでは 1 発話文と見なすが、本稿では 2 つの文と見なすことである。

また、以上の 2 種類の会話データを分析する際には、次のような記号も使用する。

	話者間反復の関係にある要素 X を含んでいる文 (S_1 を指す)。
	話者間反復の関係にある要素 (X と Y を指す)。
	統語的な制約によって選ばれる要素。
S	文
N	名詞
FN	形式名詞
V	動詞
A	形容詞, 形容動詞
P	後置詞(格助詞, 副助詞, 接続助詞)
Adv	副詞
FP	終助詞
CPL	コピュラ
NP	名詞句
VP	動詞句
AP	形容詞句
CP	従属節

なお、本稿では、代表的な会話データのみを挙げる。同じパターンを示すほかの会話データについては【付録2】を参照されたい。

5. 分析

話者間反復が起こる際に、以下のような場合が観察されている。

- 名詞が反復される場合
- 動詞が反復される場合
- 形容詞が反復される場合

本章では、これらを順に観察していく。

5.1. 名詞が反復される場合

本節では、名詞が反復される場合を分析していく。S₁内にある名詞の数によって、名詞が1つの場合と、名詞が2つ以上の場合に大きく分けて分析し、名詞が反復される場合の形態的・統語的・談話的な制約を立てて検証していく。

5.1.1. 名詞が1つの場合

本節では、名詞が1つの場合を分析していく。そして、話者間反復がS₁に起こる位置によって、次のような3種類が観察されている。

- 話者間反復が主節に起こる場合
- 話者間反復が従属節に起こる場合
- 話者間反復が倒置文に起こる場合

以下、これらを順に観察していく。

5.1.1.1. 主節に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が主節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 格成分に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が主節の格成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1-1] ガ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のガ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(16)を見られたい。

(16)

010686 B 話題ふらんけん会話が生まれないっていう状況になるよね、なったた

- 010687 A あーでもうちシーンてなつてたらさあ、なんか喋らなきやって思っちゃうから
 010688 B いやーそれは思う
 010689 A なんか今日は天気いいねとかそういうこと言う
 010690 B そうそうそう、私も天気いい、天気の話なんよね、そう
 010691 A 今日も疲れたねとか
 010692 B そうそうそう、同じやん
 010693 A 天気は万能やな、天気は万能
 010694 B そう天気の話しとけば、うん、何とかなる
 010695 A とりあえずさー、なんか10分ぐらいはもつよね
 010696 B なが、10分
 010697 A 今日の天気の話と来週の天気、先週の天気、洗濯の状況

(16)では、2箇所話者間反復が起こっている。まず、010693の発話のうち、「天気」が反復されている。「天気は万能」は主節であり、「天気」はガ格という格関係を持っている。なぜ「天気」が反復されるのかについて、形態的な観点、統語的な観点、談話的な観点からそれぞれ観察していく。

まず、形態的な観点から見ると、反復される「天気」は名詞である。そこで、次のような話者間反復(N)の形態的な制約を仮定する⁶。

(17)話者間反復(N)の形態的な制約：

文(S₁)を構成する要素の中で、名詞が反復される。

(17)では、形態的な情報のうち、品詞の情報を参照している。

次に、統語的な観点から見ていく。010693の話者Aの発話「天気は万能」の統語構造を(18)のように示すことができる⁷。

(18) [_{S1} [_{AP} [_{NP} [_N天気] [_Pは]] [_A万能]]]

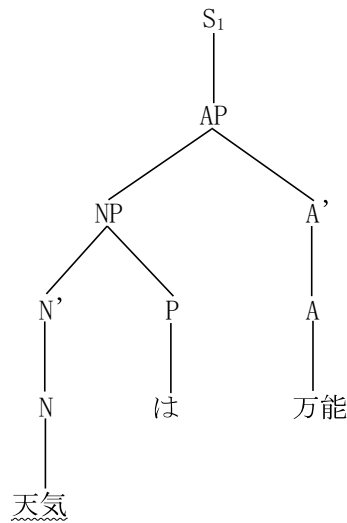
具体的に樹形図で示すと、(19)のようになる⁸。

⁶ 「話者間反復(N)の形態的な制約」の「N」は名詞を指す。

⁷ S₁の統語構造を示すには、句構造を角括弧でくくる方法を利用する。各統語範疇を左下付きで表示する。例えば、(18)では、「天気」は名詞であり、その左下に「N」をつける。しかし、「S₁」の「1」はこれより小さくすると見にくいので、「S」と同じ大きさにする。論文中の「S₁」と同じものである。また、S₁の統語構造を示すには、樹形図を利用する場合もある。

⁸ ここでは、生成文法理論(X'理論)で利用されている樹形図(tree)という表示方法を採用する。X'理論では、一般的に次のように説明される。「GB理論における普遍文法の下位理論の一つ。D構造(D-structure)に現れる統語範疇の種類、および、それらの範疇が結合して形成される句構造(phrase structure)が満たすべき特性を規定する原理とパラメータの体系を指す。標準理論(standard theory)の生成文法では、D構

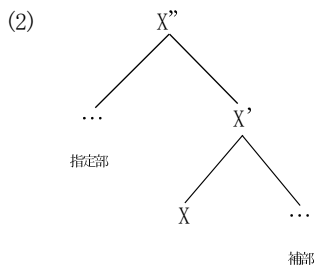
(19)



この樹形図から見ると、反復される「天気」はNに支配されている⁹。そこで、次のよう

造は、 $S \rightarrow NP \text{ Aux VP}$, $NP \rightarrow \text{Det N PP}$, $VP \rightarrow V \text{ NP}$ のような一組の句構造規則 (phrase structure rule) の適用により得られた構造に、語彙を挿入することによって形成されていた。(中略) 現在、一般的に仮定されている X' 理論の概要は次の通りである。まず、D 構造に現れる統語範疇の種類に関しては、語彙範疇 (lexical category) と非語彙範疇 (nonlexical category) を区別する。語彙範疇とは $[\pm N, \pm V]$ の素性の組み合わせによって規定される範疇であり、 $N ([+N, -V])$, $V ([-N, +V])$, $A ([+N, +V])$, $P ([-N, -V])$ の4種類がある。非語彙範疇は機能範疇 (functional category) とも呼ばれ、COMP, INFL, DET などが含まれる。これらの範疇が (1) に示す X' の式型に従って展開され、適格な D 構造が生成される。(2) は (1) によって生成される構造の図式したものである。

- (1) a. $X' = X X''^*$
b. $X'' = X''^* X'$ (Chomsky (1986b:3))



(2) の式型において、 $X(X^0)$ とも表記する) は語彙範疇を表し、 X' , X'' などの範疇の主要部 (head) と呼ぶ。 X''^* はゼロまたは1個以上の X'' が生起することを表す。 X' , X'' は主要部 X の投射であり、特に X'' を最大投射範疇 (maximal projection) と呼ぶ。一般に句と呼ばれるのは最大投射範疇のことを指す。 X'' は X^{\max} や XP と表記されることもある。(中略) また、 X' の同位要素 (sister) となる部分は指定部 (specifier)、 X の同位要素となる部分は補部 (complement) と呼ばれる。ただし、指定部、補部が主要部の左側に生ずるか、右側に生ずるかは言語によって異なりうるので、この部分はパラメータ (parameter) となっている。」(原口ほか編 2016:521-522)

⁹ 支配 (Domination) とは、次のように規定されている。「枝分かれ図において、節点 A が節点 B より高い位置にあり、かつ A から B へ下に向かって辿ってゆくことができるならば、A は B を支配すると言う。

な話者間反復(N)の統語的な制約を仮定する。

(20) 話者間反復(N)の統語的な制約：

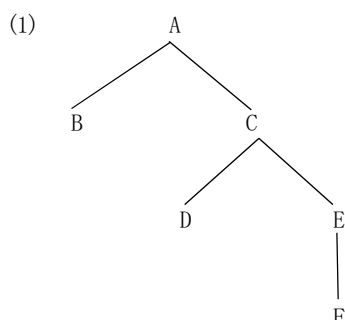
文(S_i)のNに支配されている要素が反復される。

最後に、談話的な観点から見ていく。談話的な観点では、先行研究で述べたように、「話題」が反復されるという考え方に従う。本稿では、会話の聞き手の立場から、「話題」を定義していく。すなわち、010694の話者Bが話者間反復の要素を選ぶ際に、010693の話者Aの発話までしか聞いていないことから、010694の話者Bは010693の発話までで、何が話題であるのかをすでにとらえているのである。そこで、三牧(2013)での「話題」の定義はより客観的であるため、それを引用する。しかし、三牧(2013)でも、第三者の観察者として定義したものである。従って、三牧(2013)のものを引用する際に、メイナード(2005)での「既知情報」も引用する。すなわち、「話題」は010693の話者Aにとって、すでに知っている情報である。以上により、「話題」を以下のように定義する¹⁰。

(21) 話題の定義

会話の中で導入、展開された内容的に結束性を有する事柄の集合体を認定し、ある既知情報がその発話の集合体に共通する場合、その既知情報を「話題」とする。

この会話データでは、「天気を話題とする」ことは、010689～010690の発話で話者Aと話者Bが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010686～010693という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、反復される「天気」が



例えば、(1)のAは他のすべての節点を支配している。CはD、E、Fを、EはFを支配している。しかし、BとDは、Fより高い位置にあるが、下へ向かってFへ辿ることができないから、BもDもFを支配しない。また、支配関係にある二つの節点の間に他の節点が介在しない場合を、直接支配(immediate domination)と呼ぶ。例えば、EはFを、AはBとCを直接支配している。」(原口ほか編 2016:152)

¹⁰ 「結束性」とは『言語学大辞典 第6巻 述語編』(1996: 899)で次のように述べられている。「談話は単なる文の集合ではなく、文と文(あるいは談話の部分と部分)との間に何らかの意味のつながり、連結性が認められるものである。このつながり、連結性を結束性(cohesion)という」。また「既知情報」は、会話では、話者が発話する時点までにすでに脳/心内に蓄積されている情報である。

話題の要素となっている。そこで、次のような話者間反復(N)の談話的な制約を仮定する。

(22) 話者間反復(N)の談話的な制約：

文(S₁)においては、話題となる名詞が反復される。

以上、名詞が反復される場合の形態的な制約、統語的な制約、談話的な制約を仮定した。それぞれの制約で選ばれた要素を【表3】のように分析する。分析する際には、最適性理論の表記法、すなわち「制約のタブロー」を採用する¹¹。

【表3】 (16)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 天気			

【表3】において、まず形態的な制約(17)が適用され、「天気」が候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用され、「天気」が候補として選ばれる。そして、談話的な制約(22)により「天気」が候補となる。「天気」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「天気」が反復されることになる。

一方、(16)の会話データではもう1箇所話者間反復が観察される。すなわち、010695の発話のうち、「10分」が反復されている。「とりあえずさー、10分ぐらいはもつよね」は主節であり、「10分」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表4】のようになる。

【表4】 (16)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 10分			*

【表4】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「10分」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。010695の話者Aの発話「とりあえずさー、10分ぐらいはもつよね」の統語構造を(23)のように示す。

¹¹ 最適性理論の表記法は、以下の通りである。3つの制約は一番上の行に並ぶ。反復される可能性のある候補は一番左の列に並ぶ。空欄は、当該の候補が当該の制約を満たしている（違反していない）ことを示す。記号「*」は、当該の候補が当該の制約に違反していることを示す。記号「☞」は、この候補が最も多くの制約によって選ばれるものであり、最適な候補を指し示す。記号「%」は、最適性理論では使われないが、本稿では、候補となる優先性が相対的に低いことを示す。

(23) [S₁] [VP [Adv とりあえずさー] [NP [N10分] [P ぐらいいは]] [V もつ]] [FP よね]]

Nに支配されている要素は「10分」である。「10分」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「天気を話題とする」ことは、010689～010690の発話で話者Aと話者Bが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010686～010693という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「10分」は談話的な制約に違反していることになる。

以上より、「10分」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「10分」が反復されることになる。

次に、(24)を見ていく。

(24)

- 020234 D 今日この後何かある？
- 020235 C いや、僕特にないです、クリーニング出しに行くくらいで、何？何？
- 020236 D いや、ちょっと気になったから
- 020237 C そういうこと？そういうこと？飯でも行くかみたいな感じ？
- 020238 D うん
- 020239 C ああ、おお、ちょっと時間早いけど
- 020240 D かな？
- 020241 C いや、俺は全然いいけど、どこ？どこ？
- 020242 D それが問題よね、どこか何も考えてないし
- 020243 C あ、そういうこと？(笑)
- 020244 D なんだろう、周りに(人名7)ちゃんみたいにここ行くぞみたいな人がいないから、みんなどこでもいいよみたいな
- 020245 C (笑)ね、わかります、わかります、どこ行くぞってないよね、かといって僕もないっていうのがあれなんですけど、ないんですよ
- 020246 D ない、どこでもいいって答え難しくない？
- 020247 C いや、確かに、いや、今、家の豆腐どうしようって今ちょっと
- 020248 D あ、じゃまた後日にする？
- 020249 C そうやね、でも後日って言って、集まります？
- 020250 D あつ
- 020251 C なんかもうせっかくこの会話の延長ができるんやったらどっかね
- 020252 D うん
- 020253 C ラーメンでも行ったらいいのかなっていう僕の感じなんですけども
- 020254 D うん

- 020255 C その千円，二千円も三千円も，飲みじゃないけね
 020256 D うん
 020257 C それでもいいのかな，僕はね
 020258 D ラーメンか？
 020259 C うん
 020260 D ラーメン行くんだったらどこ？どこがある？
 020261 C どこ？えー？どこやろう

ここでは，020260 の発話のうち，「どこ」が反復されている。「どこがある」は主節であり，「どこ」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表5】のようになる。

【表5】 (24)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ どこ			*

【表5】において，まず，形態的な制約(17)が適用され，「どこ」が名詞であるため，候補となる。次に，統語的な制約(20)が適用される。020260 の話者 D の発話「どこがある」の統語構造を(25)のように示す。

(25) [_{S1} [_{VP} [_{NP} [_N どこ] [_P が]]] [_V ある]]]

Nに支配されている要素は「どこ」である。「どこ」が候補となる。そして，談話的な制約(22)が適用される。「飯に行く」ことは，020237 の発話で話者 C が取り上げたことから，既知情報となっている。この既知情報は，020234～020260 という発話の集合体に共通しているので，これが話題となる。従って，「どこ」は談話的な制約に違反していることになる。「どこ」は唯一の候補であり，最も多くの制約が満たされているものとして，最適な候補となる。従って，実際の会話では，この最適候補である「どこ」が反復されることになる。

次に，(26)について述べたい。

(26)

- 447JM013 あ、でもあんときがんばってるって。
 448JM013 受験勉強にしろ(うん)、サークルにしろやっててさ、あー、サークルっつーか部活とか生徒会とかやってたから。
 449JM014 うん。
 450JM013 そこで歯止め効いてたんだけどさ。

- 451JM013 いまサークルもなんか、大学ってちょっとさ、ま、遊びじゃん。
 452JM014 まーね。
 453JM013 高校んときよりも。
 454JM014 うん。
 455JM013 ちょっと遊び>{<}。
 456JM014 <こう>{>}、あー、そういうかんね。
 457JM013 分かんない[小さい声で]=。
 458JM014 =おれは全然そういう会、はい、なに[ことばを探している感じ]。
 459JM013 入ってない?。
 460JM014 うん。
 461JM014 委員会とかそういうのは全然やってないからー。
 462JM013 なんか、で委員会って委員会じゃん、やっぱり。
 463JM013 い、い、仕事がある<じゃん>、なんか>{<}。
 464JM014 <仕事みたいな>{>}?。

ここでは、463JM013 の発話のうち、「仕事」が反復されている。「仕事があるじゃん」は主節であり、「仕事」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 6】のようになる。

【表 6】 (26)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 仕事			*

【表 6】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「仕事」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。463JM013 の話者 JM013 の発話「仕事があるじゃん」の統語構造を(27)のように示す。

(27) [_{S1} [_{VP} [_{NP} [_N 仕事] [_P が]] [_V ある]] [_{CPL} じゃん]]

Nに支配されている要素は「仕事」である。「仕事」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「高校と大学の違い」は、451JM013～453JM013 の発話で話者 JM013 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、447JM013～463JM013 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「仕事」は談話的な制約に違反していることになる。「仕事」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「仕事」が反復されることになる。

[1-2] ヲ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のヲ格に起こる場合の会話データを取り上げる。
まず、(28)を見られたい。

(28)

- 010307 B ああ、山口大学、今日なんか午前中は微妙に降とったよね
010308 A 降ってた降ってた、うちさ2コマ行ってさ、帰る時、降ってた、もうビショビショになりながら帰った
010309 B え、そんなに？
010310 A うん、そうそう、なんかなんか霧雨の強いバージョンみたいな
010311 B まじで？
010312 A 音がない雨みたいなやつが降ってた
010313 B あそうやったん？
010314 A うん
010315 B え、全然分からなかった
010316 A 朝はね、降ってなかった、2コマ行く時10時ぐらい
010317 B へー、まじか、全然
010318 A 今日何があったん？
010319 B 今日2コマあって(うん)だから3コマ目から実験やから
010320 A あーご飯食べてたんだ
010321 B ご飯、や今日は、あのレポートがあったから

ここでは、010320の発話のうち、「ご飯」が反復されている。「ご飯食べてたんだ」は主節であり、「ご飯」はヲ格という格関係を持っている。この「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表7】のようになる。

【表7】 (28)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ ご飯			*

【表7】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「ご飯」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。010320の話者Aの発話「ご飯食べてたんだ」の統語構造を(29)のように示す。

(29) [S₁ [VP [NP [N ご飯]] [V 食べてた]] [CPL んだ]]

Nに支配されている要素は「ご飯」である。「ご飯」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「今日の出来事」は、010318の発話で話者Aが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010318~010320という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「ご飯」は談話的な制約に違反していることになる。「ご飯」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ご飯」が反復されることになる。次に、(30)を見ていく。

(30)

- 467JM019 **】** <「サークル名1」>{}、最近どうなの?。
 468JM020 <なんかね>{} [ぼそっと]。
 469JM019 <うまい>{} こといってる?。
 470JM020 おれ、あ、最近集中で行ってないから。
 471JM020 うまいこと行ってんのかな、あれ。
 472JM020 よく分かんない。
 473JM019 なんか、こうまた愚痴言い合ったりしてんの?<2人で静かに笑う>。
 474JM020 愚痴は、ない、あだ。
 475JM020 なんだろうね、最近、あんのかなー。
 476JM020 たまに「人名7」が切れてる<2人で笑い>。

ここでは、473JM019の発話のうち、「愚痴」が反復されている。「こうまた愚痴言い合ったりしてんの」は主節であり、「愚痴」はヲ格という格関係を持っている。ここの「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表8】のようになる。

【表8】 (30)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 愚痴			*

【表8】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「愚痴」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。473JM019の話者JM019の発話「こうまた愚痴言い合ったりしてんの」の統語構造を(31)のように示す。

(31) [S₁ [VP [Adv こう] [Adv また] [NP [N 愚痴]] [V 言い合ったりしてん]] [FP の]]

Nに支配されている要素は「愚痴」である。「愚痴」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「サークル名1」は、467JM019の発話で話者JM019が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、467JM019～473JM019という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「愚痴」は談話的な制約に違反していることになる。「愚痴」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「愚痴」が反復されることになる。

[1-3] 二格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節の二格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(32)を見られたい。

(32)

- 040169 G 裏切者が、かわいい服欲しい、これ500円よ
040170 H (笑)言わんでいいやん、安すぎる(笑)
040171 G (笑)
040172 H どこで買ったん？AFRICA TARO？
040173 G AFRICA TARO
040174 H あはは、AFRICA TARO 様々やんマジ
040175 G そう、汚れがあるとかで500円つって
040176 H うん
040177 G フードのとこちょっと黒いんよ
040178 H へー
040179 G でもまあ、そんなもんかなって
040180 H え、AFRICA TARO のあの裏側の(笑)
040181 G 裏側の(笑)
040182 H やろ、薄暗いところ
040183 G え、めっちゃいいと思って、あっち接客もこんじゃん
040184 H そう、そう、そうなんよ、なんか照明が足りんような感じがするけど
040185 G マウンテンパーカー風
040186 H うん、いいね
040187 G 流行りにのっとるんよ
040188 H マウンテンパーカーって流行りなん？初めて聞いた

ここでは、040187の発話のうち、「流行り」が反復されている。「流行りにのっとるんよ」

は主節であり、「流行り」は二格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表9】のようになる。

【表9】 (32)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 流行り			*

【表9】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「流行り」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。040187の話者Gの発話「流行りにのっ取るんよ」の統語構造を(33)のように示す。

(33) [_{S1} [_{VP} [_{NP} [N流行り] [_Pに]] [_Vのつとる]] [_{FP}んよ]]

Nに支配されている要素は「流行り」である。「流行り」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「服」は、040169の発話で話者Gが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040169～040187という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「流行り」は談話的な制約に違反していることになる。「流行り」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「流行り」が反復されることになる。

[1-4] デ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のデ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(34)を見られたい。

(34)

- 010226 A あとは、もう大学辞めちゃった人もいるし
 010227 B あー
 010228 A ちゃんも行ってる人もいるよ、もちろん(笑)
 010229 B いや、(笑)そりゃそうやろ、それがほとんど、8割くらいそうじゃない？8割9割は、そりゃそうやろう
 010230 A 大変だなーみんな
 010231 B 嫌だなーもう単位めんどくさい、ほしいな単位、ただでくれんかな単位
 010232 A 単位なー、え、世界の銘酒辞典とかある
 010233 B 銘酒？お酒
 010234 A お酒
 010235 B お酒、今日飲もうかなー

010236 A 一人で?

010237 B 二人, だって誰も人おらんもん

ここでは、010236 の発話のうち、「一人」が反復されている。「一人で」は主節であり、「一人」はデ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 10】のようになる。

【表 10】 (34) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 一人			*

【表 10】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「一人」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。010236 の話者 A の発話「一人で」の統語構造を(35)のように示す。

(35) [_{S1} [_{NP} [_N 一人]] [_P で]]]

N に支配されている要素は「一人」である。「一人」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「お酒」は、010233 の発話で話者 B が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010232~010236 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「一人」は談話的な制約に違反していることになる。「一人」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「一人」が反復されることになる。

[1-5] ト格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のト格に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(36)を見られたい。

(36)

030364 F ジャゲームとかは、テレビゲーム

030365 E テレビゲームも、ね、しばらく小学校いくつかの時に、買ってもらいはしたんですよ、DS をね、ニンテンドーDS を

030366 F あーはいはいはい

030367 E あの、初期じゃないほうの、やたらなんか

030368 F Lite みたいなやつ?

030369 E そうそうそう

- 030370 F 重くねーやつだ
 030371 E 重くないやつでしたね
 030372 F はいはいはい
 030373 E あれを買ってもらって
 030374 F あれが初めて？
 030375 E うん
 030376 F ゲーム機デビュー
 030377 E あ、姉はゲームボーイが初めてでした
 030378 F はいはいはい
 030379 E 縦のやつ、縦のやつ
 030380 F 縦のやつ？あのパカパカで？
 030381 E いやじゃなくて
 030382 F カラー？
 030383 E カラー、いやこんぐらいの、なんかあのこういうやつです
 030384 F あの、スマホみたいな形
 030385 E そうそうそう
 030386 F カラーじゃない？カラーって言ってなかった？
 030387 E 全然、ゲームボーイって言ってました
 030388 F (笑) ゲームボーイなんだけど、姉はそうか

ここでは、030387の発話のうち、「ゲームボーイ」が反復されている。また、030387の発話のうち、「全然(言ってなかった)」「(言ってなかった)は省略されている)は一文であり、「ゲームボーイって言ってました」も一文である。「ゲームボーイって言ってました」は主節であり、「ゲームボーイ」はト格という格関係を持っている。この「って」は「と」と同じであり、引用を表す。

この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 11】のようになる。

【表 11】 (36)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ ゲームボーイ			*

【表 11】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「ゲームボーイ」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。030387の話者Eの発話「ゲームボーイって言ってました」の統語構造を(37)のように示す。

(37) [_{S1} [_{VP} [_{NP} [_N ゲームボーイ] [_P って]] [_V 言ってました]]]

Nに支配されている要素は「ゲームボーイ」である。「ゲームボーイ」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「ゲーム」は、030364の発話で話者Fが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030364~030387という発話の集合体に共通しているので、従って、「ゲームボーイ」は談話的な制約に違反していることになる。「ゲームボーイ」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ゲームボーイ」が反復されることになる。

次に、(38)を見ていく。

(38)

- 187JM019 **】** <じゃ、おれも>{ } 「サークル名 1」の飲み行こっかな=、,
 188JM020 =<まじで?>{ }。
 189JM019 <久し>{ }ぶりに。
 190JM020 来て。
 191JM020 もう、いやだ。
 192JM020 自分がいやだ、次の日の。
 193JM019 わかる、でも。
 194JM020 怖い=。
 195JM019 =ほんと、怖いよね。
 196JM020 最近、飛ばすと怖い。
 197JM020 昔はなかったけど。
 198JM019 今度ねー、なんかこう、また合コンみたいなね、しようかみたいな,,
 199JM020 ひ、比<文?>{ }。
 200JM019 <「大学名 1」>{ }の,,
 201JM020 「大学名 1」?=。
 202JM019 =1年生と。
 203JM020 1年生?。

ここでは、202JM019の発話のうち、「1年生」が反復されている。「1年生と」は主節であり、「1年生」はト格という格関係を持っている。この「と」は共同動作の相手を表す。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 12】のようになる。

【表 12】 (38)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 1年生			*

【表 12】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「1年生」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。202JM019の話者 JM019の発話「1年生と」の統語構造を(39)のように示す。

(39) [_{S1} [_{NP} [_{N1} 1年生] [_P と]]]

Nに支配されている要素は「1年生」である。「1年生」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「合コン」は、198JM019の発話で話者 JM019が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、198JM019～202JM019という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「1年生」は談話的な制約に違反していることになる。「1年生」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「1年生」が反復されることになる。

[1-6] ノ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のノ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(40)を見られたい。

(40)

- 86JM015 なんか、「人名 3」がさ、車もってんだけど(うん)、<それ>{<} 【。
- 87JM016 】<なん>{>}だっけ、プレ、プレセアだっけ？。
- 88JM015 あれはねー(うん)、つぶしちゃったんだよ、<事故で>{<}。
- 89JM016 <あ、そう>{>}なんだ。
- 90JM015 うん。
- 91JM015 廃車んなっちゃってー=。
- 92JM016 =事故ったんだ、あいつ。
- 93JM015 うん。
- 94JM015 なんか普通に、「地名 1」で、車にぶつかったら<しい>{<}<若干笑い気味に>。
- 95JM016 <あー>{>}、あそこほんと狭いからね。
- 96JM015 うん。
- 97JM015 駐車してる車になんか、曲がった瞬間に(うん)、こう、逆光が出たらしくてー(うん)、で、それで、その、<ま>{<} 【。

98JM016 **】** <見>{} えんくくて?>{}<{}>。
 99JM015 <見>{} えんくて。
 100JM016 うん。
 101JM015 そう。
 102JM015 がーって、普通に<笑い>,,
 103JM016 わーー。
 104JM015 駐車してる車にぶつかったらしくて、うん。
 105JM015 あそこ怖いもんな、確かに(うん)、夜とか。
 106JM015 狭いしさー(うーん)、し、明かりなくいしさー>{}<{}>。
 107JM016 <みんな、>{}むっちゃ飛ばすでしょ、<でも>{}<{}>。
 108JM015 <そう>{}<{}>そうそう<笑い>。
 109JM015 あそこ高速って名付ける意味分かんないね<2人で笑い>、普通に<笑い>。
 110JM016 結構あんま出せない、70 ぐらい,,
 111JM015 <怖いよね?>{}<{}>。
 112JM016 <しか出せな>{}<{}>いよね?。
 113JM015 や、俺もう 30 だよ。
 114JM016 あ、30<2人で笑い>。
 115JM016 <制限速度で>{}<{}><笑いながら>。
 116JM015 <もー、怖い>{}<{}>から、ほんと<笑い>。
 117JM015 怖くない?、<だって>{}<{}><笑いながら>。
 118JM016 <対向>{}<{}>車来るとうわーってなる<やつ>{}<{}>。
 119JM015 <そう>{}<{}>そうそうそう。
 120JM015 トラックとかも来るよ、たまに。
 121JM016 来る来る。
 122JM015 トラックとか[小さい声で]。
 123JM016 軽、あの、でかいやつじゃないけど(うん)、まーまーでかいのが来る。
 124JM015 おーおー。
 125JM015 なんか、結構怖いよね。
 126JM015 そこに自動車工場が<軽い笑い>あるんだよ<軽く笑いながら>。
 127JM016 あー、あるある、<ある>{}<{}>。
 128JM015 <うん>{}、SUZUKI の>{}<{}> **【**。
 129JM016 **】** <あの>{}、SUZUKI だね。

ここでは、128JM015 の発話のうち、「SUZUKI」が反復されている。「SUZUKI の」は主節であり、「SUZUKI」はノ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 13】のようになる。

【表 13】 (40)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ SUZUKI			*

【表 13】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「SUZUKI」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。128JM015の話者 JM015の発話「SUZUKIの」の統語構造を(41)のように示す。

(41) [_{S1} [_{NP} [_N SUZUKI] [_P の]]]

Nに支配されている要素は「SUZUKI」である。「SUZUKI」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「事故」は、88JM015の発話で話者 JM015が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、86JM015～128JM015という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「SUZUKI」は談話的な制約に違反していることになる。「SUZUKI」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「SUZUKI」が反復されることになる。

[2] 述語成分に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(42)を見られたい。

(42)

- 050484 I なんか、ポスター感出したいよね、なんか、ポスターじゃないけど
 050485 J うんうん
 050486 I なんか雑誌のあれみたいな、出来んかな、これじゃなんかちょっとさ
 050487 J うんうん
 050488 I ダメやん
 050489 J うん
 050490 I たて？自分を幸せにしたい、(人名 7)、選挙か、選挙ポスター
 050491 J あ、選挙ポスター、縦やな、字
 ……(中略)
 050565 J どうやってやるか
 050566 I とりあえず、まず開けて
 050567 J うん

- 050568 I 写真, 写真?
 050569 J 写真にする?それとも
 050570 I 普通に
 050571 J 文字だけとか?
 050572 I うん, いいよ, まず開けて
 050573 J (笑)なんか, やる?なんか
 050574 I (笑)
 050575 J (笑)あなたの未来, 応援します(笑)
 050576 I (笑)選挙やん, よし, で, 自己満足党?
 050577 J うん, おもしろい, やばいね, おもしろいね, おもしろすぎる, ちょっとやばいわ, やっぱ, 違うやろ
 050578 I 自己満党, 自己満足党, 自己満足党, カッコいい
 050579 J ね, (人名7)一票をよろしくお願いします, やろ?
 050580 I (笑)
 050581 J (人名7)一票を, でもいいわ, うん, いいじゃん
 050582 I いいね
 050583 J え, すごい, いいじゃん
 050584 I いいポスターやね
 050585 J うん, さすが, 国総やない?
 050586 I 国総, あー, やっちゃった, がんばれ, がんばれ

ここでは, 050585 の発話のうち, 「国総」が反復されている¹²。「さすが, 国総やない」は主節であり, 「国総」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 14】のようになる。

【表 14】 (42) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 国総			*

【表 14】において, まず, 形態的な制約(17)が適用され, 「国総」が名詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(20)が適用される。050585 の話者 J の発話「さすが, 国総やない」の統語構造を(43)のように示す。

(43) [S₁ [NP [Adv さすが] [N 国総]] [CPL やない]]

¹² 「国総」は山口大学の国際総合科学部のことである。

Nに支配されている要素は「国総」である。「国総」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「ポスターを作る」ことは、050484の発話で話者Iが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050484～050585という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「国総」は談話的な制約に違反していることになる。「国総」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「国総」が反復されることになる。

次に、(44)を見ていく。

(44)

- 364JM015 ぜひとも、打ち上げを<軽く笑う>。
365JM016 《少し間》え、何、こう、みんなー、店で飲むの?。
366JM015 んどーしようねー。
367JM015 <てか、なんか>{<} **【**。
368JM016 **】** <全員は>{>} 来ないじゃん、絶対。
369JM015 しかも声かけづらくない?、
370JM016 うん。
371JM015 やっぱり<笑い>。
372JM016 むっちゃかけづらい<笑いながら><2人で笑い>。
373JM016 僕は、『「JM015 あだ名」に言ってもらおう』(<笑い>)って<笑いながら><2人で笑い>。
374JM015 いや、だから、1人1人、“どう?、飲まない?”みたいな。
375JM016 ああ。
376JM015 とりあえず、「人名10」君は<軽い笑い>話しやすいから(うん)<笑いながら><<軽い笑い>>、でも「人名10」と3人だったらどうする?<笑いながら>。
377JM015 決行する?<笑いながら><<笑い>> [JM015の発話中も、JM016は笑っている]。
378JM015 どうする?。
379JM016 いや、それはありだと思うよ。
380JM015 あー、あー。
381JM016 うん。
382JM015 あ、「JM016 あだ名」的にはありなんだ=。
383JM016 =うん。
384JM015 じゃあ、おれ途中で帰るね(<軽い笑い>)<笑い>。
385JM016 マンツー?<笑いながら>。
386JM015 マンツー<笑いながら>。

- 387JM015 かた、<語っちゃって>{<>軽い笑い}。
- 388JM016 <普通に>{>}、あれじゃん。
- 389JM015 うん?。
- 390JM016 「人名 12」ちゃんとかを呼べば、女の子はみんな、来るでしょ?、多分。
- 391JM015 でも、女の子って(あ)、「人名 12」ちゃんと「人名 13」さんしかいない?。
- 392JM016 あ、そっか。
- 393JM016 <あと一、「人名 14」>{<>}。
- 394JM015 <「人名 14」はちがう>{>}でしょ?、もう…。

ここでは、393JM016 の発話のうち、「人名 14」が反復されている。「あと一、「人名 14」」は主節であり、「人名 14」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 15】のようになる。

【表 15】 (44)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 「人名 14」			*

【表 15】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「人名 14」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。393JM016 の話者 JM016 の発話「あと一、「人名 14」」の統語構造を(45)のように示す。

(45) [_{S1} [_{NP} [_{Adv} あと一] [_N 「人名 14」]]]

Nに支配されている要素は「人名 14」である。「人名 14」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「打ち上げ」は、364JM015 の発話で話者 JM015 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、364JM015~393JM016 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「人名 14」は談話的な制約に違反していることになる。「人名 14」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「人名 14」が反復されることになる。

5.1.1.2. 従属節に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が従属節に起こる会話データを取り上げる。

[1] 格成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節の格成分に起こる会話データを取り上げる。

[1-1] ガ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節のガ格に起こる会話データを取り上げる。
まず、(46)を見られたい。

(46)

- 37JM015 今日から、車が帰ってくるのよ。
 38JM015 修理に出してたの=。
 39JM016 =あー、そっかそっか。
 40JM015 うん、バン<パーがさ><{} 【。
 41JM016 】【<結構かか><{}>った、1万とか言ってたっけ?。
 42JM015 うんうんうん。
 43JM016 てかね、でもね、バンパー以外ではっきりい直したとこ、いっぱい[→]。
 44JM015 中、中だよ、<むしろ><{}>。
 45JM016 <うーん><{}>。
 46JM015 うん。
 47JM015 <でも><{} 【。
 48JM016 】【<エンジン><{}>ジンがやばいと思う】。
 49JM015 あー、エンジン…、あー、そっか。
 50JM015 <なんか><{} 【。

ここでは、48JM016の発話のうち、「エンジン」が反復されている。「エンジンがやばいと」は従属節であり、「エンジン」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 16】のようになる。

【表 16】 (46)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ エンジン			*

【表 16】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「エンジン」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。48JM016の話者 JM016の発話「エンジンがやばいと思う」の統語構造を(47)のように示す。

(47) [S₁ [CP [AP [NP [Nエンジン] [Pが]] [Aやばい]] [Pと]] [S [VP [V思う]]]]

Nに支配されている要素は「エンジン」である。「エンジン」が候補となる。そして、談話

的な制約(22)が適用される。「車の修理」は、37JM015～38JM015の発話で話者JM015が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、37JM015～48JM016という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「エンジン」は談話的な制約に違反していることになる。「エンジン」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「エンジン」が反復されることになる。

[1-2] ヲ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節のヲ格に起こる会話データを取り上げる。まず、(48)を見られたい。

(48)

- 24JM013 そうそう、留学生のさ(あ、あ)、あったじゃん。
25JM014 あんあん。
26JM013 あれさ、せ、説明聞いた?、お前。
27JM014 うまい具合に話題作ったね<軽い笑い>。
28JM013 <大きな笑い>お前は、だって<笑いながら>、普通に聞きたかったの、この話は。
29JM014 あ、そうなの<軽く笑いながら>。
30JM013 留(あん)学の(あん)、あれ、おま、あれ分かる?。
31JM014 何が?。
32JM013 あれだけ見て[↓]。
33JM014 全然分か<んないよ>{<}。
34JM013 <<笑い>分か<ん>{<}ないよね<笑いながら>。
35JM014 <つか>{<},,
36JM013 <説>{<}明で何か言ってた?。
37JM014 <せつ>{<},,
38JM013 <日本>{<}語だろ?。
39JM014 うん、日本人が普通に説明してたけど、な、なーんだっけな、なんか、とにかく、大変だよ=。
40JM014 =とにかく情報を集めてどうのこうの<って>{<}。
41JM013 <あー>{<}、それは書いてあった<よね>{<}。
……(中略)
77JM013 何分ぐらい、何分ぐらい?[伸びをしながら聞いている様子]。
78JM014 覚えてない、そんなの<軽い笑い>。
79JM014 とにかく、あー、終わって結構すぐに###が始まったから、そんなもん。

- 80JM013 ふーん。
- 81JM014 だから、そいで一、なんだなん、なんつーの、あ、[咳払い]、もう結局、なんか大変なんだな一つつのは分かったなー、(く笑い)みたいな。
- 82JM014 <軽い笑い>俺としてはく笑いながら。
- 83JM014 とにかく、情報を集めろっていう。
- 84JM013 でも、情報とか無理じゃねー？。

ここでは、83JM014の発話のうち、「情報」が反復されている。「とにかく、情報を集めろって」は従属節であり、「情報」はヲ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表17】のようになる。

【表17】 (48)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 情報			*

【表17】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「情報」が候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。83JM014の話者JM014の発話「とにかく、情報を集めろっていう」の統語構造を(49)のように示す。

(49) [S₁ [CP [VP₁ [Adv とにかく] [NP [N情報] [Pを]]] [V集めろ]]] [Pって]] [S [VP₂ [Vいう]]]

Nに支配されている要素は「情報」である。「情報」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「留学の説明」は、24JM013~26JM013の発話で話者JM013が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、24JM013~83JM014という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「情報」は談話的な制約に違反していることになる。「情報」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「情報」が反復されることになる。

[1-3] 二格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節の二格に起こる会話データを取り上げる。まず、(50)を見られたい。

(50)

- 060191 K 夏休みに俺そんなバックパッカーじゃないけど、なんか普通にバックパッカーみたいなこと友達とするんよ、二人旅で(うんうん)、タイ、ラオス、ベトナム

- に行くかもって考えてる
- 060192 L 今回？
- 060193 K うん，中国に行く前にね
- 060194 L お，いいね
- 060195 K 俺，べつに正直に言ってそんなに乗り気じゃなかったけど(うん)，その人がなんかその一人じゃ怖いけんって言って(うんうん)，(人名6)アジアいっぱい行っとるけん，いっしょ行こうって言われて
- 060196 L いいね
- 060197 K で，行くけど，でも正直ね，楽しもう
- 060198 L (笑)楽しみよ
- 060199 K 心配なのはお金やね，やっぱ
- 060200 L まあまあでも
- 060201 K それかかるけど，中国にもし留学行ったときにどうなるやろって思ったり，まあ多分大丈夫
- 060202 L どこやったかな，ベトナムじゃなくて
- 060203 K タイ？
- 060204 L どっかどっかねアライバルビザとらんといけんかった気がする
- 060205 K カンボジア，カンボジアね
- 060206 L カンボジア，そう，それがめんどくさいよね，飛行機使わんといけんし
- 060207 K やけんね，カンボジアはずして
- 060208 L あ，行かんのか
- 060209 K そうそう，ベトナム行ってももう三回目やしね，行きたくなかったけど，でも ホーチミン行ってくれるって言ってたけん，まだいいかって思って
- 060210 L ホーチミンが下？

ここでは，060209 の発話のうち，「ホーチミン」が反復されている。「ホーチミン行ってくれるって」は従属節であり，「ホーチミン」は二格という格関係を持っている。この格助詞「に」は移動の到達点を表し，格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 18】のようになる。

【表 18】 (50) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ ホーチミン			*

【表 18】において，まず，形態的な制約(17)が適用され，「ホーチミン」が名詞であるため，候補となる。次に，統語的な制約(20)が適用される。060209 の話者 K の発話「ホーチ

ミン行ってくれるって言ってたけん、まだいいかって思って」の統語構造を(51)のように示す。

(51) [_{S1} [_{CP1} [_{VP1} [_{CP2} [_{VP2} [_{NP} [_N ホーチミン]]] [_V 行ってくれる]]] [_P って] [_V 言ってた]] [_P けん]] [_S [_{VP3} [_{CP3} [_{AP} [_{Adv} まだ] [_A いい]]] [_{FP} か]] [_P って] [_V 思って]]]]]

Nに支配されている要素は「ホーチミン」である。「ホーチミン」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「友達との二人旅」は、060191の発話で話者Kが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060191~060209という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「ホーチミン」は談話的な制約に違反していることになる。「ホーチミン」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ホーチミン」が反復されることになる。

[2] 述語成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節の述語成分に起こる会話データを取り上げる。まず、(52)を見られたい。

(52)

- 225JF094 <キャンプしたーい>{>。
226JF095 すっごいひさしぶり。
227JF094 ほんと?。
228JF095 うん。
229JF094 <子供の時以来?>{<。
230JF095 <え、じゃあの、「JF094 愛称」ちゃん>{>、今年の夏はふた、2回行くの?、キャンプ。
231JF094 去年も2回行った<笑い>。
232JF095 うっそ<笑い>。
233JF095 <元気だなー>{<。
234JF094 <ほんと、ただ今年>{>、3回だと思う。
235JF095 はあ?=
236JF094 =日にちさえ合えばね。
237JF095 まー<じでー?>{<。
238JF094 <うーん>{>。
239JF095 3回?。
240JF094 うーん。

- 241JF094 《沈黙 2 秒》そこに一去年の一(〈笑い〉)バイトの仲間で行ったんだ〈笑いなが
ら〉。
……(中略)
257JF095 あっ、あたしも行こうかなー。
258JF095 毎週週末キャンプとか####>{<}〈笑い〉。
259JF094 <わけわかんない>{<}〈笑いながら〉。
260JF095 <なんか>{<}。
261JF094 <てか週末やったら>{<}疲れる。
262JF095 いや、夏休みだったらいいじゃん?。
263JF094 あー夏休みの(うん)週末かー。

ここでは、262JF095 の発話のうち、「夏休み」が反復されている。「夏休みだったら」は従属節であり、「夏休み」は従属節の名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 19】のようになる。

【表 19】 (52) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 夏休み			*

【表 19】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「夏休み」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。262JF095 の話者 JF095 の発話「夏休みだったらいいじゃん」の統語構造を(53)のように示す。

(53) [_{S1} [_{CP} [_{NP} [_N夏休み]]] [_{CPL} だったら]] [_S [_{AP} [_A いい]]] [_{CPL} じゃん]]]

N に支配されている要素は「夏休み」である。「夏休み」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「キャンプ」は、225JF094 の発話で話者 JF094 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、225JF094～262JF095 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「夏休み」は談話的な制約に違反していることになる。「夏休み」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「夏休み」が反復されることになる。

5.1.1.3. 倒置文

以上は典型的な語順の会話データを扱ったが、日本語では語順が比較的自由であるため、話者間反復が含まれる文に倒置が起こっているものがある。本節では、名詞の話者間反復が

倒置文に起こる場合の会話データを見ていく。

[1] 格成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文の格成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1-1] ガ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文のガ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(54)を見られたい。

(54)

- 010275 B 英語、英語なー、TOEIC 受ける？
- 010276 A 受けるよ
- 010277 B いつ受ける？
- 010278 A 冬
- 010279 B 冬、冬にあるん？
- 010280 A わかんない、見なきゃ、なんかあれに載ってないかな、ホームページ
- 010281 B ホームページか掲示板にも書いてあると思うよ、TOEIC のなんか要項？要項っていうか
- 010282 A ホームページ見て
- 010283 B TOEIC, あ、やばい、ラインの通知が来てそれ押してしまった(笑)
- ……(中略)
- 010364 A え、でもさ申し込みの後さ、試験までめっちゃ時間あるやん
- 010365 B そうだよ
- 010366 A 1ヶ月ぐらい
- 010367 B そう
- 010368 A やば、忘れちゃいそう
- 010369 B だから2ヶ月ぐらいあるやん
- 010370 A 忘れちゃいそうじゃん
- 010371 B うん、あ、気付いたらあ、TOEIC だみたいな感じになりそう
- 010372 A うん、えー
- 010373 B やばい、全然もう
- 010374 A もう忘れてるよね
- 010375 B もう無理
- 010376 A なんか基本的な単語も忘れてる
- 010377 B 駄目だ、もう動詞とか(笑)

010378 A 動詞

010377 の話者 B の発話では、「駄目だ、もう動詞とか」は倒置文であり、通常の語順の文である「もう動詞とか駄目だ」の「もう動詞とか」と「駄目だ」に倒置が起こっている。その上で、「動詞」が反復されている。「動詞」はガ格という格関係を持っている。この「が」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 20】のようになる。

【表 20】 (54) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 動詞			*

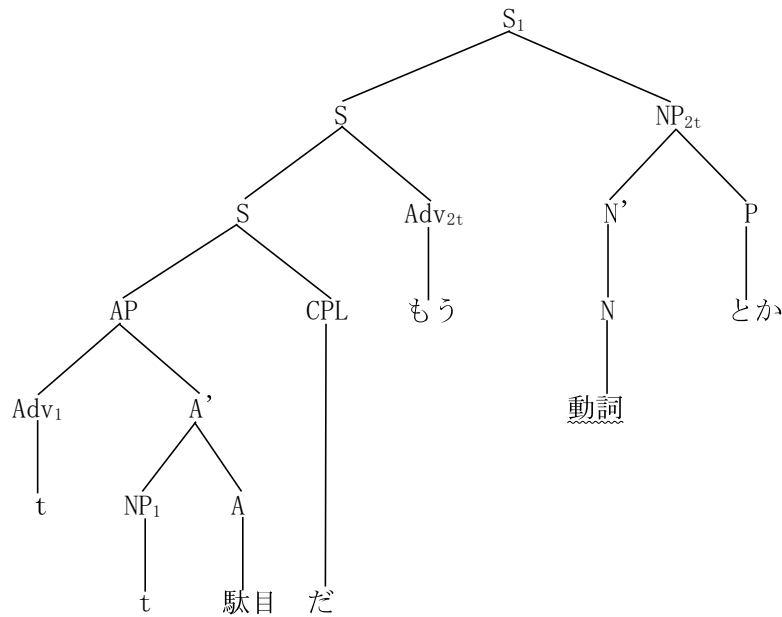
【表 20】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「動詞」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。010377 の話者 B の発話「駄目だ、もう動詞とか」の統語構造を(55)のように示す¹³。

(55) [S₁ [S [S [AP [Adv₁t] [NP₁t] [A 駄目]] [CPL だ]]] [Adv₂ もう t]] [NP₂ [N 動詞] [P とか] t]]

具体的に樹形図で示すと、(56)のようになる。

¹³ 生成文法では、日本語における比較的自由的な語順の移動を「かきまぜ規則(scrambling)」によって捉える考え方がある。その場合、文構造上では、移動元の NP には痕跡(t)を残し、移動先の「動詞とか」に同じインデックス t を下に付けることによって、両者が同一の要素であることを示す。

(56)



この文構造は Adv₂「もう」と NP₂「動詞とか」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₂に位置している。Adv₁は移動によって Adv₂に位置している。倒置した後、Nに支配されている要素は「動詞」である。「動詞」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「TOEIC」は、010275 の発話で話者 B が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010275~010377 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「動詞」は談話的な制約に違反していることになる。「動詞」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「動詞」が反復されることになる。

[1-2] ヲ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文のヲ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(57)を見られたい。

(57)

- 010275 B 英語，英語なー，TOEIC 受ける？
010276 A 受けるよ
010277 B いつ受ける？
010278 A 冬
010279 B 冬，冬にあるん？
010280 A わかんない，見なきゃ，なんかあれに載ってないかな，ホームページ
010281 B ホームページか掲示板にも書いてあると思うよ，TOEIC のなんか要項？要項っ

- ていうか
- 010282 A ホームページ見て
- 010283 B TOEIC, あ, やばい, ラインの通知が来てそれ押してしまった(笑)
……(中略)
- 010352 A え, でも夏や, 冬休みだつてー, ガンガン冬休みじゃん, 2月は?
- 010353 B その通り, 2月は2日
- 010354 A 来年の予定分からないけど, 授業, 2月2日って土日ってこと?
- 010355 B 日曜日, じゃない土曜日
- 010356 A ふーん, なんもないんじゃない? 春休み4月でしょ? 3月か
- 010357 B うん
- 010358 A 2月
- 010359 B まあ普通に講義あるかな, 講義, あまあ土曜日やからなんもないやろう特に
- 010360 A じゃ2月だなー
- 010361 B 2月ですか? じゃ受けようかな, 受けるんやったら
- 010362 A でもまだなんかね出すやつがあるでしょ?
- 010363 B あ, 期限があるよ, なんか提出が12月3日から12月, 当分先や, 忘れそうに
申し込み
- 010364 A え, でもさ申し込みの後さ, 試験までめっちゃ時間あるやん

010363 の話者 B の発話では, 「忘れそうに申し込み」は倒置文であり, 通常の語順の文である「申し込み忘れそうに」の「忘れそうに」と「申し込み」に倒置が起こっている。その上で, 「申し込み」が反復されている。「申し込み」はヲ格という格関係を持っている。この「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 21】のようになる。

【表 21】 (57) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 申し込み			*

【表 21】において, まず, 形態的な制約(17)が適用され, 「申し込み」が名詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(20)が適用される。010363 の話者 B の発話「忘れそうに申し込み」の統語構造を(58)のように示す。

(58) [_{S1} [_S [_{VP} [_{NP1t}] [_V 忘れ]]] [_{CPL} そうに]]] [_{NP2} [_N 申し込み_t]]]

この文構造は NP₂ 「申し込み」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₂

に位置している。倒置した後、Nに支配されている要素は「申し込み」である。「申し込み」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「TOEIC」は、010275の発話で話者Bが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010275～010363という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「申し込み」は談話的な制約に違反していることになる。「申し込み」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「申し込み」が反復されることになる。

[1-3] デ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文のデ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(59)を見られたい。

(59)

- 384JF096 あーでもねー、外面ってというか、外から、あの、自分、1人の以外??,、
385JF097 あー。
386JF096 自分1人でいる時以外は、すごいきっちりしてるーってみんなに言われるけど,,
387JF097 うん。
388JF096 部屋とかすっごい汚いし,,
389JF097 <笑い>。
390JF096 あの一,,
391JF097 見てみたい。
392JF096 その日食べたごはんの、お茶碗とかね、次の日まで平気で<残ってたりとかする>{<}</>。
393JF097 <あ、あらら>{<}</>、イメージ違う。
394JF096 けっこう、その日のうちに洗わなかったりとかするからね。
395JF097 あー(うん)、信じられないですよ。
396JF096 ゴミの日とか、“あー、明日ゴミの日だー、今のうちに出しておけば明日楽”、とか思いつつ、出さないで、次の日の朝も寝坊して、出せなかったりとか<するんだよ>{<}</>。
397JF097 <あー>{<}</>、<笑い>。
398JF096 ありえなーい、ほんとに。
399JF097 てか、(ん)想像できないですよ、あの、バイト先とかでも。
400JF096 バイト先では、だってあたしなんかこう 【】。

399JF097の発話では、「想像できないですよ、あの、バイト先とかでも」は倒置文であり、

通常の語順の文である「あの、バイト先とかでも、想像できないですよ」の「あの、バイト先とかでも」と「想像できないですよ」に倒置が起こっている。その上で、「バイト先」が反復されている。「バイト先」はデ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 22】のようになる。

【表 22】 (59) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ バイト先			*

【表 22】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「バイト先」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。399JF097 の話者 JF097 の発話「想像できないですよ、あの、バイト先とかでも」の統語構造を(60)のように示す。

(60) [_{S1} [_S [_{VP} [_{NP1}t] [_V想像できない]] [_{CPL}です] [_{FP}よ]] [_{NP2} [_{Det}あの] [_Nバイト先] [_Pとか] [_Pでも] t]]

この文構造は NP₂「あのバイト先とかでも」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₂に位置している。Nに支配されている要素は「バイト先」である。「バイト先」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「外面と内面が違う」ことは、384JF096～388JF096 の発話で話者 JF096 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、384JF096～399JF097 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「バイト先」は談話的な制約に違反していることになる。「バイト先」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「バイト先」が反復されることになる。

[2] 述語成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(61)を見られたい。

(61)

060001 K (人名1)ちゃん今日バイト無いん？

060002 L 今日バイト無いね

060003 K ああ、おっけ、なんか約束あるん？

060004 L そうそう、ご飯いく、留サポの人と仲良くなりたいたい

……(中略)

- 060014 L そうそうそうそうそう，どうするん今日
- 060015 K 今日俺ねほんとはね，バイトだったんよ
- 060016 L うん
- 060017 K けどなんか，その飯食いよる時に(うん)韓国の人にご飯誘われて
- 060018 L うん
- 060019 K 正直なんか，最近自分忙しくて(うん)今日バイトする気分でもなかったけん
(うんうん)，まあちょっと仮病じゃないけど使って休んだんやけどなんか罪悪
感があるんよ
- 060020 L ふんふん(笑)
- 060021 K それもそれでまあ，(人名3)が(うん)なんか多分ストレスが溜まってるかなと
思っ
- 060022 L うんうんうんうんうん
- 060023 K いろいろ考え事とか(うんうん)，やけん，今日昼ご飯一緒に食べようって言っ
て(うん)，で少し話せたらいいなって思ってたけど(うん)，でも韓国の人もお
ったけん話せんくて，(人名3)が私も一緒に行つていい？って感じになったと
きに(うん)，(人名3)はもし俺がいなかったら行きづらいなって思ったけん(う
んうんうん)，そこで俺がバイトキャンセルして(うんうんうん)，オッケーでた
けんって思ってたら(人名3)から急に，やっぱり(人名4)が嫉妬するけんって
なったけん
- 060024 L え？
- 060025 K 別に復縁したんよねやっぱ(うんうん)，それが俺はそんな聞いてないけど，なん
となくわかったけん，いいなって思ってたけど，まあ(人名4)の気持ちも分か
ったけん，やけん今俺はバイトに出勤するかせんか悩んどって
- 060026 L そうやね，(人名3)のためにあけたんか
- 060027 K でもそんなん(人名3)に言えんけさ
- 060028 L 言えんね
- 060029 K まあ，別に，今日はやっぱ休んで(うんうんうん)，韓国の人たちとご飯食べて，
うん(うん)，最近結構勉強俺頑張つとるって，自分で言うのもあれやけど(うん
うんうん)，ちゃんとしとって
- 060030 L 中国語？とくに
- 060031 K 中国語と経済のやつとか，あとなんか，人間関係とかの(うんうんうん)，疲れ
たけんさ，まあ，疲れたっていうか，なんか，最近ほんまどうしとったらしい
んかなって，自分どうしたらいいんかなって思っ

060030 の話者 L の発話では、「中国語とくに」は倒置文であり，通常の語順の文である「と
くに中国語」の「とくに」と「中国語」に倒置が起こっている。その上で，「中国語」が反

復されている。「中国語」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 23】のようになる。

【表 23】 (61)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 中国語			*

【表 23】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「中国語」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(20)が適用される。060030 の話者 L の発話「中国語とくに」の統語構造を(62)のように示す。

(62) [_{S1} [_S [_{NP} [_{Adv1t}] [N中国語]]] [_{Adv2} とくに _t]]

この文構造は Adv₂「とくに」が倒置した後のものである。Adv₁は移動によって文末の Adv₂に位置している。N に支配されている要素は「中国語」である。「中国語」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「今日の予定」は、060001 の発話で話者 K が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060001~060029 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「中国語」は談話的な制約に違反していることになる。「中国語」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「中国語」が反復されることになる。

5.1.2. 名詞が2つ以上の場合

本節では、名詞が2つ以上の場合を分析していく。そして、話者間反復が S₁に起こる位置によって、話者間反復が主節、従属節、倒置文に起こる場合を順に観察していく。

5.1.2.1. 主節に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が主節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 格成分に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が主節の格成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1-1] ガ格に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が主節のガ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(63)を見られたい。

(63)

- 060133 K 中国とか異国やもんね，ラインもそういうのも制御されとるし
060134 L そうね，情報…
060135 K YouTube も無理なんやろ？
060136 L あ，そうなん？だからもうびっくりした，あんな…
060137 K 中国専用のYouTube もあるって聞いた，けど，設定を変えたら(うん)，お金払
って変えたら見れるらしい，そのYouTube
060138 L はあはあ，ラインとかも？
060139 K うん，そう，誰かに聞いた，やけん，中国用のインスタもあるみたい
060140 L じゃ中国人はインスタできんってこと？

ここでは，060139 の発話のうち，「インスタ」が反復されている。「中国用のインスタもあるみたい」は主節であり，「インスタ」はガ格という格関係を持っている。この「が」は格助詞の非標示によって省略されている。

まず，名詞が1つの場合で仮定した形態的な制約，統語的な制約，談話的な制約は，名詞が2つ以上ある場合に適用できるかどうかを見ていく。

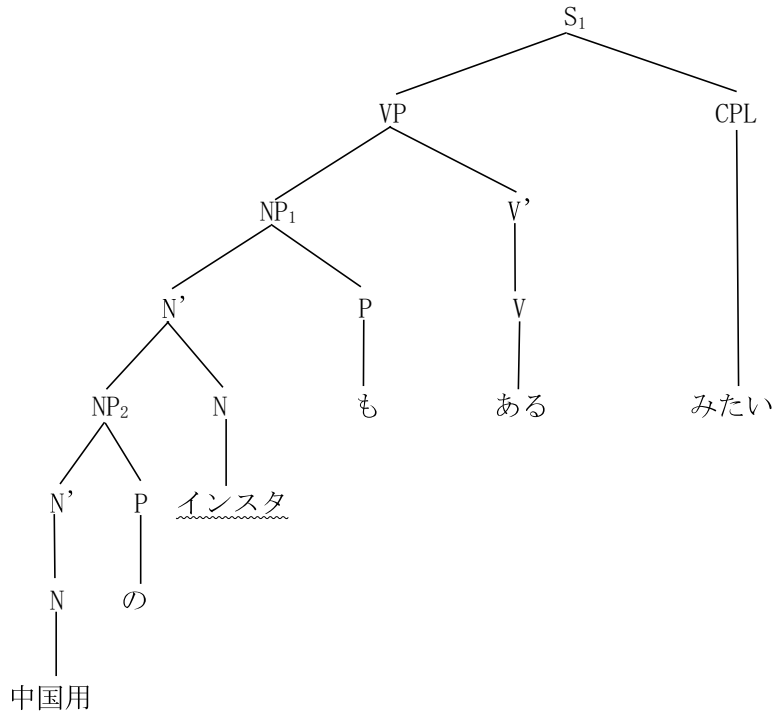
まず，形態的な制約(17)が適用され，「中国用」「インスタ」が名詞であるため，候補となる。

次に，統語的な制約(20)を適用してみる。060139 の話者 K の発話「中国用のインスタもあるみたい」の統語構造を(64)のように示す。

(64) [_{S1} [_{VP} [_{NP1} [_{NP2} [_N中国用] [_Pの]]] [_Nインスタ] [_Pも]] [_Vある]] [_{CPL}みたい]]

統語的な制約(20)によると，Nに支配されている要素が反復されるが，(64)では，Nに支配されている要素は「中国用」「インスタ」の2つある場合，どちらが候補になるかは決まらない。ここでは，具体的に樹形図で示すと，(65)のようである。

(65)



ここで反復される「インスタ」の位置を観察していく。まず、「中国用」を支配するNはNP₂に支配されている。NP₂と「インスタ」を支配するNは同位要素である。反復される「インスタ」の位置を観察すると、「インスタ」を支配するNはNP₂の右側にあるので、「中国用」より「インスタ」の方が右側にあることになる¹⁴。すなわち、「インスタ」は相対的に右にあることが分かる。相対的に右にあるというのは、S₁の文末に相対的に近いことを意味する。すなわち、S₁の文末に相対的に近い「インスタ」が反復されるのである。従って、話者間反復(N)の統語的な制約(20)を次のように改訂する。

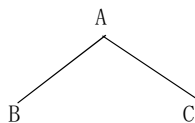
(66) 話者間反復(N)の統語的な制約：

S₁の文末に相対的に近いNが反復される。

(66)の統語的な制約によって、「インスタ」が選ばれることになる。

最後に、談話的な制約(22)が適用される。「中国の事情」は、060133の発話で話者Kが取

¹⁴ 例えば、次のような関係の樹形図があるとする。



節点B, CはAのそれぞれ左枝分かれ(left-branching), 右枝分かれ(right-branching)であるため, BはCに対して相対的に左に位置し, CはBに対して相対的に右に位置していると言える。

り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060133～060139 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「中国用」「インスタ」は談話的な制約に違反していることになる。

以上、統語的な制約を改訂した上で、それぞれの制約で選ばれた要素を【表 24】のように分析する。

【表 24】 (63) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
中国用		*	*
☞ インスタ			*

候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「インスタ」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「インスタ」が反復されることになる。

次に、(67)を見ていく。

(67)

070195 N うんうんうんうん、ってなったら、短期とかのほうがいいかなって思う

070196 M そうそうそう、ね、それは最近思う、だって、さ、今の入ってる1, 2, 3年生からしてもさ、急に4年生がさ、年は上やけどさ

070197 N そうなんよ、気遣うし

070198 M 教えなあかん、そう、自分もいややん(うんうん)、なんかそれで気遣われてるなみたいな思うの、って思ったら全くその学生がいいひんところか、それこそ短期、別にそういう上下関係(うんうん)みたいななんがなく、さっぱりしてるところのほうがががいいかなって思う

070199 N いや、わたしもそういう感じでいこうかなって思、思ってるし(うん)、まあ、とりあえず8月、お盆から9月は(うん)まあ3Sはやるけど(うんうん)、やって、でもね、バイトはね、待ってね、わたしこういう休みだけ把握しとんよ、PBLの発表はさ2月12日なんよ¹⁵

070200 M うん、え、でも中間発表あるやろ?8月に

070201 N あ、そうそうそうそう、で、卒業式が3月24日なんよ(うん?)、てことはさ(うんうん)、報告書が2月末までってこと?よね?

070202 M たぶん

070203 N だったよね、てことは(うん)3月から完全に休みってことか、24はまあ来るっ

¹⁵ 「PBL」はプロジェクト型課題解決研究のことである。

- てなって、でも卒業旅行のことばっか考えとよる、(笑)物理が取れる計算
- 070204 M (笑)え？それは一人で行くやつか
- 070205 N そう、一人でいこうかなと思って
- 070206 M うんうんうん、そうよね
- 070207 N やけ、バイトを(うんうん)2月ぐらいに、2月いっぱい(うん)やめようって、
2月いっぱい(うん)か(うん)やな、もう引き払うんでとか言って(うん)、まあでも結局3月(うん)おらんやろうし、だって、3月だっておってもじゃないだって24日のさ(うん)、卒業式はまあ参加するとしても(うん)、わたしなんか袴がさ、
なんか
- 070208 M うん、そや袴も決めなあかん

ここでは、070207の発話のうち、「袴」が反復されている。「卒業式は参加するとしても」には話者Mの相づち「うん」が挿入されるので、一文であり、「わたし袴がさ」も一文である。「わたし袴がさ」は主節であり、「袴」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表25】のようになる。

【表25】 (67)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
わたし		*	*
☞ 袴			*

【表25】において、まず、形態的な制約(17)が適用され、「わたし」「袴」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。070207の話者Nの発話「わたし袴がさ」の統語構造を(68)のように示す。

(68) [S₁ [NP₁ [Nわたし]] [NP₂ [N袴] [Pが]] [FPさ]]

相対的に文末に近いNは「袴」である。「袴」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「バイトと卒業の予定」は、070199～070201の発話で話者Nが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、070199～070207という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「わたし」「袴」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「袴」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「袴」が反復されることになる。

また、(69)について説明していく。

(69)

- 294JF096 そう、絶対中学校の学校行事っていうのは、集団でやらせることを意識してるよね。
- 295JF097 うんうんうん。
- 296JF096 絶対そう。
- 297JF097 でも出来上がったときは感動しますよね。
- 298JF096 うん。
- 299JF097 体育祭とか。
- 300JF096 そうそうそう、体育祭とかねー。
- 301JF097 <応援とか>{<}
- 302JF096 <応援合戦>{>}。
- 303JF097 <笑い>相当やりましたよね。
- 304JF096 やったー。
- 305JF096 なんか女子だとダンスとかさー。
- 306JF097 <笑い>。
- 307JF096 やったー。
- 308JF097 ダンスやったん<ですか?>{<}
- 309JF096 <やった>{>}やったんだよ。
- 310JF096 女子全校、あ、何つーの?、全校つつーか、赤、白、青黄色<みたいな>{<}
- 311JF097 <あー>{>}。
- 312JF096 <全##みたいな>{<}
- 313JF097 <色んなのが>{>}あるんですか。
- 314JF096 あ、え?。
- 315JF097 =うちら損なんですよ。
- 316JF097 うちの学年の時はまだ **【**。
- 317JF096 **】** 今もう先生が減っちゃって、,
- 318JF097 あー。
- 319JF096 今赤青、黄色??白がない?、ん?、分かんないけど、赤、白か。
- 320JF096 赤白青か黄色かなんか、<そんな感じ>{<}
- 321JF097 <あー>{>}。
- 322JF096 一時期、一番多い時は、5組あって、紫もあったの<笑い>。
- 323JF097 紫か<2人笑い>。
- 324JF097 でも、紫は赤だ赤だって言いそうじゃないですか<笑いながら>。

ここでは、332JF096 の発話のうち、「紫」が反復されている。「一時期、一番多い時は、紫もあったの」は主節であり、「紫」はガ格という格関係を持っている。この「が」は格助

詞の非標示によって省略されている。

まず、形態的な制約(17)を適用してみる。「一時期」「時」「5組」「紫」が名詞であるため、候補となる。しかし、「時」は形式名詞として、「一時期」などの名詞と異なる。形式名詞は単独では用いられず、それを修飾する部分を伴って用いられるので、相対的に反復されにくいだろう。従って、形態的な制約としては、名詞は形式名詞より反復されやすいという優先順位がつけられる。(17)を(70)のように改訂する。

(70) 話者間反復(N)の形態的な制約：

文(S₁)を構成する要素の中で、以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

名詞 > 形式名詞

形態的な制約を改訂した上で、この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 26】のようになる。

【表 26】 (69)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
一時期		*	*
時	%	*	*
5組		*	*
☞ 紫			*

【表 26】において、まず、形態的な制約(70)が適用され、「一時期」「時」「5組」「紫」が名詞であるため、候補となるが、「時」の優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。332JF096の話者 JF096の発話「一時期、一番多い時は、5組あって、紫もあつたの」の統語構造を(71)のように示す。

(71) [S₁ [VP [NP₁ [N 一時期]] [NP₂ [Adv 一番] [A 多い] [FN 時] [P は]]] [CP [VP₂ [NP₃ [N 5組]] [V あって]]] [NP₄ [N 紫] [P も]] [V あつた]] [FP の]]

相対的に文末に近いNは「紫」である。「紫」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「中学校の体育祭」は、299JF097の発話で話者 JF097が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、294JF096～322JF096という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「一時期」「時」「5組」「紫」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「紫」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補で

ある「紫」が反復されることになる。

次に、(72)について述べたい。

(72)

- 476JM013 え、でも、てい、「サークル名 1」は一、サークルん中では仕事系じゃない?。
- 477JM014 そうかなー。
- 478JM013 うん、ベクトルとしては。
- 479JM014 まー、あー、そうだね=。
- 480JM013 =「サークルセクション名 1」、「サークルセクション名 2」があり。
- 481JM014 あの、ほんとに遊んでるのと比べたら(うん)、どっちかっていうと<仕事系かもしんない>{<}。
- 482JM013 <あの、合コンサークル>{>}よりは全然さ。
- 483JM013 でももっと遊びとおりにきってもいいのかもな、「サークル名 1」。
- 484JM014 どうなんだろう。
- 485JM013 ね、微妙だよな。
- 486JM014 なんかおれ、2年とかのさ、なんか役割とかもさ(うん)、やりたいようなやりたくないようになっていう<軽く笑う>微妙な<####>{<}。
- 487JM013 <あー、でも>{>}一応やっといたほうがいいと思うよ。
- 488JM013 おれ、なにやろう。
- 489JM013 なんでもいいんだよなー。
- 490JM013 「サークルセクション名 1」担当にはつきたいものの(うん)、「サークルセクション名 2」の方が絶対的に人数が多いよね。
- 491JM014 うん。
- 492JM013 「サークルセクション名 1」。
- 493JM014 うん。
- 494JM013 え、でもさ、そんないくない?、「サークルセクション名 1」、ぶっちゃけ。
- 495JM014 そうかな。
- 496JM014 だけどあの、「サークルセクション名 3」だってすごい量になってるしな<軽く笑う>。
- 497JM013 あ、でもなんだかんだいって「サークルセクション名 3」、そうでも「サークルセクション名 3」、あー[自己完結している感じ]。

ここでは、496JM014 の発話のうち、「サークルセクション名 3」が反復されている。「サークルセクション名 3」だってすごい量になってるしな」は主節であり、「サークルセクション名 3」はガ格という格関係を持っている。この「が」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 27】のようになる。

【表 27】 (72)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞「サークルセクション名 3」			*
量	%	*	*

【表 27】において、まず、形態的な制約(70)が適用され、「サークルセクション名 3」 「量」が名詞であるため、候補となるが、「量」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。話者 JM014 の発話「サークルセクション名 3」だっ てすごい量になってるしな」の統語構造を(73)のように示す。

(73) [S₁ [VP [NP₁ [N「サークルセクション名 3」] [P だっ て]]] [NP₂ [A すごい] [FN 量] [P に]] [V なっ てる]] [P し] [FP な]]

相対的に文末に近い N は「サークルセクション名 3」である。「サークルセクション名 3」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「サークル」は、476JM013 の発話で話者 JM013 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、476JM013 ~496JM014 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「サークルセクション名 3」 「量」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「サークルセクション名 3」であり、これが最適候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「サークルセクション名 3」が反復されることになる。

次に、(74)を見られたい。

(74)

- 223JM001 え、でも、なんか、「人名 2」としゃべったがな。
 224JM002 しゃべったねー。
 225JM002 うん。
 226JM002 あの、「人名 2」って子とー(うん)、「人名 4」さんとー(うん)、あとキャプテン。
 227JM001 「人名 3」？
 228JM002 そうそうそうそう。
 229JM002 とは、しゃべれるね。
 230JM002 あと、「人名 5 の一部」、「人名 5」君。
 231JM001 あー。

- 232JM002 あん。
- 233JM001 人当たりいいチームだね。
- 234JM002 おん。
- 235JM002 その辺は、もうねー、難なくクリア。
- 236JM001 ちよっと、「人名6 あだ名」が、ちよっと人当たりきつそうでしょ?
- 237JM002 あの、「人名6 あだ名」ってどれ?。

ここでは、236JM001 の発話のうち、「人名6 あだ名」が反復されている。「ちよっと、「人名6 あだ名」が、ちよっと人当たりきつそうでしょ」は主節であり、「人名6 あだ名」はガ格という格関係を持っている。

まず、形態的な制約(70)を適用してみる。「人名6 あだ名」「人当たり」が名詞であるため、候補となる。しかし、「人当たりきつ」はコロケーションと見なしている¹⁶。コロケーション内の名詞は単独では用いられないため、「人当たり」だけが選ばれて相対的に反復されにくいと考えられる。従って、形態的な制約としては、コロケーション内に含まれていない名詞はコロケーション内の名詞より反復されやすいという優先順位がつけられる。(70)を(75)のように改訂する。

(75) 話者間反復(N)の形態的な制約：

文(S_i)を構成する要素の中で、以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

名詞 > コロケーション内の名詞・形式名詞

形態的な制約を改訂した上で、この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 28】のようになる。

¹⁶ コロケーションの定義について、『言語学大辞典 第6巻 述語編』(1996)、金田一(2006)、田野村(2012)が挙げられる。まず、『言語学大辞典 第6巻 述語編』(1996:128)では、以下のように説明される。「語は、普通、単独に用いられるよりは、ほかの語とともに用いられるものである。その場合、2つの語は、意味上関連することもあり、また、文法的な関係(grammatical relation)をもつこともある。前者の関係を縁語関係(collocation)といい、後者の関係を類結合関係(colligation)という。縁語関係は、コロケーション、連語関係なども訳され、類結合関係は、統合、類連結とも訳される。たとえば、日本語で、サエズルという動詞は、必ずコトリという名詞と結びつく。また、ホエルという動詞は、必ずイヌとトラとか、かなり強力な獣についていわれる。このような語と語との関係(共起関係, cooccurrence relation)が縁語関係で、その関係は語彙的(lexical)に、したがって、意味上密接な連想(association)をなす概念間の関係である。(中略)この縁語関係は、互いに縁語になっている個々の語の間の語彙的關係である。これに対して、類結合関係は、語の統語的(syntactic)な類(class)と類との関係である。たとえば、他動詞とその目的語との関係などの文法的関係である。いずれも統語構造(syntactic structure)の中で、語と語の間に密接な連想関係(associative relation)が保たれるものである」。次に、金田一(2006:2)はコロケーションを「二つ以上のことばが結びついてできたことば」と定義している。また、田野村(2012:212)はコロケーションを「慣用的な複数語の共起現象」とゆるく規定している。これらの定義に従ってコロケーションを判断する。

【表 28】 (74) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 「人名 6 あだ名」			*
人当たり	%	*	*

【表 28】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「人名 6 あだ名」「人当たり」が名詞であるため、候補となるが、「人当たり」の優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。236JM001 の話者 JM001 の発話「ちょっと、「人名 6 あだ名」が、ちょっと人当たりきつそうでしょ」の統語構造を(76)のように示す。

(76) [_{S1} [_{AP} [_{Adv} ちょっと] [_{NP} [_N 「人名 6 あだ名」] [_P が]] [_{Adv} ちょっと] [_A 人当たりきつ]] [_{CPL} そうでしょ]]

「人当たりきつ」は統語上も不可分に結びついているので、全体を A として扱う。相対的に文末に近い N は「人名 6 あだ名」である。「人名 6 あだ名」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「チームの人たち」は、223JM001～233JM001 の発話で話者 JM001 と話者 JM002 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、223JM001～236JM001 という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「人名 6 あだ名」「人当たり」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「人名 6 あだ名」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「人名 6 あだ名」が反復されることになる。

次に、(77)を見られたい。

(77)

- 060084 L うん、9月、あ、でも9月は俺ね長男が結婚式でんといけん
 060085 K ああ、結婚式、聞いた聞いた聞いた
 060086 L 初出席、服装もわからん、スーツよね？
 060087 K スーツスーツ、その服装で行くなよ、(笑)それならあれやったらたぶん絶対催しとかせんといけんのやない？
 060088 L え？なんかあるん？全然わからんよ、まじで、一回も参加したことないし
 060089 K なんかお姉ちゃんが結婚したんよ(うんうん)、姉ちゃんが、そのときになんか、めっちゃむちゃぶりよ、飯食って座っただけで急に、「(人名 6)、来て」って言われて、なんか急に出して
 060090 L 催しって、そういうことか

060091 K 急に催し，なんか笑いすぎじゃないか

ここでは，060090 の発話のうち，「催し」が反復されている。「催しって，そういうことか」は主節であり，「催し」はガ格という格関係を持っている。ここの「って」は副助詞「は」と同じである。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 29】のようになる。

【表 29】 (77)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 催し			*
こと	%	*	*

【表 29】において，まず，形態的な制約(75)が適用され，「催し」「こと」が名詞であるため，候補となるが，「こと」が形式名詞であるため，優先性が低い。次に，統語的な制約(66)が適用される。060090 の話者 L の発話「催しって，そういうことか」の統語構造を(78)のように示す。

(78) [S₁ [NP₁ [NP₂ [N催し] [P って]]] [連体詞 そういう] [FN こと]] [FP か]]

相対的に文末に近い N は「催し」である。「催し」が候補となる。そして，談話的な制約(22)が適用される。「結婚式」は，060084 の発話で話者 L が取り上げたことから，既知情報となっている。この既知情報は，060084～060090 という発話の集合体に共通しているので，これが話題となる。従って，「催し」「こと」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で，最も多くの制約が満たされているものは「催し」であり，これが最適な候補となる。従って，実際の会話では，この最適候補である「催し」が反復されることになる。

次に，(79)を見ていく。

(79)

- 108JM013 そば‘そいえば’、あれ見た?、
 109JM014 あん?
 110JM013 あの、来週の、時間割。
 111JM014 何の?
 112JM013 外プラの。
 113JM014 あ、もうできたの?=
 114JM013 =うん、あれ BBS に載ってた、見たよ。
 115JM013 おれすげーいい時間だった。

- 116JM013 11 時ぐらいから<だった>{<}>。
 117JM014 <あ、そう>{<}>なの[↑]。
 118JM014 え、BBS ってあの、
 119JM013 あの、だから、<そうそう>{<}>,,
 120JM014 <「サークル名 1」>{<}>の<ホームページにある>{<}>。
 121JM013 <「サークル名 1」のホームページ>{<}>の BBS に、リンクが貼ってあって一
 (うん)、クリックすると行ける。
 122JM013 「人名 2」さんが作ったやつ。
 123JM014 気んなってるんだけど、BBS とチャットってどう違うの?。
 124JM013 チャットはリアルタイムじゃない?。

ここでは、123JM014 の発話のうち、「チャット」が反復されている。「BBS とチャットってどう違うの」は主節であり、「チャット」はガ格という格関係を持っている。この「って」は副助詞「は」と同じである。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 30】のようになる。

【表 30】 (79) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
気	%	*	*
☞ BBS		*	
☞ チャット			*

【表 30】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「気」「BBS」「チャット」が名詞であるため、候補となるが、「気んなってる」がコロケーションと見なし、「気」がコロケーション内の名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。123JM014 の話者 JM014 の発話「気んなってるんだけど、BBS とチャットってどう違うの」の統語構造を(80)のように示す。

(80) [S₁ [CP [VP₁ [V 気んなってる]] [CPL んだ] [P けど]] [S [VP₂ [NP₁ [NP₂ [NBBS] [P と]]] [N チャット] [P って]] [Adv どう] [V 違う]] [FP の]]]

相対的に文末に近い N は「チャット」である。「チャット」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「BBS」は、118JM014 の発話で話者 JM014 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、118JM014～123JM014 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、123JM014 の発話には「BBS」が話題の要

素となっているので、候補となる。「気」「チャット」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「BBS」「チャット」であり、これらが最適な候補となる、どちらでも選ばれて反復される可能性もあることになる。実際の会話では、話者 JM013 は最適候補である「チャット」を選んで反復するのである。

[1-2] ヲ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のヲ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(81)を見られたい。

(81)

040443 G うんうん、ぶっ飛ぶよ、あれ行きたい、あれ行くんよ、海の中道？

040444 H え？ああ

040445 G 青い花見に行く

040446 H 青い花？

040447 G うん

040448 H そんなんあるん？

040449 G え、知らん？

040450 H 海の中道って、え？福岡？

……(中略)

040488 H へー、なんかあんま花咲いてなかったって聞いた誰かに、誰やったか忘れたけど、かわいい、動物、あ、そっか動物がおるかもね

040489 G 動物園？

040490 H 海の中道、え、なんかふれあいみたいな感じの

040491 G まじで？え、モルモット系？わからん

040492 H モルモット系(笑)、なんか、モルモットとかウサギとかなんかそういうのがおる気がする、なくなってなければ、あ、マリンワールドとか、水族館の方は

040493 G あー

040494 H え、でもこれもそこそこ大き、なんか友達年パス持ってたし

040495 G へー年パスとかあるん？

ここでは、040494の発話のうち、「年パス」が反復されている。「友達年パス持ってたし」は主節であり、「年パス」はヲ格という格関係を持っている。この「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 31】のようになる。

【表 31】 (81) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
友達		*	*
☞ 年パス			*

【表 31】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「友達」「年パス」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。040494 の話者 H の発話「友達年パス持ってたし」の統語構造を(82)のように示す。

(82) [_{S1} [_{VP} [_{NP1} [_N 友達]] [_{NP2} [N 年パス]] [_V 持ってた]] [_P し]]

相対的に文末に近い N は「年パス」である。「年パス」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「海の中道」は、040443 の発話で話者 G が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040443～040494 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「友達」「年パス」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「年パス」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「年パス」が反復されることになる。

[1-3] ニ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のニ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(83)を見られたい。

(83)

060075 K フィリピン行く準備は順調なん？

060076 L フィリピンはとりあえずメール帰ってきて(うん)、いろいろお金のこととかで(あー)聞きたいことがあって聞いて、やっと帰ってきて(うん)、で、だから、そうね、ある程度の情報ははいったから(うん)、あとは申し込んで(うん)、休学届だして(うん)、でまあ、いろいろ準備したら行けるはず(あ)、そう、最悪は別にフィリピンは、学校は行かんでもいいと思っとるし(うんうん)、###
#準備が間に合わなかったらとか(うん)、問題が起こったら、キャンセルしてでも

060077 K ほかの道もあるしね

060078 L そうそうそう、だから、メインはやっぱ一人で向こうを動くこと(うんうん)、やし、その時間が長すぎるっていうのと、一年間もあるし(うんうん)、っていうのと、やっぱ英語力持ち上げといた方がスムーズに行くかなっていうので

(うんうん), フィリピンの学校行きたいなって思ったくらいやし(うんうん),
そっちはメインじゃないけど(うん), 行けたら行こうかなって

- 060079 K なるほどね, その, 一人で行ける準備じゃないけど
060080 L そうそうそう, ただの通過点っていうか
060081 K 通過点
060082 L そう, 一緒の時期よね? たぶん
060083 K うん, 一緒一緒, 9月くらい?
060084 L うん, 9月, あ, でも 9月は俺ね長男が結婚式でんといけん
060085 K ああ, 結婚式, 聞いた聞いた聞いた

ここでは, 060084 の発話のうち, 「結婚式」が反復されている。「9月は俺ね長男が結婚式でんといけん」は主節であり, 「結婚式」は二格という格関係を持っている。この「に」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 32】のようになる。

【表 32】 (83) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
9月		*	*
俺		*	*
長男		*	*
☞ 結婚式			*

【表 32】において, まず, 形態的な制約(75)が適用され, 「9月」「俺」「長男」「結婚式」が名詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(66)が適用される。060084 の話者Lの発話「9月は俺ね長男が結婚式でんといけん」の統語構造を(84)のように示す。

(84) [_{S1} [_{VP} [_{NP1} [_N 9月]] [_P は]] [_{NP2} [_{NP3} [_N 俺]] [_{FP} ね]] [_N 長男] [_P が]] [_{NP4} [_N 結婚式]] [_V でんといけん]]]

相対的に文末に近いNは「結婚式」である。「結婚式」が候補となる。そして, 談話的な制約(22)が適用される。「フィリピンに行く」ことは, 060075 の発話で話者Kが取り上げたことから, 既知情報となっている。この既知情報は, 060075~060084 という発話の集合体に共通しているため, これが話題となる。従って, 「9月」「俺」「長男」「結婚式」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で, 最も多くの制約が満たされているものは「結婚式」であり, これが最適な候補となる。従って, 実際の会話では, こ

の最適候補である「結婚式」が反復されることになる。

次に、(85)を見ていく。

(85)

- 432JM002 <あれとか>{>}やったら?、英語しりとりとか。
- 433JM001 <笑い>[少し呆れた感じで]。
- 434JM002 おれ、中学んとき、すっげー楽しかった、英語しりとり。
- 435JM001 あーあーあーあー、単語で?。
- 436JM002 うん。
- 437JM002 パン、パン、エッグ ‘egg’、パン、パン、グッド ‘good’ って、パン、パン、デーイ ‘day’ っつて、パン、パン[『パン』は手を叩く音],,
- 438JM001 あ,,
- 439JM002 イエスタデイ ‘yesterday’、パン、パン、イエロー ‘yellow’、パン、パン [『パン』は手を叩く音]。
- 440JM001 それさー(うん)、カタカナだよね?。
- 441JM002 うん?。
- 442JM001 かたかなでやってるよね?<笑いながら>。
- 443JM002 <笑い>ちゃ、ちゃ、つづり、つづり。
- 444JM001 あ、つづりでやってんだ=。
- 445JM002 =おん。
- 446JM001 あー、はいはいはい。
- 447JM002 いいでしょ。
- 448JM001 ふーん[そっけなく]。
- 449JM001 <笑い>。
- 450JM002 <笑い>。
- 451JM002 おれは一、また、ぼ、すごい緊張感あったけど(うん)、今となっちゃ一、でも楽しかったなって。
- 452JM002 あと、クロスワードみたいなやつやってた。
- 453JM001 あー、あれはいいね。
- 454JM002 うん。
- 455JM001 あれ、ボキャブラリー(うーん)つくからね。
- 456JM001 《少し間》おれ、そ、もっかい ‘もう一回’ 教育実習行きて一なー。
- 457JM002 教育実習かー。

ここでは、456JM001 の発話のうち、「教育実習」が反復されている。「おれ、もっかい教育実習行きて一なー」は主節であり、「教育実習」は二格という格関係を持っている。この

「に」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 33】のようになる。

【表 33】 (85)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おれ		*	*
☞ 教育実習			*

【表 33】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「おれ」「教育実習」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。456JM001 の話者 JM001 の発話「おれ、もっかい教育実習行きて一なー」の統語構造を(86)のように示す。

(86) [S₁ [AP [NP₁ [N おれ]]] [Adv もっかい] [NP₂ [N 教育実習]] [A 行きて一]] [FP なー]]

相対的に文末に近いNは「教育実習」である。「教育実習」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「英語しりとり」は、432JM002 の発話で話者 JM002 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、432JM002～455JM001 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「おれ」「教育実習」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「教育実習」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「教育実習」が反復されることになる。

また、(87)についても検証していく。

(87)

- 83JM014 とにかく、情報を集めろっていう。
 84JM013 でも、情報とか無理じゃねー？
 85JM013 ていうか、そういうのって学校でやってくれるもんなんじゃないんすかねー、って話じゃくない？>{<。
 86JM014 <そう>{>}、学校のホームページ見ても、何にも書いてないもんね。
 87JM013 うーん、学校がやれよな、そんなん。
 88JM014 うん、ほ、学校のホームページさ、とりあえずなんかないかなと思って、学校のホームページ見たら何にもないの、学校のページ。
 89JM014 つか、見落としたのかもわかんないけどさ。
 90JM013 どうすりゃいんだよな、おれら。
 91JM013 「人名1」ちゃんはずんのかね？、留学。

- 92JM014 おれはかなりしたいけどね。
 93JM013 おれもしたい。
 94JM014 じゃ、「人名1」ちゃんとそれ、タイ行ってこいよ。
 95JM013 タイ?<軽く笑いながら>。

ここでは、94JM014の発話のうち、「タイ」が反復されている。「人名1」ちゃんとそれ、タイ行ってこいよ」は主節であり、「タイ」はニ格という格関係を持っている。この「に」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表34】のようになる。

【表34】 (87)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
「人名1」ちゃん		*	*
それ		*	*
☞ タイ			*

【表34】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「人名1」ちゃん」「それ」「タイ」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。94JM014の話者JM014の発話「人名1」ちゃんとそれ、タイ行ってこいよ」の統語構造を(88)のように示す。

(88) [S1 [VP [NP1 [NP2 [N「人名1」ちゃん] [Pと]] [Nそれ]] [NP3 [Nタイ]] [V行ってこい]] [FPよ]]

相対的に文末に近いNは「タイ」である。「タイ」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「留学」は、91JM013の発話で話者JM013が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、91JM013~94JM014という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「人名1」ちゃん」「それ」「タイ」は談話的な制約に違反していることになる。「タイ」が話題の要素となっているので、候補となる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「タイ」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「タイ」が反復されることになる。

[1-4] デ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のデ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(89)を見られたい。

(89)

- 010041 A やっぱなんか制服ダサイからなー，アルクは
010042 B 事業服みたいな，男の人
010043 A そうそうそう，なんかいまいち，あれを着たいと思えん，男の人はなんか普通
になんか作業服みたいなやつじゃん
010044 B あーうんうん
010045 A 紺の上着に黒いズボン，(うん)でも女の方は
010046 B でもゆうてあんなもんやろ，ゆめタウンも
010047 A まあ，やけど，やっぱねえ，え，だってあなたの駄菓子屋の方がまだましな方
010048 B まあ，エプロンやから，あれ
010049 A ね，こう，なんかシャツね，ジーパンにエプロンやろ？
010050 B うん
010051 A めっちゃいいじゃん
010052 B 下自由やしね
010053 A あーそうなん？
010054 B そうだよ，ジーパンでも，ズボンやったらなんでもいい，スカートはちょっと
あれやけど
010055 A あーなるほど，え？じゃあ夏とか短パンでいいじゃん
010056 B 短パンはちょっと良くないかも(笑)

ここでは，010055 の発話のうち，「短パン」が反復されている。「夏とか短パンでいいじゃん」は主節であり，「短パン」はデ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 35】のようになる。

【表 35】 (89) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
夏		*	*
☞ 短パン			*

【表 35】において，まず，形態的な制約(75)が適用され，「夏」「短パン」が名詞であるため，候補となる。次に，統語的な制約(66)が適用される。010055 の話者 A の発話「夏とか短パンでいいじゃん」の統語構造を(90)のように示す。

(90) [S₁ [AP [NP₁ [N 夏] [P とか]] [NP₂ [N 短パン] [P で]] [A いい]] [FP じゃん]]

相対的に文末に近いNは「短パン」である。「短パン」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「アルバイトの制服」は、010041の発話で話者Aが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010041～010055という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「夏」「短パン」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「短パン」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「短パン」が反復されることになる。

次に、(91)を見ていく。

(91)

- 020078 D 今最近はね
 020079 C ね、今だからアルバイトとかも全部休みで
 020080 D 就活一本で、就活一本で
 020081 C 就活一本でもないんですよ僕
 020082 D まあまあこれから受けるかもしれないしわからないからってことですね
 020083 C そうそうそうそう、今日催促のメールが来とってセブンイレブンから、予約がもう3月5日までですよって言って、あ、予約せんといけん、あのう昨日スーパーで
 020084 D うん
 020085 C かなり材料を買いまして家から一歩も出なくていいぐらいのずっと料理して(うん)食べて、皿洗って、料理して、食べて、(うん)皿洗ってみたいなのんびりとした生活がこう繰り返されていくというか、まあちょっと鼻水が花粉症できつくて
 020086 D ああ、俺も花粉症、この前山口県庁に行って、山口県庁って山で囲まれてるから

ここでは、020085の発話のうち、「花粉症」が反復されている。「ちょっと鼻水が花粉症できつくて」は主節であり、「花粉症」はデ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表36】のようになる。

【表36】 (91)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
鼻水		*	*
☞ 花粉症			*

【表36】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「鼻水」「花粉症」が名詞である

ため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。020085 の話者 C の発話「ちょっと鼻水が花粉症できつくて」の統語構造を(92)のように示す。

(92) [_{S1} [_{AP} [_{Adv} ちょっと] [_{NP1} [_N 鼻水] [_P が]]] [_{NP2} [花粉症] [_P で]] [_A きつくて]]]

相対的に文末に近い N は「花粉症」である。「花粉症」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「最近の出来事」は、020078～020079 の発話で話者 D と話者 C が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、020078～020085 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「鼻水」「花粉症」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「花粉症」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「花粉症」が反復されることになる。

また、(93)についても検証していく。

(93)

040125 G え、すごくない？めっちゃバイトしとる

040126 H え、それどれがあれ？

040127 G 点々ついとるの全部バイト

040128 H あっはっは

040129 G あ、でもいろんなやつやったら楽しいかもしれん

040130 H それは確かにあるかもね、毎日温泉で暇を持て余しとるからな

040131 G 温泉入らんの？あそこで

ここでは、040130 の発話のうち、「温泉」が反復されている。「毎日温泉で暇を持て余しとるからな」は主節であり、「温泉」はデ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 37】のようになる。

【表 37】 (93) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
毎日		*	*
☞ 温泉			*
暇	%	*	*

【表 37】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「毎日」「温泉」「暇」が名詞であるため、候補となるが、「暇を持て余しとる」はコロケーションと見なし、「暇」がコロケーション内の名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。040130

の話者 H の発話「毎日温泉で暇を持て余しとるからな」の統語構造を(94)のように示す。

(94) [S₁ [VP [NP₁ [N 毎日]] [NP₂ [N 温泉] [P で]] [V 暇を持て余しとる]] [FP からな]]

「暇を持て余しとる」は統語上も不可分に結びついているので、全体を V として扱う。相対的に文末に近い N は「温泉」である。「温泉」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「バイト」は、040125 の発話で話者 G が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040125～040130 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「毎日」「温泉」「暇」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「温泉」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「温泉」が反復されることになる。

[1-5] ト格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のト格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(95)を見られたい。

(95)

- 050752 I あ、でも、ラリアはそんなに怖くないか
050753 J ラリア(笑)
050754 I ラリア、長いもん(笑)
050755 J ラリアっていうん、すごい、知らなかった
050756 I だって、長いもん
050757 J えー(笑)
050758 I 長いもん
050759 J この人オーストラリアのことをラリアって
050760 I ラリア

ここでは、050759 の発話のうち、「ラリア」が反復されている。「この人オーストラリアのことをラリアって」は主節であり、「ラリア」はト格という格関係を持っている。ここの「って」は「と」と同じであり、引用を表す。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 38】のようになる。

【表 38】 (95) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
人	%	*	*
オーストラリア		*	*
こと	%	*	*
☞ ラリア			

【表 38】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「人」「オーストラリア」「こと」「ラリア」が名詞であるため、候補となるが、「人」「こと」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。050759 の話者 J の発話「この人オーストラリアのことをラリアって」の統語構造を(96)のように示す。

(96) [S1 [VP [NP1 [Det この] [FN 人]] [NP2 [NP3 [N オーストラリア] [P の]] [FN こと] [P を]] [NP4 [N ラリア] [P って]]]]]

相対的に文末に近い N は「ラリア」である。「ラリア」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「ラリア」は、050752 の発話で話者 I が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050752～050759 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、050759 の発話には「ラリア」が話題の要素となっているので、候補となる。「人」「オーストラリア」「こと」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「ラリア」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ラリア」が反復されることになる。

[1-6] ノ格に起こる場合

ここでは、名詞の話者間反復が主節のノ格に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(97)を見られたい。

(97)

060133 K 中国とか異国やもんね、ラインもそういうのも制御されとるし

060134 L そうね、情報…

060135 K YouTube も無理なんやろ？

060136 L あ、そうなん？だからもうびっくりした、あんな…

060137 K 中国専用の YouTube もあるって聞いた、けど、設定を変えたら(うん)、お金払って変えたら見れるらしい、その YouTube

- 060138 L はあはあ、ラインとかも？
- 060139 K うん、そう、誰かに聞いた、やけん、中国用のインスタもあるみたい
- 060140 L じゃ中国人はインスタできんってこと？
- 060141 K できん
- 060142 L まじか、フェイスブックとかも？
- 060143 K フェイスブックもできんと思う(えー)、たぶんたぶんたぶん、フェイスブックできんってこと、だからウィーチャットと(うん)中国のインスタみたいなやつ(笑)
- 060144 L まじか、すげーな
- 060145 K ほんまに厳しい、だからそういうのもさ、人に聞いたりとかさ、ネットで調べて中国は空気悪いとか(うんうん)、中国人こんなんって話聞くけん(うんうん)、実際に中国の真の姿をみたい
- 060146 L そうね、自分で見んとね、結局なんかどっか切り取って言われたりしてるもんね
- 060147 K そう、やけ、留学行く前になんか、ある程度日本のこともわか(うん)、日本のこともわかって、中国の歴史とかも(うんうん)調べてたぶん行くつもり
- 060148 L うんうん、宗教のこととかもちゃんと知っとかんとね
- 060149 K ああ、宗教ね、

ここでは、060148 の発話のうち、「宗教」が反復されている。「宗教のこととかもちゃんと知っとかんとね」は主節であり、「宗教」はノ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 39】のようになる。

【表 39】 (97)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 宗教			*
こと	%	*	*

【表 39】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「宗教」「こと」が名詞であるため、候補となるが、「こと」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。060148 の話者 L の発話「宗教のこととかもちゃんと知っとかんとね」の統語構造を(98)のように示す。

(98) [S₁ [VP [NP₁ [NP₂ [N宗教] [P の]]] [FN こと] [P とかも]]] [Adv ちゃんと] [V 知っとかんと]]
[FP ね]]

相対的に文末に近いNは「宗教」である。「宗教」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「中国の事情」は、060133の発話で話者Kが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060133～060148という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「宗教」「こと」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「宗教」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「宗教」が反復されることになる。

次に、(99)について述べたい。

(99)

- 216JF096 <そうなんだよ>{>}、学校の先生難しいよね、絶対ね。
217JF097 ってか特に中学生だと難しそう。
218JF096 難しい時期だよねー<笑いながら>。
219JF097 うん。
220JF096 なんかさ、高校生になると世の中<分かって>{<}くるからさ、
221JF097 <うーん>{>}、大人になってくるから。
222JF096 バカやんないけど、(うん)あんまり、中学生はほんとバカだから。
223JF097 はちゃめちゃですよね。
224JF096 ほんっとバカ<だから>{<}。
225JF097 <自分>{>}たちも、そうだったもん。
226JF096 うん。
227JF097 <笑い>。
228JF096 何があってもおかしかった。
229JF096 箸が転がってもおかしかったから。
230JF097 そう、何をしても、なんか先生のせいにしたりとか。
231JF096 そう<2人笑い>。
232JF096 あの分かんないと、先生のせい(<笑い>)、とりあえず。
233JF096 授業がつまんないのも、先生のせいなの<2人笑い>。
234JF097 先生が嫌で、うちら1時間、なんか開いたことありますよ、なんか、学活みたい。

ここでは、233JF096の発話のうち、「先生」が反復されている「授業がつまんないのも、先生のせいなの」は主節であり、「先生」はノ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表40】のようになる。

【表 40】 (99) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
授業		*	*
☞ 先生			
せい	%	*	*

【表 40】において、まず、形態的な制約(75)が適用され、「授業」「先生」「せい」が名詞であるため、候補となるが、「せい」は形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。233JF096 の話者 JF096 の発話「授業がつまんないのも、先生のせいなの」の統語構造を(100)のように示す。

(100) [_{S1} [_{NP1} [_{NP2} [_{CP} [_{AP} [_{NP3} [_N 授業] [_P が]]] [_A つまんない]]] [_{FN} の] [_P も]]] [_{NP4} [_N 先生] [_P の]]] [_{FN} せい]] [_{FP} なの]]

相対的に文末に近いNは「先生」である。「先生」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「中学校の先生が難しい」ことは、216JF096～217JF097 の発話で話者 JF096 と話者 JF097 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、216JF096～233JF096 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、233JF096 の発話には「先生」が話題の要素となっているので、候補となる。「授業」「せい」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「先生」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「先生」が反復されることになる。

[1-7] 無助詞に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が主節の無助詞に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(101)を見られたい。

(101)

- 010307 B ああ、山口大学、今日なんか午前中は微妙に降とったよね
 010308 A 降ってた降ってた、うちさ2コマ行ってさ、帰る時、降ってた、もうビショビショになりながら帰った
 010309 B え、そんなに？
 010310 A うん、そうそう、なんかなんか霧雨の強いバージョンみたいな
 010311 B まじで？
 010312 A 音がない雨みたいなやつが降ってた

- 010313 B あそうやったん？
 010314 A うん
 010315 B え，全然分からなかった
 010316 A 朝はね，降ってなかった，2 コマ行く時 10 時ぐらい
 010317 B へー，まじか，全然
 010318 A 今日何があったん？
 010319 B 今日 2 コマあって(うん)だから 3 コマ目から実験やから

ここでは，010318 の発話のうち，「今日」が反復されている。「今日何があったん」は主節である。ここでは，「今日」は時を無助詞で表している。

まず，形態的な制約(75)を適用してみる。「今日」「何」が名詞であるため，候補となる。しかし，「何」は疑問詞であり，「今日」という名詞と異なる。疑問詞は不定語とも呼ばれている。不定性を持っているため，相対的に反復されにくいと考えられる¹⁷。従って，形態的な制約(N)としては，名詞は疑問詞(名詞)より反復されやすいという優先順位がつけられる。(75)を(102)のように改訂する。

(102) 話者間反復(N)の形態的な制約¹⁸：

文(S₁)を構成する要素の中で，以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

名詞 > 疑問詞(名詞) > コロケーション内の名詞・形式名詞

形態的な制約を改訂した上で，この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 41】のようになる。

【表 41】 (101)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 今日		*	
何	%		*

【表 41】において，まず，形態的な制約(102)が適用され，「今日」「何」が名詞であるため，候補となるが，「何」の優先性が低い。次に，統語的な制約(66)が適用される。010318 の話者 A の発話「今日何があったん」の統語構造を(103)のように示す。

¹⁷ 「定性とは，先行する文脈で既に言及されている事物のように，何らかの手段により同定可能な(identifiable)事物を指示することである。」(原口ほか編 2016:142)

¹⁸ ここで疑問詞(名詞)はコロケーション内の名詞や形式名詞より優先性が高いという優先順位をつけたのは，疑問詞(名詞)が反復される会話データが見られるのに対して，コロケーション内の名詞や形式名詞が反復される会話データが見られない。少なくとも現時点では，疑問詞(名詞)はコロケーション内の名詞や形式名詞より反復されやすいと言えるだろう。

(103) [S₁ [VP [NP₁ [N 今日]] [NP₂ [N 何] [P が]]] [V あった]] [FP ん]]

相対的に文末に近いNは「何」である。「何」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「今日の天気」は、010307の発話で話者Bが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010307~010317という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、010318の発話には「今日」が話題の要素となっているので、候補となる。「何」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「今日」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「今日」が反復されることになる。

[2] 述語成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が主節の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(104)を見られたい。

(104)

050319 J でも、かわいい服も欲しいじゃないですか

050320 I そう、そこよ、そこよね

050321 J そこよね

050322 I ね

050323 J まじ

050324 I そこよね、どうしたらいいんだろうね

050325 J 春服ほしいわ、もうちょい

050326 I ね、自分ももうちょい欲しい、けど

……(中略)

050346 I 可愛い服

050347 J ね

050348 I 着たい

050349 J 分かる

050350 I 着たい

050351 J そう、乙女心だわ

050352 I ね、夏は、なんかもうね、なんかもう、いいかなって思っとるんよ、そんなに
ね

050353 J うん

050354 I 去年結構買ったし、フィリピン用で

- 050355 J あー, そっかそっか
 050356 I いいかなって思ったんだけど, 春は欲しい
 050357 J ねー
 050358 I なんかさ, (人名4) さ, あっち行ったらさ, 冬よね
 050359 J 冬, うん, それね

ここでは, 050358 の発話のうち, 「冬」が反復されている。「冬よね」は主節であり, 「冬」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 42】のようになる。

【表 42】 (104) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
(人名4)		*	*
あっち		*	*
☞ 冬			*

【表 42】において, まず, 形態的な制約(102)が適用され, 「(人名4)」「あっち」「冬」が名詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(66)が適用される。050358 の話者 I の発話「(人名4)さ, あっち行ったらさ, 冬よね」の統語構造を(105)のように示す。

(105) [_{S1} [_{CP} [_{VP} [_{NP1} [_N(人名4)] [_{FP}さ]]] [_{NP2} [_Nあっち]] [_V行ったら]] [_{FP}さ]] [_S [_{NP3} [_N冬]] [_{FP}よね]]]

相対的に文末に近い N は「冬」である。「冬」が候補となる。そして, 談話的な制約(22)が適用される。「かわいい服がほしい」ことは, 050319 の発話で話者 J が取り上げたことから, 既知情報となっている。この既知情報は, 050319~050357 という発話の集合体に共通しているので, これが話題となる。従って, 「(人名4)」「あっち」「冬」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で, 最も多くの制約が満たされているものは「冬」であり, これが最適な候補となる。従って, 実際の会話では, この最適候補である「冬」が反復されることになる。

次に, (106)を見られたい。

- (106)
 030001 E すみませんね, いきなり
 030002 F あ, こうやって始まるんや
 030003 E (笑)あの, バイト, アルクの

- 030004 F あ、そうなの？
- 030005 E 先輩の(人名2)さんです
- 030006 F あ、(人名2)さん、はいはい、アルクの？
- 030007 E はい
- 030008 F えー
- 030009 E 一番ベテランだから(笑)
- 030010 F (笑) そうか、どのくらい？
- 030011 E もう四年とかになるんじゃないですか？
- 030012 F (人名1)君がバイト入った時には
- 030013 E いました、いました、すでに
- 030014 F あ、すでに(笑)
- 030015 E しかも、すでにトップクラスのベテランやったんですよ(笑)
- 030016 F (笑) うん、時給とかそういうベテランか

ここでは、030015 の発話のうち、「ベテラン」が反復されている。「すでにトップクラスのベテランやったんですよ」は主節であり、「ベテラン」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 43】のようになる。

【表 43】 (106)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
トップクラス		*	*
☞ ベテラン			*

【表 43】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「トップクラス」「ベテラン」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。030015 の話者 E の発話「すでにトップクラスのベテランやったんですよ」の統語構造を(107)のように示す。

(107) [S₁ [NP₁ [Adv すでに] [NP₂ [N トップクラス] [P の]] [N ベテラン]] [CPL だったんです] [FP よ]]

相対的に文末に近い N は「ベテラン」である。「ベテラン」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「バイトの先輩」は、030003～030005 の発話で話者 E が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030001～030015 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「トップクラス」「ベテラン」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「ベテラン」であり、これが最適候補となる。従って、実際の会話では、

この最適候補である「ベテラン」が反復されることになる。

また、(108)についても検証していく。

(108)

- 030199 E 僕は音楽を流そうってあんまりならないんですよね
- 030200 F あ、そう？
- 030201 E よしじゃあ酒飲むときに音楽を流そうって、あまりなかったことがないという
か
- 030202 F えー、こういう時くらいじゃない？しっかりアルバム一枚さ、聞く機会って
なくない？
- 030203 E うーん
- 030204 F アルバムなんて45分とか1時間とかあるじゃない、日常生活の中じゃなかなか
聞かんからね
- 030205 E 移動でしか音楽聞かないかもしれないですね
- 030206 F あー、確かに確かに、まとまった時間やな、移動も確かに
- 030207 E 地元に戻るっていう時の電車内と新幹線の中
- 030208 F あー、だけ？日常で聞くとしたら
- 030209 E たぶん、でもCDとかちょいちょい買うんすよ
- 030210 F (笑)
- 030211 E だって今日だってCD届くし
- 030212 F あ、そう？えー
- 030213 E うーん、だけど、聞くんすよ一応、でもどこで聞くかって言われると、あと作
業中が多いんすかね、皿洗つとるときとか
- 030214 F あーはいはい、わかるわかる、そうそうそうそう
- 030215 E だけ常にBGMとしてあるもの
- 030216 F あー、こう向き合って
- 030217 E そうそうそうそう
- 030218 F この歌詞沁みるわとか
- 030219 E なんかメロディと歌詞を一緒に追うっていうのが割と苦手なんですよ
- 030220 F えー、はいはいはい
- 030221 E メロディを先に聞いて、二回目に歌詞を聞く
- 030222 F あ、はい、えー
- 030223 E 二周せなあかんのはな(笑)
- 030224 F (笑)
- 030225 E どっちかに集中しません？そうでもないんすか？みんな
- 030226 F あー、どうかな、確かに意外とそんな別に向き合っていないかもな

- 030227 E (笑)
- 030228 F そんな毎回考えてないよな，この歌詞が，例えばたばこ吸う時とか聞かない？俺全然聞くよ
- 030229 E たばこ吸う時はたばこと自分なんで
- 030230 F あ，自分，ほおほお

ここでは，030229 の発話のうち，「自分」が反復されている。「たばこ吸う時はたばこと自分なんで」は主節であり，「自分」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 44】のようになる。

【表 44】 (108)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
たばこ		*	*
時	%	*	*
☞ 自分			*

【表 44】において，まず，形態的な制約(102)が適用され，「たばこ」「時」「自分」が名詞であるため，候補となるが，「時」が形式名詞であるため，優先性が低い。次に，統語的な制約(66)が適用される。030229 の話者 E の発話「たばこ吸う時はたばこと自分なんで」の統語構造を(109)のように示す。

(109) [_{S1} [_{NP1} [_{NP2} [_{CP} [_{VP} [_{NP3} [_Nたばこ]] [_V吸う]]]] [_{FN}時] [_Pは]] [_{NP4} [_Nたばこ] [_Pと]] [_N自分]] [_{CPL}なんで]]

相対的に文末に近い N は「自分」である。「自分」が候補となる。そして，談話的な制約(22)が適用される。「音楽を聞く」ことは，030199～030202 の発話で話者 E と話者 F が取り上げたことから，既知情報となっている。この既知情報は，030199～030228 という発話の集合体に共通しているもので，これが話題となる。従って，「たばこ」「時」「自分」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で，最も多くの制約が満たされているものは「自分」であり，これが最適な候補となる。従って，実際の会話では，この最適候補である「自分」が反復されることになる。

また，(110)について説明していく。

(110)

- 92JF096 まだ試験終わってないけどさー}<{>。
- 93JF097 <あー>{>。

- 94JF097 終わったしくあたし>{<}。
 95JF096 <いいなー>{>}=。
 96JF096 =あ、昨日までだっけ?[↓]。
 97JF097 昨日までで終わりましたよ。
 98JF096 超いい、あーあ。
 99JF097 昨日の試験、なんかしかも前期は感想文だったしく笑い)。
 100JF096 いいなー、そういう楽なのー。
 101JF097 ありえないですよね。
 102JF097 試験じゃないですよね。
 103JF096 試験なんか大変なんだよね、けっこう。
 104JF096 ていうか、日ごろから、英語とか、あれ(あー)、じゃん、なんか、すごい###
 て、教科書見せたじゃん。
 105JF097 そうですよ(よね)>{<}。
 106JF096 <あれ>{>}だからさ。
 107JF097 《沈黙1秒》いいなー。
 108JF096 うん。
 109JF097 昨日の試験、言語学だったんですけどね。
 110JF097 <笑い>えー【
 111JF096 **】** 言語学なのに感想なの?。

ここでは、109JF097 の発話のうち、「言語学」が反復されている。「昨日の試験、言語学だったんですけどね」は主節であり、「言語学」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 45】のようになる。

【表 45】 (110)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
昨日		*	*
☞ 試験		*	
☞ 言語学			*

【表 45】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「昨日」「試験」「言語学」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。109JF097 の話者 JF097 の発話「昨日の試験、言語学だったんですけどね」の統語構造を(111)のように示す。

(111) [S₁ [NP₁ [NP₂ [NP₃ [N 昨日] [P の]] [N 試験]]] [N 言語学]] [CPL だったんです] [FP けどね]]

相対的に文末に近いNは「言語学」である。「言語学」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「試験」は、92JF096の発話で話者JF096が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、92JF096～109JF097という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。すなわち、109JF097の発話には「試験」が話題の要素となっているので、候補となる。「昨日」「言語学」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「試験」「言語学」であり、これらが最適な候補となる、どちらでも反復される可能性があることになる。実際の会話では、話者JF096は最適候補である「言語学」を選んで反復するのである。

次に、(112)について述べたい。

(112)

- 775JF097 <んー>{>}、「JF096 姓」さんのー、
 776JF096 うん。
 777JF097 直の教え子は、あたしと、「人名3 姓」だけなんですか?、<今>{<。
 778JF096 <そう>{>}だよ、そうだよ。
 779JF097 そうくですよね>{<。
 780JF096 <あの一>{>} **【**。
 781JF097 **】**「人名9 姓」さん、やめちゃったし。
 782JF096 そうそうそうそう、もうだから、最初から最後まで教えてあげて、《少し間》
 あもう、今まで残ってるのは、「JF097 名」と「人名3 姓」だけだよ。
 783JF096 てか、教えたのは、「JF097 名」と<「人名3 姓」だけだよ>{<。
 784JF097 <てか>{>}、ラストで入ったのが、うちらと、「人名9 姓」さんぐらいですか
ね>{<。
 785JF096 <そうそう>{>}、「人名9 姓」さんもでも、あの子は、けっこう他の、そんない
 っつもいっつも一緒に入ったわけ…、最初の3回ぐらい一緒に<入ったけ>{<。

ここでは、784JF097の発話のうち、「人名9 姓」さんが反復されている。「ラストで入ったのが、うちらと、「人名9 姓」さんぐらいですかね」は主節であり、「人名9 姓」さんは名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表46】のようになる。

【表 46】 (112)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
ラスト		*	*
うちら		*	*
☞「人名9姓」さん			*

【表 46】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「ラスト」「うちら」「人名9姓」さんが名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。784JF097の話者 JF097 の発話「ラストで入ったのが、うちらと、「人名9姓」さんぐらいですかね」の統語構造を(113)のように示す。

(113) [S₁ [NP₁ [NP₂ [CP [VP [NP₃ [N ラスト] [P で]] [V 入った]]] [FN の] [P が]] [NP₄ [N うちら] [P と]] [N 「人名9姓」さん] [P ぐらい]] [CPL です] [FP かね]]

相対的に文末に近いNは「人名9姓」さんである。「人名9姓」さんが候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「JF096 姓」さんの教え子」は、775JF097~777JF097の発話で話者 JF097 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、775JF097~784JF097 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「ラスト」「うちら」「人名9姓」さんは談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「人名9姓」さんであり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「人名9姓」さんが反復されることになる。

次に、(114)を見られたい。

(114)

- 159JF096 だって、中学校の時は、なんか先生になんか言われても“あー?”とか言ってたしく笑い。
- 160JF097 <笑い>つえー、強いよ。
- 161JF096 あたしほんと、反抗期中学校の時で、(あー)一番荒れてたからさ、も妹もそんな時いじめてたし、すごい。
- 162JF097 <笑い>かわいそうに。
- 163JF096 ##かったねー=。
- 164JF097 =あの妹さん。
- 165JF096 でもね、中2までで、千葉県にいた間はすごい荒れてたけど、
- 166JF097 あー。
- 167JF096 中3で福岡行ったら、それが楽しかったから、学校が、

- 168JF097 あー。
 169JF096 やっぱ学校が楽しいかどうかが重要だよ。
 170JF097 そうですよ。
 171JF096 うん、友達がさ、ふつうにいい子で、
 172JF097 うん。
 173JF096 荒れてなければ自分も荒れないじゃん。
 174JF097 うんうん。
 175JF096 中学校の時つきあった〈友達〉{<},,
 176JF097 〈友達〉{>}大事ですよ。

ここでは、175JF096 の発話のうち、「友達」が反復されている。「友達」は主節であり、「友達」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 47】のようになる。

【表 47】 (114)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 中学校		*	
時	%	*	*
☞ 友達			*

【表 47】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「中学校」「時」「友達」が名詞であるため、候補となるが、「時」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。175JF096 の話者 JF096 の発話「中学校の時つきあった友達」の統語構造を(115)のように示す。

(115) [_{S1} [_{NP1} [_{CP} [_{VP} [_{NP2} [_{NP3} [_N 中学校] [_P の]]] [_{FN} 時]]] [_V つきあった]]] [_N 友達]]]

相対的に文末に近い N は「友達」である。「友達」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「中学校の自分」は、159JF096 の発話で話者 JF096 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、159JF096～175JF096 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、175JF096 の発話には「中学校」が話題の要素となっているので、候補となる。「時」「友達」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「中学校」と「友達」であり、これらが最適な候補となる、どちらでも選ばれて反復される可能性もあることになる。実際の会話では、話者 JF097 は最適候補である「友達」を選んで反復するのである。

5.1.2.2. 従属節

この節では、名詞の話者間反復が従属節に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1] 格成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節の格成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1-1] ガ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節のガ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(116)を見られたい。

(116)

- 429JF094 この天気が私の心を盛り上げない。
430JF095 <何が?>{<}>。
431JF094 <もっと>{>}、もっと盛りあがりたい。
432JF095 あキャンパー?。
433JF094 うん。
434JF094 この(あー)天気 of せいでへこむー。
435JF095 そうだね、確かに。
436JF095 あ天気、9月のほうが晴れてるのかなー?。
437JF095 <どうなんだろう>{<}>。
438JF094 <あー>{>}。
439JF095 いつもどう?。
440JF094 いつも?。
441JF095 キャンプ行った時。
442JF095 雨の時ってあんまない?。
443JF094 8月のお盆はねー、
444JF095 うん。
445JF094 雨が降りそうになってるとか降るとかがある。
446JF095 あ、そうなんだー。
447JF094 お盆だけだね。
448JF095 うーん。
449JF094 うん。
450JF094 8月って微妙だよな。
451JF095 だねー。
452JF094 うん。

- 453JF095 確かに。
 454JF094 9月は一台風さえ来なければ晴れるんじゃない?。
 455JF095 ん、あっ、<台風>{<}。

ここでは、454JF094 の発話のうち、「台風」が反復されている。「台風さえ来なければ」は従属節であり、「台風」はガ格という格関係を持っている。この「が」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 48】のようになる。

【表 48】 (116)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
9月		*	*
☞ 台風			*

【表 48】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「9月」「台風」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。454JF094 の話者 JF094 の発話「9月は一台風さえ来なければ晴れるんじゃない」の統語構造を(117)のように示す。

(117) [S₁ [VP₁ [NP₁ [N 9月] [P は一]]] [CP [VP₂ [NP₂ [N 台風] [P さえ]] [V 来なければ]]] [V 晴れる]] [CPL んじゃない]]

相対的に文末に近いNは「台風」である。「台風」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「キャンプする時の天気」は、429JF094～432JF095 の発話で話者 JF094 と話者 JF095 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、429JF094～454JF094 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「9月」「台風」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「台風」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「台風」が反復されることになる。

次に、(118)を見られたい。

- (118)
 784JM016 そう、一番最初に、あのなんか、輪になって座ったじゃん。
 785JM015 あーあーあー。
 786JM016 あんとき横だったんだよね。
 787JM015 あ、横だったんだ<笑いながら>。

- 788JM016 うん。
- 789JM015 『きつつー』とか(〈笑い〉)思わなかった?〈笑いながら〉〈笑い〉。
- 790JM015 『こいつきつ(うん)つー』って〈笑いながら〉。
- 791JM016 で、そのまた横が「人名 23」君だったのね(〈笑い〉)〈笑い〉。
……(中略)
- 809JM016 したらこう、反対側から「人名 1」が話し掛けてくれた(うん)から(〈軽い笑い〉)、『あー、よかった、こっちいける』と思って(〈笑い〉)。
- 810JM015 あれ、となり誰だったかなー。
- 811JM015 もう覚えてくれない〉{〈} 【】。
- 812JM016 【】〈お前〉{〈}はね、こっち側にいた気がすんくだよねー〉{〈}。
- 813JM015 〈結構〉{〈},,
- 814JM016 うん。
- 815JM015 うん、あの、こうあってさ(うん)、「JM016 あだ名」、こくら辺じゃなかった?。
- 816JM015 ちがかった?。
- 817JM016 分かんない、い、ど、どこが入り口?。
- 818JM015 =〈ここが、ここが〉{〈}。
- 819JM016 〈こっちが、入り口〉{〈}だとするとー(うん)、僕はこの辺だ…、こうあったら。
- 820JM015 あーあー。
- 821JM016 で、「人名 1」がこの辺だったような気がする。
- 822JM015 おれ「人名 1」の結構近くだった(うん)ような気がくするんだけど〉{〈}。

ここでは、821JM016 の発話のうち、「人名 1」が反復されている。「人名 1」がこの辺だったような」は従属節であり、「人名 1」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 49】のようになる。

【表 49】 (118)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 「人名 1」			*
辺	%	*	*
気	%	*	*

【表 49】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「人名 1」「辺」「気」が名詞であるため、候補となるが、「辺」が形式名詞であるため、優先性が低い。「気がする」はコロケーションと見なし、「気」がコロケーション内の名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。821JM016 の話者 JM016 の発話「人名 1」がこの辺だった

ような気がする」の統語構造を(119)のように示す。

(119) [_{S1} [_{VP} [_{CP} [_{NP1} [_{NP2} [_N「人名1」] [_Pが]]] [_{Det}この] [_{FN}辺]]] [_{CPL}だったような]] [_V気がする]]]

相対的に文末に近いNは「人名1」である。「人名1」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「入学する時の思い出」は、784JM016の発話で話者JM016が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、784JM016～821JM016という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「人名1」「辺」「気」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「人名1」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「人名1」が反復されることになる。

次に、(120)を見られたい。

(120)

- 711JF093 あーでもさー、全然関係ないけどさ、関係あんのか、よく分かんないけど、この前実家帰ったときにさ、
- 712JF092 うん。
- 713JF093 高3の時の担任が結婚したって聞いて超びっくりしてー。
- 714JF092 は?。
- 715JF093 高3の時の担任の先生が結婚したらしくてー。
- 716JF092 うん、〈何歳?〉{ }。
- 717JF093 〈なんかー〉{ }、そんなとき、32とか、女の人で32、今、32ぐらいで、
- 718JF092 うんうんうん。
- 719JF093 三十路三十路って言われてて(うん)、で、もう絶対結婚できないって感じだったの。
- 720JF092 何で、どう、見た目がってこと?。
- 721JF093 うん、見た目もそうだし、なんだっけな、“あんたたち、やめなさいよ”とか言ってー、

ここでは、720JF092の発話のうち、「見た目」が反復されている。「何で」は一文であり、「どう」は一文であり、「見た目がってこと」も一文である。「見た目がって」は従属節であり、「見た目」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表50】のようになる。

【表 50】 (120)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 見た目			*
こと	%	*	*

【表 50】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「見た目」「こと」が名詞であるため、候補となるが、「こと」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。720JF092 の話者 JF092 の発話「見た目がってこと」の統語構造を(121)のように示す。

(121) [S₁ [NP₁ [CP [NP₂ [N見た目] [Pが]] [Pって]] [FN こと]]]

相対的に文末に近いNは「見た目」である。「見た目」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「高3の担任先生が結婚した」ことは、713JF093の発話で話者JF093が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、711JF093~720JF092という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「見た目」「こと」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「見た目」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「見た目」が反復されることになる。

[1-2] ヲ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節のヲ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(122)を見られたい。

(122)

- 060047 K (人名1)ちゃん、なんもないん？最近は
 060048 L 大変なこと？
 060049 K うん、大変っていうか、あの
 060050 L 困ってること？
 060051 K 困ってること
 060052 L なくはないけど(うん)、でもなんか、そんなに、まあ、なやん…なや…悩まん
 といけんことやけど(うん)、結局あんま考えようとせん
 060053 K ひとのこと？
 060054 L え？自分のことやけど、そう、いろいろあるけど、なんか考えるのがしんどい
 し

- 060055 K うん
- 060056 L ならもう、なんやろう
- 060057 K じゃあいつそのこと考えんってこと？
- 060058 L そうそう、考えんでも他の楽しいことしよみたいな(うん)、それも逃げやけど(うんうん)、とりあえずまあ、考えとつてもね、ストレスまた増えるだけやし(あー)、だからストレス無くはないけど(うん)、でも一応気分転換はあいだあいだでしよるから(うん)、まあ、大丈夫かなって
- 060059 K おれも考えん方がいいのかな、性格がね、考えてしまうんよ、考え方がめっちゃ深いけんさ
- 060060 L うんうん
- 060061 K この前俺やけん、最近も一時とか二時くらいに、普通に全然バイトとかないんやけど普通に維新公園とか井上公園とか公園行って(うん)、一人で考える時とかがあって、なんかその考えるってべつに泣いてるわけじゃないけど、なんか自分がどうしたらいいかもわからなくなるけんがさ(うんー)、でも考え始めたら長いんよ
- 060062 L 一人で考えるん？それ
- 060063 K うん、友達とおったらなんかさ、なんか
- 060064 L またキャラつくるってこと？
- 060065 K キャラ…自分がキャラつく、めっちゃ作つとるわけではないんよ(うん)、これでもたぶん自分ほんとなんだと思うけど

ここでは、060064の発話のうち、「キャラ」が反復されている。「またキャラつくるって」は従属節であり、「キャラ」はヲ格という格関係を持っている。この「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 51】のようになる。

【表 51】 (122)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ キャラ			*
こと	%	*	*

【表 51】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「キャラ」「こと」が名詞であるため、候補となるが、「こと」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。060064の話者Lの発話「またキャラつくるってこと」の統語構造を

(123)のように示す。

(123) [S₁ [NP₁ [CP [VP [Adv また] [NP₂ [N キャラ]] [V つくる]] [P って]] [FN こと]]]

相対的に文末に近いNは「キャラ」である。「キャラ」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「最近の悩み」は、060047～060050の発話で話者Kと話者Lが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060047～060064という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「キャラ」「こと」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「キャラ」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「キャラ」が反復されることになる。

次に、(124)を見ていく。

(124)

- 050676 I 髪染めたい、やっぱり、でもな、すぐ落ちるけさ
050677 J 落ちるよね、すぐ落ちた
050678 I よね、落ちるよね、やっぱ
050679 J 染めてあげようか？
050680 I (笑)
050681 J (笑)遠慮しとく
……(中略)
050703 J でも、ピンク系も懂れる
050704 I うん
050705 J 春やし
050706 I うん、やっぱ、ピンクいいよね
050707 J ねー、でも、オレンジ系も好きやけどね
050708 I うんうんうん、でも、オレンジでも落ちればなるけ
050709 J あー、まあね
050710 I と思ったら、ピンクはやった方がいい
050711 J ピンク、次ピンクしようかな

ここでは、050710の発話のうち、「ピンク」が反復されている。「ピンクはやった」は従属節であり、「ピンク」はヲ格という格関係を持っている。ここの「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 52】のようになる。

【表 52】 (124)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
⑤ ピンク			*
方	%	*	*

【表 52】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「ピンク」「方」が名詞であるため、候補となるが、「方」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。050710の話者Iの発話「と思ったら、ピンクはやった方がいい」の統語構造を(125)のように示す。

(125) [S₁ [CP₁ [Pと] [VP₁ [V思ったら]]] [S [AP [NP₁ [CP₂ [VP₂ [NP₂ [Nピンク] [Pは]]] [Vやった]]] [FN方] [Pが]] [Aいい]]]]]

相対的に文末に近いNは「ピンク」である。「ピンク」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「髪を染めたい」ことは、050676の発話で話者Iが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050676～050710という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「ピンク」「方」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「ピンク」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ピンク」が反復されることになる。

次に、(126)について述べたい。

(126)

- 432JF096 家族には、わがままばかり言ってるし。
 433JF097 うん。
 434JF096 彼氏にも<2人笑い>。
 435JF097 そうなんだ<笑い>。
 436JF096 だって、“「人名29名」ってどうしてそんなにわがままなの?”とか言われたからね。
 437JF097 え、言われたんですか?<笑い>。
 438JF096 ていうか、あたしがそんなにわがまま言っていないのに、(ん)彼も、彼は自分は言ってること、気づいてないんだ、自分で。
 439JF097 あー。
 440JF096 だから、だからなんだけど。
 441JF096 なんか、あ、
 442JF097 気づいて<ないんだ>{<}。

- 443JF096 <“し、しょうがない>{>}な一、「人名 29 名」は” (<笑い>)、みたいな感じで一、《少し間》超さ、もう…。
- 444JF097 <大笑い>。
- 445JF096 「人名 1 名」ちゃんは、わがママとか言わなそうだけど、どう?。
- 446JF097 え、わがママ?。
- 447JF097 どんな感じ?。

ここでは、445JF096 の発話のうち、「わがママ」が反復されている。「人名 1 名」ちゃんは、わがママとか言わなさそうだけど」は従属節であり、「わがママ」はヲ格という格関係を持っている。この「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 53】のようになる。

【表 53】 (126)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
「人名 1 名」ちゃん		*	*
☞ わがママ			

【表 53】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「人名 1 名」ちゃん「わがママ」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。445JF096 の話者 JF096 の発話「人名 1 名」ちゃんは、わがママとか言わなさそうだけど、どう」の統語構造を(127)のように示す。

(127) [S₁ [CP [VP [NP₁ [N 「人名 1 名」ちゃん] [P は]]] [NP₂ [N わがママ] [P とか]]] [V 言わなさ]] [CPL そうだ] [P けど]] [S [Adv どう]]]

相対的に文末に近い N は「わがママ」である。「わがママ」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「彼氏にわがママを言う」ことは、432JF096～434JF096 の発話で話者 JF096 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、432JF096～445JF096 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、445JF096 の発話には「わがママ」が話題の要素となっているので、候補となる。「人名 1 名」ちゃんは談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「わがママ」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「わがママ」が反復されることになる。

[1-3] 二格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節の二格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(128)を見られたい。

(128)

- 681JF094 でもかなり難しい、ロシア語の授業なのね。
 682JF095 え、でもそんな授業をとる一、かな一。
 683JF094 いや、ふっと来てみた、のかな。
 684JF095 わかんない、うん。
 685JF094 なんか、完了態と不完了態とかさ一。
 686JF095 は?<2人笑い>。
 687JF094 そういのやってる授業で一。
 688JF095 え、完了態と不完了態っていうのは(うん)、あの一、あの一、態。
 689JF094 態。
 690JF095 態、受動態とかの態?。
 691JF094 うん、うん。
 692JF095 あっ。
 693JF094 そう。
 694JF094 もう、私もお手上げだ一。
 695JF095 そうなんだ一、<なんでいたんだろう>{<。>。
 696JF094 <切りたい>{>。</>>。
 697JF094 《沈黙 5 秒》 あっ。
 698JF094 終わりにした方がいい?。
 699JF095 うん。
 700JF095 《沈黙 2 秒》 あ、終わり。
 701JF095 <そろそろ?>{<。>。

ここでは、698JF094 の発話のうち、「終わり」が反復されている。「終わりにした」は従属節であり、「終わり」は二格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 54】のようになる。

【表 54】 (128)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 終わり			*
方	%	*	*

【表 54】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「終わり」「方」が名詞であるため、候補となるが、「方」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。698JF094 の話者 JF094 の発話「終わりにした方がいい」の統語構造を(129)のように示す。

(129) [_{S1} [_{AP} [_{NP1} [_{CP} [_{VP} [_{NP2} [N 終わり] [_P に]]] [_V した]]] [_{FN} 方] [_P が]] [_A いい]]]

相対的に文末に近いNは「終わり」である。「終わり」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「ロシア語の授業」は、681JF094 の発話で話者 JF094 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、681JF094～695JF095 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「終わり」「方」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「終わり」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「終わり」が反復されることになる。

[1-4] デ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節のデ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(130)を見られたい。

(130)

- 24JM013 そうそう、留学生のさ(あ、あ)、あったじゃん。
 25JM014 あんあん。
 26JM013 あれさ、せ、説明聞いた?、お前。
 27JM014 うまい具合に話題作ったね<軽い笑い>。
 28JM013 <大きな笑い>お前は、だって<笑いながら>、普通に聞きたかったの、この話は。
 29JM014 あ、そうなの<軽く笑いながら>。
 30JM013 留(あん)学の(あん)、あれ、おま、あれ分かる?。
 31JM014 何が?。
 32JM013 あれだけ見て[↓]。
 33JM014 全然分か<くないよ>{<}。
 34JM013 <<笑い>分か<ん>{<}ないよね<笑いながら>。
 35JM014 <つか>{<},,
 36JM013 <説>{<}明で何か言ってた?。
 ……(中略)
 73JM013 それでなんか、とにかくそういう話をしたぐらいだよ。

- 74JM013 <何分ぐらい?>{<}.
 75JM014 <で、結局なんか>{>},,
 76JM014 うん?。
 77JM013 何分ぐらい、何分ぐらい?[伸びをしながら聞いている様子]。
 78JM014 覚えてない、そんなの<軽い笑い>。
 79JM014 とにかく、あー、終わって結構すぐに###が始まったから、そんなもん。
 80JM013 ふーん。
 81JM014 だから、そいでー、なんだなん、なんつーの、あ、[咳払い]、もう結局、なんか大変なんだなーつつのは分かったなー、(<笑い>)みたいな。
 82JM014 <軽い笑い>俺としては<笑いながら>。
 83JM014 とにかく、情報を集めろっていう。
 84JM013 でも、情報とか無理じゃねー?。
 85JM013 ていうか、そういうのって学校でやってくれるもんなんじゃないんすかね
ー、って話じゃくない?>{<}。
 86JM014 <そう>{>}、学校のホームページ見ても、何にも書いてないもんね。

ここでは、85JM013の発話のうち、「学校」が反復されている。「そういうのって学校でやってくれるもんなんじゃないんすかねー」は従属節であり、「学校」はデ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 55】のようになる。

【表 55】 (130)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 学校			*
話	%	*	*

【表 55】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「学校」「話」が名詞であるため、候補となるが、「話」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。85JM013の話者 JM013の発話「そういうのって学校でやってくれるもんなんじゃないんすかねー、って話じゃない」の統語構造を(131)のように示す。

(131) [S₁ [NP₁ [CP [NP₂ [VP [NP₃ [連体詞 そういう] [FN の] [P って]]] [NP₄ [N 学校] [P で]]] [V やってくれる]]] [FP もんなんじゃないんすかねー] [P って]]] [FN 話]] [CPL じゃない]]

相対的に文末に近いNは「学校」である。「学校」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「留学の説明」は、24JM013~26JM013の発話で話者 JM013が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、24JM013~85JM014 という発話の集合

体に共通しているのです、これが話題となる。従って、「学校」「話」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「学校」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「学校」が反復されることになる。

[1-5] ト格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節のト格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(132)を見られたい。

(132)

- 030041 E ある、信じてるけど、そうでもない、まあいいんじゃないんですか、一人で飲むの、たのしいでしょ
- 030042 F (笑) え、どうやって飲んでる？俺さ、俺がやったのは部屋真っ暗にして
- 030043 E (笑) へー
- 030044 F それでプラネタリウム見ながら、なんか音楽かけるっていう
- 030045 E えー、それこそ酒メインじゃないじゃないですか、空間メインになってる
- 030046 F あー、はいはいはい、うんうん、確かになんか焼き鳥とかおつまみ買ったけどさ、何喰っているかわかんないんだよね
- 030047 E うーん
- 030048 F ぼんじりな気もするし
- 030049 E ダメでしょ (笑)
- 030050 F モモな気もする
- 030051 E 明るくしなさいよ (笑) , 僕は酒メインですから
- 030052 F ああ、はいはいはい
- 030053 E あ、でもたぶんあの間接照明あったでしょ？
- 030054 F あ、はいはい
- 030055 E 間接照明がちょうど酒にはあたる位置なんですよ
- 030056 F はいはい、酒は見える
- 030057 E そう、酒は見える、手元は見えるから、酒だけ見えりゃいいから
- 030058 F (笑) あー、はあはあはあ
- 030059 E 酒と向き合う時間
- 030060 F あ、お酒がメインか、やっぱ

ここでは、030059の発話のうち、「酒」が反復されている。「酒と向き合う」は従属節であり、「酒」はト格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表56】のようになる。

【表 56】 (132)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 酒		*	
☞ 時間			*

【表 56】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「酒」「時間」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。030059 の話者 E の発話「酒と向き合う時間」の統語構造を(133)のように示す。

(133) [_{S1} [_{NP1} [_{CP} [_{VP} [_{NP} [_N酒] [_Pと]]] [_V向き合う]]] [_N時間]]]

相対的に文末に近い N は「時間」である。「時間」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「1人で酒を飲む」ことは、030041 の発話で話者 E が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030041～030059 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、030059 の発話には「酒」が話題の要素となっているので、候補となる。「時間」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「酒」と「時間」であり、これらが最適な候補となる、どちらでも選ばれて反復される可能性があることになる。実際の会話では、話者 F は最適候補である「酒」を選んで反復するのである。

[2] 述語成分に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が従属節の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(134)を見られたい。

(134)

060075 K フィリピン行く準備は順調なん？

060076 L フィリピンはとりあえずメール帰ってきて(うん)、いろいろお金のこととかで(あー)聞きたいことがあって聞いて、やっと帰ってきて(うん)、で、だから、そうね、ある程度の情報はあったから(うん)、あとは申し込んで(うん)、休学届だして(うん)、でまあ、いろいろ準備したら行けるはず(あ)、そう、最悪は別にフィリピンは、学校は行かんでもいいと思っとるし(うんうん)、### #準備が間に合わなかったらというか(うん)、問題が起こったら、キャンセルしてでも

060077 K ほかの道もあるしね

- 060078 L そうそうそう，だから，メインはやっぱ一人で向こうを動くこと(うんうん)，
やし，その時間が長すぎるっていうのと，一年間もあるし(うんうん)，って
いうのと，やっぱ英語力持ち上げといた方がスムーズに行くかなっていうので
(うんうん)，フィリピンの学校行きたいなって思ったくらいやし(うんうん)，
そっちはメインじゃないけど(うん)，行けたら行こうかなって
- 060079 K なるほどね，その，一人で行ける準備じゃないけど
- 060080 L そうそうそう，ただの通過点っていうか
- 060081 K 通過点

ここでは，060080 の発話のうち，「通過点」が反復されている。「ただの通過点って」は従属節であり，「通過点」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 57】のようになる。

【表 57】 (134) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
ただ		*	*
⇒ 通過点			*

【表 57】において，まず，形態的な制約(102)が適用され，「ただ」「通過点」が名詞であるため，候補となる。次に，統語的な制約(66)が適用される。060080 の話者 L の発話「ただの通過点っていうか」の統語構造を(135)のように示す。

(135) [S₁ [VP [CP [NP₁ [NP₂ [N ただ] [P の]]] [N 通過点]]] [P って] [V いう]] [FP か]]

相対的に文末に近い N は「通過点」である。「通過点」が候補となる。そして，談話的な制約(22)が適用される。「フィリピンに行く」ことは，060075 の発話で話者 K が取り上げたことから，既知情報となっている。この既知情報は，060075～060080 という発話の集合体に共通しているもので，これが話題となる。従って，「ただ」「通過点」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で，最も多くの制約が満たされているものは「通過点」であり，これが最適な候補となる。従って，実際の会話では，この最適候補である「通過点」が反復されることになる。

次に，(136)について述べたい。

(136)

030099 E 会話が途切れない人って一定の数いますよね

- 030100 F ああ、はいはい、あっという間に時間がたつみたいな
 030101 E 元カノもそうでしたし
 030102 F ああ、はいはいはいはいはい
 030103 E 会話が途切れるまで、どこまで会話できるんかやってみようって行って(ああ)、
 カフェで五時間つぶしたことがあります
 030104 F あー、聞いたことあるな、やばいよなー
 030105 E いうほど、話題に事欠かんわけじゃないんですよ別に、話題が豊富ってわけでも
 ないし
 030106 F うん、はいはい
 030107 E 波長？
 030108 F 波長
 030109 E 波長が合うみたいな
 030110 F なんだろう波長って、考え方とかってことなんかな
 030111 E 考え方は割と真逆ですね

ここでは、030110の発話のうち、「考え方」が反復されている。「なんだろう波長って」は一文であり、「考え方とかってことなんかな」は一文である。「考え方とかって」は従属節であり、「考え方」は名詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表58】のようになる。

【表58】 (136)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 考え方			*
こと	%	*	*

【表58】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「考え方」「こと」が名詞であるため、候補となるが、「こと」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。030110の話者Fの発話「考え方とかってことなんかな」の統語構造を(137)のように示す。

(137) [_{S1} [_{NP1} [_{CP} [_{NP2} [_N 考え方] [_P とか]]] [_P って]]] [_{FN} こと]] [_{FP} なんかな]]

相対的に文末に近いNは「考え方」である。「考え方」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「元彼女と会話が途切れない」ことは、030099～030101の発話で話者Eが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030099～030110という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「考え方」「こと」は談

話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「考え方」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「考え方」が反復されることになる。

5.1.2.3. 倒置文

本節では、名詞の話者間反復が倒置文に起こる場合の会話データを見ていく。

[1] 格成分に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が倒置文の格成分に起こる場合の会話データを見ていく。

[1-1] ガ格に起こる場合

本節では、名詞の話者間反復が倒置文のガ格に起こる場合の会話データを見ていく。まず、(138)を見られたい。

(138)

070097 N いつが暇？(人名4)

070098 M え？もう来週とか暇よ、ていうかなんならこの土日もバイト以外ない、あ、土曜日はPBLあるけど(うんうん)、え、今日も、金曜日？

070099 N 今日は木曜日

070100 M 木曜日か、うん、土曜はPBLあるけど、それ以外金土日バイトしかない、夜の

070101 N まじ？

070102 M うん、(人名5)は？バイト？

070103 N わたしは、ちょい待ってね、たぶん

070104 M ほんまにだからね、急に暇になっ、暇すぎて早くバイトをしなあかん

070105 N あーチョコレート

070106 M いひひ、ブラックやで、しかも

070107 N そう、今気づいた(笑)

070108 M (笑)うん、ほんまに、だって今のところ6月、ほぼPBLかバイトかしかないもん、予定

070109 N 予定が？

070108の発話では、「ほぼPBLかバイトかしかないもん、予定」は倒置文であり、通常の語順の文である「予定ほぼPBLかバイトかしかないもん」の「予定」と「ほぼPBLかバイトかしかないもん」に倒置が起こっている。その上で、「予定」が反復されている。「予定」はガ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表59】のようになる。

【表 59】 (138)の話者間反復に関する制約のタブロー

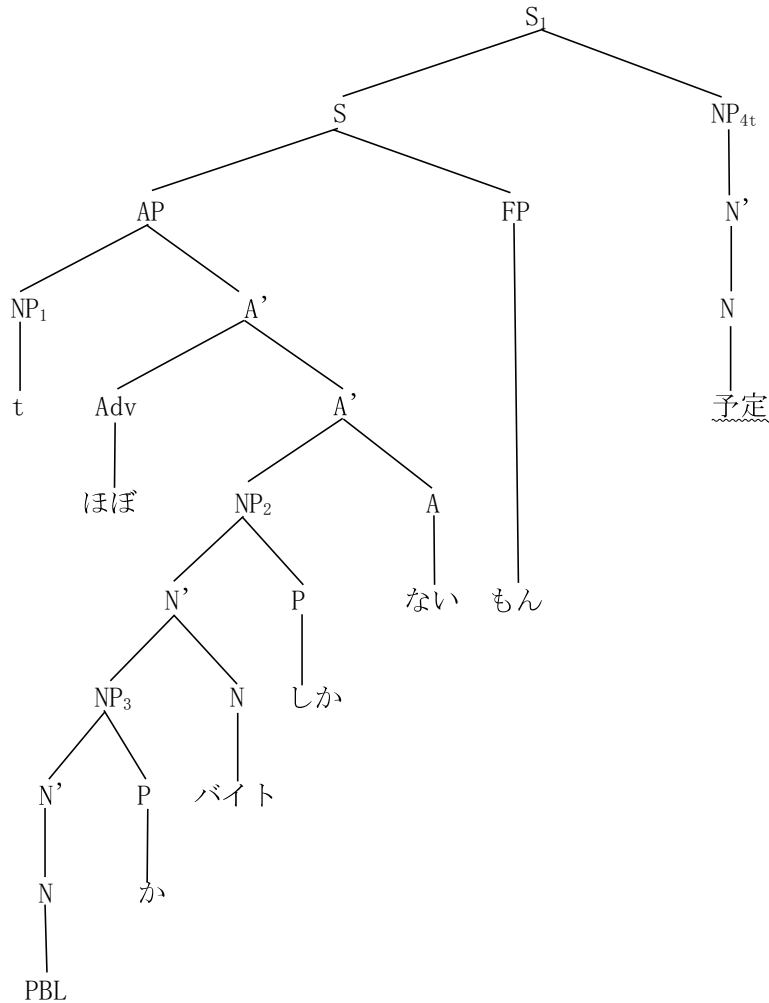
候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
PBL		*	*
バイト		*	*
☞ 予定			

【表 59】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「PBL」「バイト」「予定」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。070108 の話者 M の発話「ほぼ PBL かバイトかしかないもん、予定」の統語構造を(139)のように示す。

(139) [S₁ [S [AP [NP₁t] [Adv ほぼ] [[NP₂ [NPBL] [Pか]] [NP₃ [Nバイト] [Pか]] [Pしか]] [Aない]] [FPもん]] [NP₄ [N予定.t]]]

具体的に樹形図で示すと、(140)のようになる。

(140)



この文構造はNP₄「予定」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末のNP₄に位置している。倒置した後、相対的に文末に近いNは「予定」である。「予定」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「予定」は、070097の発話で話者Nが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、070097~070108という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、070108の発話には「予定」が話題の要素となっているので、候補となる。「PBL」「バイト」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「予定」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「予定」が反復されることになる。

[1-2] ヲ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文のヲ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(141)を見られたい。

(141)

030256 F へー，でも好きな女優いるじゃんその松雪泰子さん

030257 E あ，はい，めっちゃ好きです

030258 F あの人がさ，バラエティ出るときとか，チェックしたくない？

030259 E あー全然見てねーな

030260 F 演技してる松雪泰子さんが好きなの？

030261 E 居ればいからな（笑）

030262 F （笑）いやいや，バラエティとかチェックするもんじゃないの？ファンやったら

030263 E バラエティあんま出ないんすよね

030262 の発話では、「バラエティとかチェックするもんじゃないの？ファンやったら」は倒置文であり、通常の語順の文である「ファンやったら，バラエティとかチェックするもんじゃないの？」の「ファンやったら」と「バラエティとかチェックするもんじゃないの？」に倒置が起こっている。その上で、「バラエティ」が反復されている。「バラエティ」はヲ格という格関係を持っている。ここの「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと，【表 60】のようになる。

【表 60】 (141) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ バラエティ		*	
☞ ファン			*

【表 60】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「バラエティ」「ファン」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。030262 の話者 F の発話「バラエティとかチェックするもんじゃないの？ファンやったら」の統語構造を(142)のように示す。

(142) [S₁ [S [CP₁t]] [S [VP [NP₁ [N バラエティ] [P とか]] [V チェックする]] [FP もんじゃないの]]] [CP₂ [NP₂ [N ファン]] [CPL やったら t]]]

この文構造は CP₂「ファンやったら」が倒置した後のものである。CP₁は移動によって文末の CP₂に位置している。倒置した後、相対的に文末に近い N は「ファン」である。「ファン」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「松雪泰子さんがバラエティに出る」ことは、030256～030258 の発話で話者 F が取り上げたことから、既知情報となっている。

る。この既知情報は、030256～030262 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、030262 の発話には「バラエティ」が話題の要素となっているので、候補となる。「ファン」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「バラエティ」と「ファン」であり、これらが最適な候補となる、どちらでも選ばれて反復される可能性もあることになる。実際の会話では、話者 E は最適候補である「バラエティ」を選んで反復するのである。

次に、(143)を見ていく。

(143)

212JM020 あ、木曜日[何か思い出したように]、「JM019 あだ名」、結局研究会どうしたの?。

213JM019 あ、行くよ、今度。

214JM019 ちょっと、先週とかライブで行けなくて、先々週はバイトで行けなくて。

215JM019 だから。

216JM020 長い。

217JM019 長いんだ、あれ。

218JM020 なん、たまにすげー長い。

219JM019 あー。

220JM019 え、どういう風にやってんの?。

221JM019 先生が何かいうの?。

222JM020 違う。

223JM019 院生とかが発表すんの?、なんか。

224JM020 こう、なんか、修士とか、卒論とかやってんの中の中間発表とか、“どうしたらいいですか”と、あとなんか、院生が見てる、なんかいろいろ、なんだろう、自閉症とかいてー(うん)、その人について(あー)症例検討会みたいのと。

225JM019 え、その,,

226JM020 あと試験、試験じゃない、検査…,,

227JM019 のほ、検査法とか?。

228JM020 を、発表してっていう。

229JM019 うえ、もう、そこに行くの?、研究室。

230JM020 どうしよう。

231JM019 どこ、とか、どことどこ迷ってるの?。

232JM020 行動情緒かー、(うん)そこかだね、「人名 3」先生。

233JM019 「人名 3」先生んところは、大体何なの?。

234JM019 そういう,,

235JM020 <児童、虐待??>{<}

236JM019 <事例検証>{>}みたいな感じなの?。

- 237JM019 虐待[↑]、あー。
 238JM020 子ども虐待とか。
 239JM019 なんかい、おれ、「人名 4」先生とこ行こうと思ったけど、臨床やってなくて一、その、
 240JM020 え、どういう意味?、<臨床>{<}。

239JM019 の発話では、「おれ、「人名 4」先生とこ行こうと思ったけど、臨床やってなくて一、その」は倒置文であり、通常の話順の文である「おれ、「人名 4」先生とこ行こうと思ったけど、その臨床やってなくて一」の「その」と「臨床やってなくて一」に倒置が起こっている。その上で、「臨床」が反復されている。「臨床」はヲ格という格関係を持っている。ここの「を」は格助詞の非標示によって省略されている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 61】のようになる。

【表 61】 (143) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おれ		*	*
「人名 4」先生		*	*
とこ	%	*	*
☞ 臨床			*

【表 61】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「おれ」「人名 4」先生「とこ」「臨床」が名詞であるため、候補となるが、「とこ」が形式名詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(66)が適用される。239JM019 の話者 JM019 の発話「おれ、「人名 4」先生とこ行こうと思ったけど、臨床やってなくて一、その」の統語構造を(144)のように示す。

(144) [_{S1} [_{CP1} [_{VP1} [_{CP2} [_{VP2} [_{NP1} [_Nおれ]]] [_{NP2} [_{NP3} [_N「人名 4」先生] [_Pん]]] [_{FN}とこ]]] [_V行こう]] [_Pと]]] [_V思った]] [_Pけど]] [_S [_{VP3} [_{NP4} [_{Det1t}] [_N臨床]]] [_Vやってなくて一]] [_{Det2} その t]]]

この文構造は Det₂「その」が倒置した後のものである。Det₁は移動によって文末の Det₂に位置している。倒置した後、相対的に文末に近い N は「臨床」である。「臨床」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「研究会の内容」は、212JM020 の発話で話者 JM020 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、212JM020～239JM019 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「おれ」「人

名 4] 先生」[とこ]「臨床」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「臨床」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「臨床」が反復されることになる。

[1-3] ノ格に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文のノ格に起こる場合の会話データを取り上げる。まず、(145)を見られたい。

(145)

060213 K 楽しもう(うん、そうね)、なんか俺聞くか…聞く、聞かん方がいいと思うんやけど、なんか前から気になってたのがさ、(人名 11)達別れたよね？前わかってたけど(うん)、でもなんかなんで急になって思って、喧嘩したとかじゃないん？

060214 L なんかね

060215 K うん、いや、それ本当に言わんけんさ、でも(人名 11)には聞けんやん

060216 L うん、普通に単純に(うん)、何か(人名 11)はバイトいっぱいせんといけん

060217 K あー

060218 L で、(人名 12)ちゃんはバイト、まあ親がお金を送ってるっていうのもあるんやろうけど(あー)、バイトせんでも(うん)、言ったら遊ぶ時間、お金もあって

060219 K うん

……(中略)

060253 K ね、まじでかわいそう

060254 L もしかしたら変わったんやろうね、お互い時間も合わんし

060255 K え、やけんが、そのたばこ始め…結構ガッて吸い始めたのも、それがきつかけなん？

060256 L いやたばこはね

060257 K 前から吸とったのは

060258 L そう、ちょっとは吸とったやろうけど

060259 K わかっとったけど、前はあの彼女があれ許さんけっていう話

060260 L そうそうそう、控えとった、わからん、でも増えたりはしとうね

060261 K うんー、いやー、俺が言えんけどね、そんな、けど 気持ちはわかるけんが さ、(人名 11)の

060262 L うんー、(人名 11)もね、結構傷ついとったやろうね

060261 の発話では、「俺が言えんけどね、そんな」は一文であり、「気持ちはわかるけんがさ、(人名 11)の」は一文である。「気持ちはわかるけんがさ、(人名 11)の」は倒置文であ

り、通常の話順の文である「(人名 11)の気持ちはわかるけんがさ」の「(人名 11)の」と「気持ちはわかるけんがさ」に倒置が起こっている。その上で、「(人名 11)」が反復されている。「(人名 11)」はノ格という格関係を持っている。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 62】のようになる。

【表 62】 (145)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
気持ち		*	*
☞ (人名 11)			

【表 62】において、まず、形態的な制約(102)が適用され、「気持ち」「(人名 11)」が名詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(66)が適用される。060261 の話者 K の発話「気持ちはわかるけんがさ、(人名 11)の」の統語構造を(146)のように示す。

(146) [S₁ [S [VP [NP₁ [NP₂ t] [N 気持ち] [P は]] [V わかる]] [FP けんがさ]] [NP₃ [N(人名 11)] [P の] t]]

この文構造は NP₃「(人名 11)の」が倒置した後のものである。NP₂は移動によって文末の NP₃に位置している。倒置した後、相対的に文末に近い N は「(人名 11)」である。「(人名 11)」が候補となる。そして、談話的な制約(22)が適用される。「(人名 11)と(人名 12)が別れた」ことは、060213 の発話で話者 K が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060213~060261 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、060261 の発話には「(人名 11)」が話題の要素となっているので、候補となる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「(人名 11)」であり、これが最適候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「(人名 11)」が反復されることになる。

[1-4] 無助詞に起こる場合

この節では、名詞の話者間反復が倒置文の無助詞に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(147)を見られたい。

(147)

040001 G なんしよった最近?

040002 H 最近? 最近は、3月の頭に、あの部活の演奏会があつて

040003 G うん

- 040004 H それ終わってからはずっとバイトしよる
 040005 G (笑)ドレス着とったよね?
 040006 H あっ, あれはそう, 一部のダンス隊みたいな人が踊るんよ, 可愛かったね

040001 の発話では, 「なんしよった最近」は倒置文であり, 通常の話順の文である「最近なんしよった」の「最近」と「なんしよった」に倒置が起こっている。その上で, 「最近」が反復されている。ここでは, 「最近」は時を無助詞で表している。

この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 63】 のようになる。

【表 63】 (147) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
なん	%	*	*
☞ 最近			*

【表 63】において, まず, 形態的な制約(102)が適用され, 「なん」「最近」が名詞であるため, 候補となるが, 「なん」が疑問詞であるため, 優先性が低い。次に, 統語的な制約(66)が適用される。040001 の話者 G の発話「なんしよった最近」の統語構造を(148)のように示す。

(148) [S₁ [S [VP [NP_{1t}] [NP₂ [N なん]] [V しよった]]] [NP₃ [N 最近_t]]]

この文構造は NP₃「最近」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₃に位置している。倒置した後, 相対的に文末に近い N は「最近」である。「最近」が候補となる。そして, 談話的な制約(22)が適用される。この会話は 040001 から始まり, 話者 G は「最近の出来事」という話題を提示したが, 話者 H がまだどう受け止めるか判断できないため, 040002 の発話する時点までは, 話題は存在しないので, 候補もない。従って, 「なん」「最近」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で, 最も多くの制約が満たされているものは「最近」であり, これが最適な候補となる。従って, 実際の会話では, この最適候補である「最近」が反復されることになる。

5.1.3. 話者間反復(N)の制約について

5.1 では, 名詞が1つと, 名詞が2つ以上現れる会話データを観察した。名詞が1つの場合では, 形態的・統語的・談話的な制約の仮説を立てて検証した。名詞が2つ以上の場合では, その仮説を修正し検証した。名詞が反復される場合の形態的・統語的・談話的な制約を再掲すると, 次の通りである。

(149) (= (102)) 話者間反復(N)の形態的な制約:

文(S₁)を構成する要素の中で、以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

名詞 > 疑問詞(名詞) > コロケーション内の名詞・形式名詞

(150) (= (66)) 話者間反復(N)の統語的な制約:

S₁の文末に相対的に近いNが反復される。

(151) (= (22)) 話者間反復(N)の談話的な制約:

文(S₁)においては、話題となる名詞が反復される。

(149)の形態的な制約では、名詞が反復されやすいが、疑問詞(名詞)、コロケーション内の名詞・形式名詞は相対的に反復されにくい。現時点までの会話データに現れた疑問詞(名詞)は、「何」「なん」である。疑問詞は名詞よりは定性が相対的に低いため、反復されにくいと考えられる。現時点までの会話データに現れたコロケーション内の名詞は、「人当たりきつ」の「人当たり」、「暇を持て余しとる」の「暇」、「気んなってる」の「気」、「気がする」の「気」である。形式名詞は、「時」「量」「人」「こと」「せい」「辺」「方」「話」「とこ」である。コロケーション内の名詞と形式名詞は名詞より独立性が相対的に低いため、反復されにくいと考えられる。

(150)の統語的な制約で、S₁の文末に相対的に近いNが反復されるというのは、反復されるNはおそらくS₁の中で「文末により近い位置を指向」しているのではないかと考えられる。

(151)の談話的な制約で、話題となる名詞が反復されるというのは、話者間反復には先行研究で言及されたような話題の継続、展開、提示など、談話構成上の機能が働いていると考えられる。

以上より、名詞が反復される場合、名詞がS₁のどこに起こっても、同じ形態的・統語的・談話的といった3つの制約に従って、最適な要素が選ばれて反復されることが分かった。

5.2. 動詞が反復される場合

本節では、動詞が反復される場合を分析していく。S₁内にある動詞の数によって、動詞が1つの場合と、動詞が2つ以上の場合に大きく分けて分析し、大きく分けて分析し、動詞が反復される場合の形態的・統語的・談話的な制約を立てて検証していく。

5.2.1. 動詞が1つの場合

本節では、動詞が1つの場合を分析していく。そして、話者間反復がS₁に起こる位置によって、次のような3種類が観察されている。

- 話者間反復が主節に起こる場合
- 話者間反復が従属節に起こる場合
- 話者間反復が倒置文に起こる場合

以下、これらを順に観察していく。

5.2.1.1. 主節に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が主節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 述語成分に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が主節の述語成分に起こる場合の会話データを扱う。
まず、(152)を見られたい。

(152)

- 040353 G うん、だけ、いいね0件とかが普通？多い？っていうか
040354 H そうやね、そんな感じやったかな
040355 G 今更さ、いいねする人おるくない？(笑)
040356 H え？でも見ようと思えば、え、なんかよく、え？
040357 G なんか
040358 H わざわざプロフィールに飛ばんと
040359 G 飛ばんと、気づかん
040360 H 気づかん、まあそうやね、分からんじゃん、やめとこ、私、投稿せんわ、静かに楽しむわ
040361 G (笑)
040362 H はー
040363 G そう、宮島行ったって言いよったじゃん
040364 H うん

040365 G すごいよ、だけ下道通って行ったんよ

040366 H え、待って、ほんとにあの3人で行った? (笑)

040367 G マジで行っただって (笑)

(152)では、040366の発話のうち、「行った」が反復されている。また、040366の発話のうち、「待って」は一文であり、「ほんとにあの3人で行った」も一文である。「ほんとにあの3人で行った」は主節であり、「行った」は動詞述語である。

ここでは、なぜ「行った」が反復されるのかについて、形態的な観点、統語的な観点、談話的な観点から観察し、それぞれの制約を仮定していく。

まず、形態的な観点から見ると、反復される「行った」は動詞である。そこで、次のような話者間反復(V)の形態的な制約を仮定する。

(153) 話者間反復(V)の形態的な制約：

文(S_i)を構成する要素の中で、動詞が反復される。

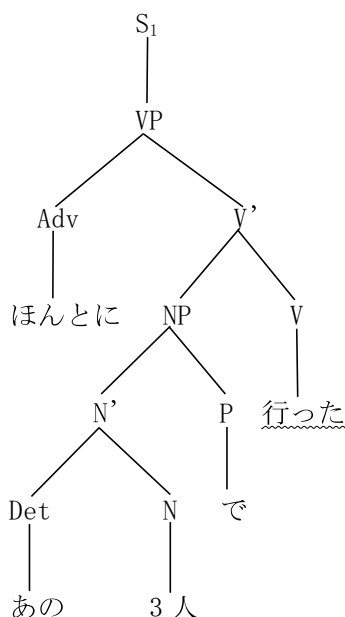
(153)では、形態的な情報のうち、品詞の情報を参照している。

次に、統語的な観点から見ていく。040366の話者Hの発話「ほんとにあの3人で行った」の統語構造を(154)のように示す。

(154) [S_I [VP [Adv ほんとに] [NP [Det あの] [N3 人] [P で]] [V 行っただって]]]

具体的に樹形図で示すと、(155)のようになる。

(155)



この樹形図から見ると、反復される「行った」はVに支配されている。そこで、次のような話者間反復(V)の統語的な制約を仮定する。

(156) 話者間反復(V)の統語的な制約：

文(S₁)のVに支配されている要素が反復される。

最後に、談話的な観点から見ていく。「宮島に行った」ことは、040363の発話で話者Gが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040363～040366という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。すなわち、反復される「行った」が話題の要素となっている。そこで、次のような話者間反復(V)の談話的な制約を仮定する。

(157) 話者間反復(V)の談話的な制約：

文(S₁)においては、話題となる動詞が反復される。

以上、動詞が反復される場合の形態的な制約、統語的な制約、談話的な制約を仮定した。それぞれの制約で選ばれた要素を【表 64】のように分析する。

【表 64】 (152)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 行っ <u>た</u>			

【表 64】において、まず形態的な制約(153)が適用され、「行った」が候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用され、「行った」が候補となる。そして、談話的な制約(157)により「行った」が候補となる。「行った」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「行った」が反復されることになる。

次に、(158)について検証していく。

(158)

- 010027 A さっきのはじょうさん
 010028 B ちょうさん？
 010029 A じょうさん
 010030 B じょうさん、どういう関係なん？
 010031 A バイトの人
 010032 B あーそうなの？
 010033 A 一緒のバイト
 010034 B あんま見たことない、男の人しかみてないな、一緒に働いとるの
 010035 A 女の人数少ない、1,2,3,4,4人ぐらいしかおらん
 010036 B 男のひと結構おるよね
 010037 A うーん、おるおる、なんでやろうね

ここでは、010036の発話のうち、「おる」が反復されている。「男の人結構おるよね」は主節であり、「おる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 65】のようになる。

【表 65】 (158)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ おる			*

【表 65】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「おる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。010036の話者Bの発話「男の人結構おるよね」の統語構造を(159)のように示す。

(159) [S₁ [VP [NP₁ [NP₂ [N 男] [P の]]] [FN ひと]]] [Adv 結構] [V おる] [FP よね]]

Vに支配されている要素は「おる」である。「おる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「バイトの人」は、010031の発話で話者Aが取り上げたことから、既

知情報となっている。この既知情報は、010027～010036 という発話の集合体に共通している
 ので、これが話題となる。従って、「おる」は談話的な制約に違反していることになる。
 「おる」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補と
 なる。従って、実際の会話では、この最適候補である「おる」が反復されることになる。
 次に、(160)を見られたい。

(160)

- 010297 B あ、まだ資料送ってないやん(笑)
 010298 A 待ってた？まだ待ってる？
 010299 B 待ってる、ほしい、ほしいでーす、ほしいなー、そう、対策を考えなければ、
 TOEIC
 010300 A 今日晴れるならチャリで来たら良かった
 010301 B 今日歩きなん？
 010302 A うん、なんかね、そのうちが家出た時はまだなんかこう絶妙に降りそうな天気
 やったから
 010303 B TOEIC ってどういう綴りやったけ
 010304 A T O E I C
 010305 B はい、ありがとう
 010306 A でも山大であるか分からんよ
 010307 B ああ、山口大学、今日なんか午前中は微妙に降とったよね
 010308 A 降ってた降ってた、うちさ2コマ行ってさ、帰る時、降ってた、もうビショビ
 ショになりながら帰った

ここでは、010307 の発話のうち、「降とった」が反復されている。また、010307 の発話
 のうち、「山口大学」は一文であり、「今日午前中は微妙に降とったよね」も一文である。
 「今日午前中は微妙に降とったよね」は主節であり、「降とった」は動詞述語である。
 この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 66】のようになる。

【表 66】 (160)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 降とった			*

【表 66】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「降とった」が動詞であるた
 め、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。010307 の話者 B の発話「今日午
 前中は微妙に降とったよね」の統語構造を(161)のように示す。

(161) [S₁] [VP] [NP₁] [NP₂] [N 今日]] [N 午前中]] [Adv 微妙に] [V 降った]] [FP よね]]

Vに支配されている要素は「降った」である。「降った」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「今日の天気」は、010300の発話で話者Aが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010300～010303, 010306～010307という発話の集合体に共通しているのので、これが話題となる。従って、「降った」は談話的な制約に違反していることになる。「降った」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「降った」が反復されることになる。

次に、(162)を見ていく。

(162)

040500 H ほんとだ、どうやって行くん？電車？

040501 G バス

040502 H あ、バス？バスか

040503 G 2, 3000円で行けるけ、結構まあ大阪行くよりかは安いねっていう

040504 H 全然安いと思うよ

040505 G 広島から5000円くらいだった、前

040506 H え？そんなに？

040507 G 大阪、深夜バスで

040508 H ああ、大阪ね

040509 G うん

040510 H あ、でも確かにこっからあれやろ6500円とかやった

040511 G あーやっぱり

040512 H うん

040513 G え、しかも ゴールデンウィークとか値上がりするし

040514 H うん、たぶんね、ちょっと値上がりしとる、あ、でも新幹線でやっぱ行ききらん、最初新幹線で行こうかなって思ったけど倍するんよ

ここでは、040513の発話のうち、「値上がりする」が反復されている。「ゴールデンウィークとか値上がりするし」は主節であり、「値上がりする」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表67】のようになる。

【表 67】 (162)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 値上がりする			*

【表 67】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「値上がりする」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。040513 の話者 G の発話「ゴールデンウイークとか値上がりするし」の統語構造を(163)のように示す。

(163) [S_I [VP [NP [N ゴールデンウイーク] [P とか]] [V 値上がりする]] [P し]]

V に支配されている要素は「値上がりする」である。「値上がりする」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「バスの値段」は、040501～040503 の発話で話者 G が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040503～040513 という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「値上がりする」は談話的な制約に違反していることになる。「値上がりする」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「値上がりする」が反復されることになる。

また、(164)について説明していく。

(164)

- 384JF096 あーでもねー、外面っていうか、外から、あの、自分、1人の以外?、
 385JF097 あー。
 386JF096 自分1人でいる時以外は、すごいきっちりしてるーってみんなに言われるけど、
 387JF097 うん。
 388JF096 部屋とかすっごい汚いし、
 389JF097 <笑い>。
 390JF096 あのー、
 391JF097 見てみたい。
 392JF096 その日食べたごはんの、お茶碗とかね、次の日まで平気で残ってたりとかする><。>
 393JF097 <あ、あらら>{>}、イメージ違う。
 394JF096 けっこう、その日のうちに洗わなかったりとかするからね。
 395JF097 あー(うん)、信じられないですよ。
 396JF096 ゴミの日とか、“あー、明日ゴミの日だー、今のうちに出しておけば明日楽”、とか思いつつ、出さないで、次の日の朝も寝坊して、出せなかったりとか<す

- るんだよ>{<}
- 397JF097 <あー>{>、<笑い>。
- 398JF096 ありえな—い、ほんとに。
- 399JF097 てか、(ん)想像できないですよ、あの、バイト先とかでも。
- 400JF096 バイト先では、だってあたしなんかこう 【
- 401JF097 】もう、完璧できる女<笑い>ですもん。
- 402JF096 バリバリバリバリやってるから、ほんとに。
- 403JF097 もう誰よりもやってますって感じ。
- 404JF096 いっひっひっひ。
- 405JF097 <笑い>。
- 406JF096 でもやっぱさ—、違くない?、外で見せてる<自分とき>{<},,
- 407JF097 <全然>{>違う。
- 408JF096 1人での時の自分って。
- 409JF097 うん。
- 410JF096 あたし、「JF097名」だって、そ、と「JF097名」だってそう。
- 411JF097 全然違う。
- 412JF097 あたし外面いって言われる。
- 413JF096 言われる、あたしも言われるすごい。
- 414JF096 お母さんもそうだし。

ここでは、412JF097の発話のうち、「言われる」が反復されている。「言われる」は主節であり、「言われる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 68】のようになる。

【表 68】 (164)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 言われる			*

【表 68】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「言われる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。412JF097の話者 JF097の発話「あたし外面いって言われる」の統語構造を(165)のように示す。

(165) [S₁ [CP [AP [NP₁ [Nあたし]] [NP₂ [N外面]] [Aいい]] [Pって]] [S [VP [V言われる]]]]]

Vに支配されている要素は「言われる」である。「言われる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「外面と内面が違う」ことは、384JF096~388JF096の発話で

話者 JF096 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、384JF096～412JF097 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「言われる」は談話的な制約に違反していることになる。「言われる」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「言われる」が反復されることになる。

次に、(166)について述べたい。

(166)

- 207JM002 **】** <おれ>{ }、え、おれ結構、遠慮しーよ、おれ<軽く笑いながら>。
208JM001 あ、そうなの?<笑いながら>。
209JM002 おれ、遠慮しーよ、すごい[この間、JM001 は笑っている]。
210JM001 だか、おれは、別にもうないね<笑いながら>。
211JM002 だって、今日だっておれ、部活るときも遠慮しとったやん。
212JM001 あー、確かにそれ、そう、そう[強く共感したように、早口で強く]。
213JM001 それがねー、少しね(うん)、おれ“あ、人として成長しとんのかな”と思った。
214JM002 思ってねーよ。
215JM002 =変わんねーよ、昔から<ごく軽い笑い>。
216JM001 ちーが<笑いながら>。
217JM001 ちが、だってー、“あれ、あいつあんなに遠慮するっけー”って思いながら、たし、確かに、今日練習中に思った。
218JM002 うん。
219JM001 “もっと自分から、なんか、いろんな人にアピルんじゃねーのー?”とか“なに(うん)、なんか、人見知りしとらん?、この人”とか思いながら<笑い>。
220JM002 ちゃう、「JM001 苗字」がさー、“初日だから”つって<笑い>、てかさ、その言葉がさー、“あ、初日だから”つって<大きな笑い>)思ってー、“あ、そうやなー、初日だからかなー、そういう風にしようかなー”と思って。
221JM002 あんね、別に、ぐ、ぐいぐいいかんかったんだ。
222JM002 うん。
223JM001 え、でも、なんか、**「人名2」としゃべったがな**。
224JM002 しゃべったねー。

ここでは、223JM001 の発話のうち、「しゃべった」が反復されている。「人名2」としゃべったがな」は主節であり、「しゃべった」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 69】のようになる。

【表 69】 (166)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ シャべっとった			*

【表 69】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「シャべっとった」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。223JM001の話者 JM001の発話「[人名2]とシャべっとったがな」の統語構造を(167)のように示す。

(167) [S₁ [VP [NP [[人名2]] [Pと]] [Vシャべっとった] [FPがな]]]

Vに支配されている要素は「シャべっとった」である。「シャべっとった」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「JM002が遠慮する」ことは、207JM002の発話で話者 JM002が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、207JM002～222JM002という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「シャべっとった」は談話的な制約に違反していることになる。「シャべっとった」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「シャべっとった」が反復されることになる。

次に、(168)を見られたい。

(168)

- 476JM013 え、でも、てい、「サークル名1」は一、サークルん中では仕事系じゃない?。
- 477JM014 そうかなー。
- 478JM013 うん、ベクトルとしては。
- 479JM014 まー、あー、そうだね。
- 480JM013 =「サークルセクション名1」、「サークルセクション名2」があり。
- ……(中略)
- 504JM013 でもみ、少なくとも、いまの「サークル名1」の状況だったら「サークルセクション名2」の方が絶対面白いよね?。
- 505JM014 うん。
- 506JM013 なんでもできるじゃん。
- 507JM014 うん。
- 508JM013 枠だって「サークルセクション名2」の方が断然多いし。
- 509JM014 そうだね。
- 510JM013 2週間に1本、1枠‘ひとわく’もらってんでしょ、ほんとだったら。
- 511JM014 え、そうなの?。
- 512JM014 あ、<そうか>{<}\

- 513JM013 <そうだ>{ }よ。
 514JM013 今再放送してくるの>{< }。
 515JM014 <でも>{ }、それをやってないんだ。
 516JM013 やってない。

ここでは、515JM014 の発話のうち、「やってない」が反復されている。「それをやってないんだ」は主節であり、「やってない」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 70】のようになる。

【表 70】 (168)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ やってない			*

【表 70】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「やってない」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。515JM014 の話者 JM014 の発話「それをやってないんだ」の統語構造を(169)のように示す。

(169) [S_I [V_P [N_P [N それ] [P を]]] [V やってない] [C_{PL} んだ]]

V に支配されている要素は「やってない」である。「やってない」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「サークル」は、476JM013 の発話で話者 JM013 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、476JM013～515JM014 という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「やってない」は談話的な制約に違反していることになる。「やってない」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「やってない」が反復されることになる。

5.2.1.2. 従属節に起こる場合

本節では、動詞の話者間反復が従属節に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1] 述語成分に起こる場合

ここでは、動詞の話者間反復が従属節の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(170)を見られたい。

(170)

- 060213 K 楽しもう(うん, そうね), なんか俺聞くか…聞く, 聞かん方がいいと思うんやけど, なんか前から気になってたのがさ, (人名 11) 達別れたよね? 前わかってたけど(うん), でもなんかなんで急になって思って, 喧嘩したとかじゃないん?
- 060214 L なんかね
- 060215 K うん, いや, それ本当に言わんけんさ, でも(人名 11)には聞けんやん
- 060216 L うん, 普通に単純に(うん), 何か(人名 11)はバイトいっぱいせんといけん
- 060217 K あー
- 060218 L で, (人名 12)ちゃんはバイト, まあ親がお金を送ってるっていうのもあるんやろうけど(あー), バイトせんでも(うん), 言ったら遊ぶ時間, お金もあって
- 060219 K うん
- 060220 L って言ったら, えー, (人名 11)必死にバイトしている間も(人名 12)ちゃんは遊びに行ってる(うん), プラス(人名 11)バイトしている分そうあんまデートとか遊び行けんっていうので
- 060221 K うん
- 060222 L そうやけん(人名 12)ちゃんが(うん), 時間合わんしって言って(うん), そう, だから, え, でもなんか後から, まあそんな時も知った話やけど
- ……(中略)
- 060249 K じゃあ, その話(人名 1)ちゃん聞いとったんやろ(人名 11)から?
- 060250 L うん
- 060251 K じゃあ, そりゃ相談のるやろうね
- 060252 L けどね, やから
- 060253 K ね, まじでかわいそう
- 060254 L もしかしたら変わったんやろうね, お互い時間も合わんし
- 060255 K え, やけんが, そのたばこ始め…結構ガッて吸い始めたのも, それがきっかけなん?
- 060256 L いやたばこはね
- 060257 K 前から吸とったのは
- 060258 L そう, ちよっとは吸とったやろうけど

ここでは, 060257 の発話のうち, 「吸とった」が反復されている。「前から吸とったの」は従属節であり, 「吸とった」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 71】のようになる。

【表 71】 (170) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 吸った			*

【表 71】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「吸った」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。060257 の話者 K の発話「前から吸ったのは」の統語構造を(171)のように示す。

(171) [S₁ [NP₁ [CP [VP [NP₂ [N 前] [P から]] [V 吸った]]] [FN の] [P は]]]

V に支配されている要素は「吸った」である。「吸った」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「(人名 11)と(人名 12)が別れた」ことは、060213 の発話で話者 K が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060213~060257 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「吸った」は談話的な制約に違反していることになる。「吸った」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「吸った」が反復されることになる。

次に、(172)について述べたい。

(172)

- 060133 K 中国とか異国やもんね、ラインもそういうのも制御されとるし
 060134 L そうね、情報…
 060135 K YouTube も無理なんやろ？
 060136 L あ、そうなん？だからもうびっくりした、あんな…
 060137 K 中国専用の YouTube もあるって聞いた、けど、設定を変えたら(うん)、お金払って変えたら見れるらしい、その YouTube
 060138 L はあはあ、ラインとかも？
 060139 K うん、そう、誰かに聞いた、やけん、中国用のインスタもあるみたい
 060140 L じゃ中国人はインスタできんってこと？
 060141 K できん

ここでは、060140 の発話のうち、「できん」が反復されている。「中国人はインスタできんって」は従属節であり、「できん」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 72】のようになる。

【表 72】 (172)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
㊦ できん			*

【表 72】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「できん」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。060140 の話者 L の発話「中国人はインスタできんってこと」の統語構造を(173)のように示す。

(173) [S₁ [NP₁ [CP [VP [NP₂ [N 中国人] [P は]]] [NP₃ [N インスタ]] [V できん]] [P って]] [FN こと]]]

V に支配されている要素は「できん」である。「できん」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「中国の事情」は、060133 の発話で話者 K が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060133～060140 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「できん」は談話的な制約に違反していることになる。「できん」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「できん」が反復されることになる。

5.2.1.3. 倒置文に起こる場合

本節では、動詞の話者間反復が倒置文に起こる場合の会話データを見ていく。

[1] 述語成分に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が倒置文の述語成分に起こる場合の会話データを見ていく。

まず、(174)を見られたい。

(174)

010180 A 最近お母さん来てる？

010181 B ん？来てるって？

010182 A バイトに

010183 B あー、いや

010184 A 来てない？また顔忘れちゃったからわからない

010185 B あ、でもこの前アルクの

010186 A うん

010187 B いったんかな？

010188 A しゃべらないもんね, お母さんと

010189 B しゃべらないけー, そう, しゃべらんけー

010188 の発話では、「しゃべらないもんね, お母さんと」は倒置文であり、通常の話順の文である「お母さんとしゃべらないもんね」の「お母さんと」と「しゃべらないもんね」に倒置が起こっている。その上で、「しゃべらない」が反復されている。「しゃべらない」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 73】のようになる。

【表 73】 (174) の話者間反復に関する制約のタブロー

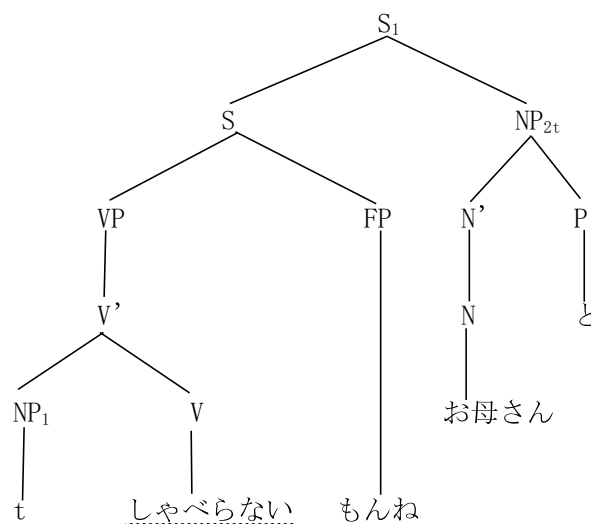
候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ <u>しゃべらない</u>			*

【表 73】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「しゃべらない」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。010188 の話者 A の発話「しゃべらないもんね, お母さんと」の統語構造を(175)のように示す。

(175) [_{S1} [_S [_{VP} [_{NP1t}] [_V しゃべらない]]] [_{FP}もんね]] [_{NP2} [_Nお母さん] [_Pと] t]]

具体的に樹形図で示すと、(176)のようになる。

(176)



この文構造は NP₂「お母さんと」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₂に位置している。倒置した後、V に支配されている要素は「しゃべらない」である。「しゃべらない」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「話者 B のお母さん」

は、010180 の発話で話者 A が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010180~010188 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「しゃべらない」は談話的な制約に違反していることになる。「しゃべらない」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「しゃべらない」が反復されることになる。

次に、(177)について述べたい。

(177)

050433 J うん、どうしていいかわからん、でもな、ある程度稼げる職に就きたいな

050434 I そうそう、やっぱそこなんよね

050435 J 将来安定しときたい、まじで

050436 I そこよね

050437 J お金に困りたくないもん

050438 I うん、そうよね、やっぱりかわいい服着たいっていうのが一番だもん

050439 J (笑)

050440 I かわいい服着て、割とまあ中の上くらいの生活をして

050441 J うんうん(笑)

050442 I (笑)っていう理想があるんよね

050443 J そうよね、それはあるわ、まじで、だってさ、そんなぜいたくな生活をして生きてきてないけさ

050444 I うん

050445 J ぜいたくな生活にあこがれる

050446 I そう、してみたいよね

050447 J 自分が親になるってかさ、自分が稼いで一人でき、生きていくなら、自分を幸せにしたい

050448 I うんうんうん、格好いい、そう、そうそうそう

050449 J なんかわかる？

050450 I わかるわかる

050451 J 今まではさ、なんかその生まれる場所とか変えれんやん(うん、そう)、自分らが決めれることやないけどさ、これからは自分らが決めれるやん

050452 I そうやね

050453 J 自分を幸せにしたい(笑)

……(中略)

050604 I でも、わかるわかる、すごい、自分をね

050605 J そうよ

050606 I 幸福にしたい

- 050607 J そうよ,自分を幸福にしたい (笑)
 050608 I したい
 050609 J そうよ,自分を幸せにせんと
 050610 I ね, やっぱり, いい暮らししたいよね
 050611 J いい暮らししたい, まじで
 050612 I ね
 050613 J なんか, プールとかいらんけんさ, 家に
 050614 I うん, いらんいらんいらん

050613 の発話では, 「プールとかいらんけんさ, 家に」は倒置文であり, 通常の話順の文である「家にプールとかいらんけんさ」の「家に」と「プールとかいらんけんさ」に倒置が起こっている。その上で, 「いらん」が反復されている。「いらん」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 74】 のようになる。

【表 74】 (177) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ いらん			*

【表 74】において, まず, 形態的な制約(153)が適用され, 「いらん」が動詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(156)が適用される。050613 の話者 J の発話「プールとかいらんけんさ, 家に」の統語構造を(178)のように示す。

(178) [_{S1} [_S [_{VP} [_{NP1t}] [_{NP2} [_N プール] [_P とか]] [_V いらん]] [_{FP} けんさ]] [_{NP3} [_N 家] [_P に]]
 t]]

この文構造は NP₃ 「家に」が倒置した後のものである。NP₁ は移動によって文末の NP₃ に位置している。倒置した後, V に支配されている要素は「いらん」である。「いらん」が候補となる。そして, 談話的な制約(157)が適用される。「理想の生活」は, 050440~050442 の発話で話者 I が取り上げたことから, 既知情報となっている。この既知情報は, 050433~050453, 050604~050613 という発話の集合体に共通しているので, これが話題となる。従って, 「いらん」は談話的な制約に違反していることになる。「いらん」は唯一の候補であり, 最も多くの制約が満たされているものとして, 最適な候補となる。従って, 実際の会話では, この最適候補である「いらん」が反復されることになる。

次に, (179)について述べたい。

(179)

- 481JF093 え、なんか、草薙がさーあ、韓国語で映画やるんでしょ?。
482JF092 <あ、あ>{< }。
483JF093 <韓国で>{>}、日本映画をやるんでしょ?。
484JF093 何つうの?、
485JF092 え?。
486JF093 日本人が、多分、ほとんど全員、あ、違う、韓国人も出てんだ。
487JF093 日本が作った、
488JF092 <韓国>{< }?。
489JF093 <韓国>{>}語映画[「語」の部分**を強調して**]=
490JF093 =韓国映画じゃなくて、韓国語映画。
491JF093 分かる?、この違い。
492JF092 あー、分かるけどー。

491JF093 の発話では、「分かる、この違い」は倒置文であり、通常の語順の文である「この違い分かる」の「この違い」と「分かる」に倒置が起こっている。その上で、「分かる」が反復されている。「分かる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 75】のようになる。

【表 75】 (179)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 分かる			*

【表 75】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「分かる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(156)が適用される。491JF093 の話者 JF093 の発話「分かる、この違い」の統語構造を(180)のように示す。

(180) [_{S1} [_S [_{NP1}t] [_{VP} [_V分かる]]]] [_{NP2} [_{Det} この] [_N違い] t]]

この文構造は NP₂ 「この違い」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₂に位置している。倒置した後、Vに支配されている要素は「分かる」である。「分かる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「草薙の韓国語映画」は、481JF093 の発話で話者 JF093 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、481JF093 ~491JF093 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「分かる」は談話的な制約に違反していることになる。「分かる」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候

補である「分かる」が反復されることになる。

5.2.2. 動詞が2つ以上の場合

本節では、動詞が2つ以上の場合を分析していく。そして、話者間反復が S_1 に起こる位置によって、話者間反復が主節、従属節、倒置文に起こる場合を順に観察していく。

5.2.2.1. 主節に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が主節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 述語成分に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が主節の述語成分に起こる場合の会話データを扱う。まず、(181)を見られたい。

(181)

010013 A うん、まあ、でも今日晴れてよかったわ、雨やったらねえ？

010014 B 明日も晴れやろう

010015 A ほんとに？

010016 B え、明日はれじゃったよ

010017 A え、じゃあ洗濯しよう

010018 B (笑)早起きやね、余計早起きしなきゃいけないね、明日曇り時々晴れだから

010019 A あ、ホントだ、え、もう明日雨降らないんじゃない

010020 B 明日 30℃までいくよ

010021 A めっちゃ乾くやん洗濯物

010022 B 熱いよ、え

010023 A 絶対干そう、頑張って起きる

010024 B 起きろ、今日はじゃあ早く寝んにゃな、明日部活はおるんやろ？

ここでは、010023 の発話のうち、「起きる」が反復されている。「頑張って起きる」は主節であり、「頑張って起きる」は動詞述語である。

まず、動詞が1つの場合で仮定した形態的な制約、統語的な制約、談話的な制約は、動詞が2つ以上ある場合に適用できるかどうかを見ていく。

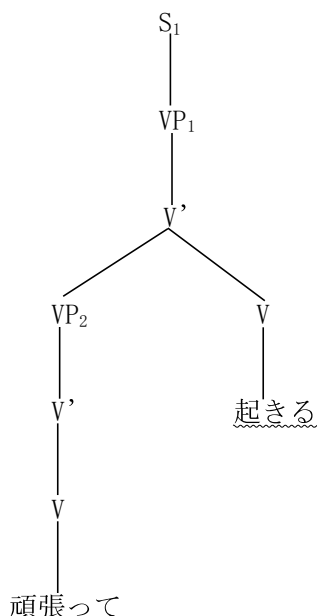
まず、形態的な制約(153)が適用され、「頑張って」「起きる」が動詞であるため、候補となる。

次に、統語的な制約(156)を適用してみる。010023 の話者 A の発話「頑張って起きる」の統語構造を(182)のように示す。

(182) [_{S1} [_{VP1} [_{VP2} [V 頑張って]] [V 起きる]]]

統語的な制約(153)によると、Vに支配されている要素が反復されるが、Vに支配されている要素は「頑張って」「起きる」の2つある場合、どちらが候補になるかは分からない。ここでは、具体的に樹形図で示すと、(183)のようである。

(183)



ここでは、反復される「起きる」の位置を観察していく。まず、「頑張って」を支配するVはVP₂に支配されている。VP₂と「起きる」を支配するVは同位要素である。反復される「起きる」の位置を観察すると、「起きる」を支配するVはVP₂の右側にあるので、「頑張って」より「起きる」の方が右側にあることになる。すなわち、「起きる」は相対的に右にあることが分かる。相対的に右にあるというのは、S₁の文末に相対的に近いことを意味する。すなわち、S₁の文末に相対的に近い「起きる」が反復されるのである。従って、話者間反復(V)の統語的な制約(156)を次のように改訂する。

(184) 話者間反復(V)の統語的な制約：

S₁の文末に相対的に近いVが反復される。

(184)の統語的な制約によって、「起きる」が選ばれることになる。

最後に、談話的な制約(157)が適用される。「明日の天気と予定」は、010014~010017の発話で話者Aと話者Bが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010014~010023という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「頑

張って」「起きる」は談話的な制約に違反していることになる。

以上、統語的な制約を改訂した上で、それぞれの制約で選ばれた要素を【表 76】のように分析する。

【表 76】 (181)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
頑張って		*	*
☞ 起きる			*

候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「起きる」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「起きる」が反復されることになる。

次に、(185)を見られたい。

(185)

- 020183 C いや、おかしいよ、本当にこれ、これはね、もう通常ここ避けなくてとれない僕は本当、他はだれかいね、(人名 10)君とかあれはどうなん？
- 020184 D 大原だから全然知ることができないし
- 020185 C ああ、わからんってことか、話したりとかせんの？
- 020186 D まず会わない、(ああ)授業とかあったりしたら会うんだけど、授業もないし、(うんうん)お互いに公務員の講座を受けに来るためだけに学校来るし
- 020187 C ああ、なるほどなるほど、まあ会わんのよね、あまりに、確かにね、そうなんや、じゃあ、まあ、(人名 11)、(人名 12)もたぶん、(人名 2)ちゃんが一番うまく行っとるね、たぶんね
- 020188 D うん
- 020189 C 今の段階ではね、面接になったら差は詰まっていますけどね、たぶんね
- 020190 D 僕だと、なんかペーパーで模試があったんやけど、トップテンに入ってるね
- 020191 C そうやね、入っとたよね、一応ね

ここでは、020190の発話のうち、「入って」が反復されている。「トップテンに入ってるね」は主節であり、「入って」は主節の動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 77】のようになる。

【表 77】 (185)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
あった		*	*
☞ 入って			*

【表 77】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「あった」「入って」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。020190 の話者 D の発話「僕だと、ペーパー模試があったんやけど、トップテンに入ってね」の統語構造を(186)のように示す。

(186) [S₁ [CP₁ [NP₁ [N 僕]]] [CPL だ] [P と]]] [CP₂ [VP₁ [NP₂ [N ペーパー模試] [P が]]] [V あった]]]
[CPL んや] [P けど]] [S [VP₂ [NP₃ [N トップテン] [P に]]] [V 入って]] [FP ね]]]

相対的に文末に近い V は「入って」である。「入って」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「友達の近況」は、020183 の発話で話者 C が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、020183～020190 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「あった」「入って」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「入って」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「入って」が反復されることになる。

次に、(187)を見られたい。

(187)

030364 F ジャゲームとかは、テレビゲーム

030365 E テレビゲームも、ね、しばらく小学校いくつかの時に、買ってもらいはしたんですよ、DS をね、ニンテンドーDS を

……(中略)

030409 E DS のあとしばらく空いて、DS もだっしてしばらくして千円くらいになりましたから、それで PSP 千円買って、結局ポータブルしか持ってないですよ

030410 F あー、まじかー

030411 E 最近になって、いやほんとめっちゃめっちゃ最近になって、めっちゃめっちゃ最近ですよ、今年去年になって、姉が、あの一、ゲーム系の会社にいるんで(はいはい)、PS4 とか Switch とかは家にありましたけど

030412 F あー実家に行ったらあつて、へー

030413 E それまでほんとに、青春を共にしてないですから

030414 F (笑) まじか、え、小学校高学年で DS 買って、中学になって PSP

- 030415 E あ、買わず
 030416 F なるでしょ普通
 030417 E なるんか、いや PSvita は出たときに、買いましたね
 030418 F あ、vita は買った？

ここでは、030417 の発話のうち、「買いました」が反復されている。「買いましたね」は主節であり、「買いました」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 78】のようになる。

【表 78】 (187) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
出た		*	*
☞ 買いました			*

【表 78】において、まず、形態的な制約(153)が適用され、「出た」「買いました」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。030417 の話者 E の発話「PSvita は出たときに、買いましたね」の統語構造を(188)のように示す。

(188) [_{S1} [_{CP} [_{NP1} [_{VP1} [_{NP2} [_N PSvita] [_P は]]] [_V 出た]]] [_{FN} とき] [_P に]]] [_S [_{VP2} [買いました]]] [_{FP} ね]]]

相対的に文末に近い V は「買いました」である。「買いました」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「ゲーム」は、030364 の発話で話者 F が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030364～030417 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「出た」「買いました」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「買いました」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「買いました」が反復されることになる。

次に、(189)を見ていく。

- (189)
 050433 J うん、どうしていいかわからん、でもな、ある程度稼げる職に就きたいな
 050434 I そうそう、やっぱそこなんよね
 050435 J 将来安定しときたい、まじで
 050436 I そこよね
 050437 J お金に困りたくないもん

- 050438 I うん, そうよね, やっぱかわいい服着たいっていうのが一番だもん
 050439 J (笑)
 050440 I かわいい服着て, 割とまあ中の上くらいの生活をして
 050441 J うんうん(笑)
 050444 I (笑) っていう理想があるんよね
 050445 J そうよね, それはあるわ, まじで, だってさ, そんなぜいたくな生活をして生きてないけさ

ここでは, 050444 の発話のうち, 「ある」が反復されている。「理想があるんよね」は主節であり, 「ある」は動詞述語である。

まず, 形態的な制約(153)を適用してみる。「いう」「ある」が動詞であるため, 候補となる。しかし, 動詞「いう」は「っていう」の形で使われているので, コロケーションと見なしている。コロケーション内の動詞は単独では用いられにくいいため, 相対的に反復されにくいと考えられる。従って, 形態的な制約としては, コロケーション内に含まれていない動詞はコロケーション内の動詞より反復されやすいという優先順位がつけられる。形態的な制約(V) (153)を以下のように修正する。

(190) 話者間反復(V)の形態的な制約:

文(S_i)を構成する要素の中で, 以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

動詞 > コロケーション内の動詞

形態的な制約を修正した上で, この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 79】のようになる。

【表 79】 (189)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
いう	%	*	*
☞ ある			*

【表 79】において, まず, 形態的な制約(190)が適用され, 「いう」「ある」が動詞であるため, 候補となるが, 「いう」の優先性が低い。次に, 統語的な制約(184)が適用される。050444 の話者 I の発話「っていう理想があるんよね」の統語構造を(191)のように示す。

(191) [S₁ [VP₁ [NP [VP₂ [P って] [V いう]]] [N 理想] [P が]] [V ある]] [FP んよね]]

相対的に文末に近いVは「ある」である。「ある」が候補となる。そして, 談話的な制約

(157)が適用される。「理想の生活」は、050440～050444の発話で話者Iが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050433～050444という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「いう」「ある」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「ある」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ある」が反復されることになる。

次に、(192)を見ていく。

(192)

- 010708 B はあ、(人名5)はすげーわ、べらべら喋れるから
- 010709 A ね、あんまりさあ自分と関係ない事喋ったり、自分じゃない、相手と関係ない事しゃべったらつまらんのやないかなと思って
- 010710 B そう、だから言わんのよ、あんまり
- 010711 A あのなんかどうでもいい事喋れん、どうでもいい事っていうか、うん、喋らんね
- 010712 B そう、私も思ってしまうんよね、そう、(人名5)は逆にさ、なんかよくうちのつまらん話永遠と聞けるねってこの前言われた
- 010713 A そうなん、(笑)いやあなたが喋ってるからだよ
- 010714 B いや、まあ、うん、そうなんだけど、いやよく聞けるねって
- 010715 A 全然別にふーんって感じだよ、じゃあ案外そうなのかも、どうでもいい話をしてもさ、最近これが好きなんだとか言っても、ふーんそうなんだって感じだよ
- 010716 B 興味がなかったら流すだろうし、興味があったらへーって、どうだったのとか聞き返すだろうし
- 010717 A 突っ込むね
- 010718 B 突っ込むし、うん、そうね、(人名7)もそうらしいんよ、なんか私みたいな感じ、だから
- 010719 A あ、聞いてくれる系?
- 010720 B そう、ずっと受け身
- 010721 A そう、本当にそうだよ
- 010722 B そうなの?
- 010723 A 全然ね、あのね、突っ込まないの、なんか
- 010724 B ああ、そうなん?
- 010725 A 大丈夫?あの、同意してる?みたいな感じ
- 010726 B そうなんだ、あんま喋ったことないけ
- 010727 A そうそうそう、あんまりね、でも、でもなんかこうじゃあやろっかみたいな、

なった時に、こうの方がいいんじゃない？って言うの

- 010728 B あ、言うんだ
- 010729 A 遅いよ！みたいな、遅いじゃんみたいな
- 010730 B もっと早く言って
- 010731 A もうやっちゃったじゃんみたいな
- 010732 B 一步遅かった
- 010733 A もう何回もそれ言った
- 010734 B 一步遅いのか、(人名7)
- 010735 A 何回も言ったわ
- 010736 B うける(人名7)
- 010737 A 懐かしいわ
- 010738 B おもろ、(人名7)も受け身やからな
- 010739 A うんー、まあでもこうさ、ずっと聞いているから気付く事もあるんだろうね
- 010740 B あー、あるのかな
- 010741 A あると思う
- 010742 B そっか
- 010743 A まあ、いいと思うわ、あの2人は、良いと思う
- 010744 B 良いですか？
- 010745 A うん、良い良い
- 010746 B (人名1)ちゃんから良いが出ましたね
- 010747 A 良いを頂きました
- 010748 B (笑)いや今ところは大丈夫そうやけど、でもなんか
- 010749 A でも別に喧嘩とかするタイプじゃないじゃん
- 010750 B うん
- 010751 A 喧嘩するっていうよりかはどっちかっていうとなんか自然消滅とか
- 010752 B そうそうそう
- 010753 A 結局友達じゃね？みたいな感じになるとか、どっちかだよ
- 010754 B うん、まあね、なりそうやね、うんでもこの前(人名7)今教育実習やけさー
- 010755 A そうね、そうね、大変やね
- 010756 B なんか会う約束しててもやっぱり無理とか、なんかごめん行かれなくなったとかになって、なんか(人名5)めっちゃ悲しんでた
- 010757 A 悲しんでたの？

(192)では、3箇所話者間反復が起こっている。まず、010727の発話のうち、「言う」が反復されている。「言うの」は主節であり、「言う」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表80】のようになる。

【表 80】 (192)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
やろっ		*	*
なった		*	*
した		*	*
☞ 言う	%		*

【表 80】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「やろっ」「なった」「した」「言う」が動詞であるため、候補となるが、「言う」がコロケーション内の動詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(184)が適用される。010727 の話者 A の発話「こう、やろっかみたいな、なった時に、こうした方がいいんじゃないって言うの」の統語構造を(193)のように示す。

(193) [S₁ [CP₁ [NP₁ [VP₁ [CP₂ [VP₂ [Adv こう] [V やろっ]]] [FP か] [CPL みたいな]] [V なった]]] [FN 時] [P に]]] [CP₃ [AP [NP₂ [VP₃ [Adv こう] [V した]]] [FN 方] [P が]] [A いい]] [CPL んじゃない] [P って]] [S [VP₄ [V 言う]] [FP の]]]

相対的に文末に近いVは「言う」である。「言う」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「(人名 7)が受け身」ということは、010718~010720 の発話で話者 B が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010718~010727 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「やろっ」「なった」「した」「言う」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「言う」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「言う」が反復されることになる。

次に、(192)の会話データでは2箇所目の話者間反復が観察される。すなわち、010739 の発話のうち、「ある」が反復されている。「気付く事もあるんだろうね」は主節であり、「ある」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 81】のようになる。

【表 81】 (192)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
聞いている		*	*
気付く		*	*
☞ ある			*

【表 81】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「聞いている」「気付く」「ある」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。010739 の話者 A の発話「こうさ、ずっと聞いているから気付く事もあるんだろうね」の統語構造を(194)のよ
うに示す。

(194) [S₁ [CP [VP [Adv こうさ] [Adv ずっと] [V 聞いている]] [P から]] [VP₂ [NP [VP₃ [V 気付く]]
[FN 事] [P も]] [V ある]] [CPL んだろう] [FP ね]]

相対的に文末に近いVは「ある」である。「ある」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「(人名 7)が受け身」ということは、010718~010720 の発話で話者 B が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010718~010739 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「聞いている」「気付く」「ある」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「ある」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ある」が反復されることになる。

最後に、(192)の会話データではもう1箇所話者間反復が観察される。すなわち、010756 の発話のうち、「悲しんでた」が反復されている。「(人名 5)めっちゃ悲しんでた」は主節であり、「悲しんでた」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 82】のようになる。

【表 82】 (192)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
会う		*	*
してても		*	*
行かれなくなった		*	*
なって		*	*
☞ 悲しんでた			*

【表 82】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「会う」「してても」「行かれなくなった」「なって」「悲しんでた」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。010756 の話者 B の発話「会う約束しててもやっぱり無理とか、行かれなくなったとかになって、(人名 5)めっちゃ悲しんでた」の統語構造を(195)のよ
うに示す。

(195) [S₁ [CP₁ [CP₂ [NP₁ [VP₁ [V 会う]] [N 約束]] [VP₂ [V してても]]] [AP [Adv やっぱり] [A 無理]] [P とか]] [CP₃ [VP₃ [VP₄ [V 行かれなくなった] [P とか]] [P に] [V なって]]] [S [VP₅ [NP₂ [N (人名 5)]] [Adv めっちゃ] [V 悲しんでた]]]]]

相対的に文末に近い V は「悲しんでた」である。「悲しんでた」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「(人名 5)と(人名 7)」は、010743 の発話で話者 A が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010743~010756 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「会う」「してても」「行かれなくなった」「なって」「悲しんでた」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「悲しんでた」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「悲しんでた」が反復されることになる。

また、(196)についても検証していく。

(196)

- 030145 E 二次会が一番疲れますね、二次会っていうか、カラオケが
 030146 F えー、カラオケなんて歌わんとき楽できるやろ
 030147 E いやいやしんどいしんどい、いや、二次会で、そんなに言うほど僕カラオケ好きじゃないんすよたぶん
 030148 F あ、そう？
 030149 E うん、やからそんな無理やりね、連れていかれるのが
 030150 F (笑)あー、確かに(人名1)君、カラオケであれやん、確かになんか、ド定番の曲、歌わんもんか
 030151 E 知らないんですよ、そう、いうほど僕、音楽に触れあってきてない
 030152 F (笑)うんうん、ド定番の曲歌わんもんな、絶対盛り上がるやつってあるじゃん
ん？
 030153 E あー、ある？

ここでは、030152 の発話のうち、「ある」が反復されている。「絶対盛り上がるやつってあるじゃん」は主節であり、「ある」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 83】のようになる。

【表 83】 (196)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
盛り上がる		*	*
☞ ある			*

【表 83】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「盛り上がる」「ある」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。030152の話者Fの発話「絶対盛り上がるやつってあるじゃん」の統語構造を(197)のように示す。

(197) [S₁ [VP₁ [NP [VP₂ [Adv 絶対] [V 盛り上がる]]] [FN やつ] [P って]] [V ある] [CPL じゃん]]

相対的に文末に近いVは「ある」である。「ある」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「カラオケ」は、030145の発話で話者Eが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030145～030152という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「盛り上がる」「ある」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「ある」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ある」が反復されることになる。

また、(198)についても検証していく。

(198)

- 060177 K 確かに、日本のあれってね、英語の(うん)、でも今普通に話せるやん
- 060178 L 話せんよ、まだ、でもでも相当よくはなったとは思う
- 060179 K よくなったと思う、短期間でね
- 060180 L だって、うん、ほんとに
- 060181 K バリから考えたらさ、夏の
- 060182 L マジでしゃべれなかったよ、だってだって、単語はちょっとまあ単語帳読んだけど(うん)、なんとか知ってっても(うん)、文がつくれん
- 060183 K うん、けど今普通にできるじゃん、だけその(人名 5)と(人名 10)たちとおって
さ話なんとなく分かるやろ?
- 060184 L うん、分かる、話聞くのはできるんよ(うんうん)、で、あとリスニングはまだ好きやったんやけど(うん)、その

ここでは、060183の発話のうち、「分かる」が反復されている。「話なんとなく分かるや

ろ」は主節であり、「分かる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 84】のようになる。

【表 84】 (198)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おって		*	*
☞ 分かる			*

【表 84】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「おって」「分かる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。060183 の話者 K の発話「その(人名 5)と(人名 10)たちとおってき話なんとなく分かるやろ」の統語構造を(199)のように示す。

(199) [S₁ [CP [VP₁ [NP₁ [Det その] [NP₂ [N(人名 5)] [P と]] [N(人名 10)たち] [P と]]] [V おって]] [FP さ]] [S [VP₂ [NP₃ [N 話]] [Adv なんとなく] [V 分かる]] [CPL やろ]]]

相対的に文末に近い V は「分かる」である。「分かる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「英語が話せる」ことは、060177 の発話で話者 K が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、060177～060183 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「おって」「分かる」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「分かる」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「分かる」が反復されることになる。

また、(200)について説明していく。

(200)

040594 H えっと(人名 6)ちゃんの方がさ、いつかなんか、あたしが温泉の森で働いとるって言ったら、あ、あたしこの辺の温泉で一番好きって言われてめっちゃうれしかった、あそこが一番気持ちいいよねって言われた

040595 G まじで？行こうかな

040596 H なんか(人名 6)ちゃんに言われるとうれしい

040597 G (笑)

040598 H それっぽい感じがしてうれしい(笑)

040599 G (笑)さらけ出して(人名 4)に会いに行こう

040600 H はい、ようこそ

040601 G 気づいてね、こうやるけ(笑)

- 040602 H (笑)
 ……(中略)
 040618 H イケメンはおらんけど女の子はみんなかわいいよ(笑)
 040619 G お客さん?
 040620 H いや, 店員さん
 040621 G 店員さん?
 040622 H なんか知らんけど女の子気づけばなんかかわいい子ばかりおる
 040623 G 同い年の子おる?ほかに

ここでは, 040622 の発話のうち, 「おる」が反復されている。「かわいい子ばかりおる」は主節であり, 「おる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 85】のようになる。

【表 85】 (200) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
知らん		*	*
気づけば		*	*
☞ おる			*

【表 85】において, まず, 形態的な制約(190)が適用され, 「知らん」「気づけば」「おる」が動詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(184)が適用される。040622 の話者 H の発話「知らんけど女の子気づけばかわいい子ばかりおる」の統語構造を(201)のように示す。

(201) [_{S1} [_{CP1} [_{VP1} [_V 知らん]]] [_P けど]] [_{CP2} [_{VP2} [_{NP2} [_N 女の子]]] [_V 気づけば]]] [_S [_{VP3} [_{NP2} [_A かわいい] [_{FN} 子] [_P ばかり]]] [_V おる]]]]

相対的に文末に近い V は「おる」である。「おる」が候補となる。そして, 談話的な制約(157)が適用される。「話者 H のバイト先」は, 040594 の発話で話者 H が取り上げたことから, 既知情報となっている。この既知情報は, 040594~040622 という発話の集合体に共通しているので, これが話題となる。従って, 「知らん」「気づけば」「おる」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で, 最も多くの制約が満たされているものは「おる」であり, これが最適な候補となる。従って, 実際の会話では, この最適候補である「おる」が反復されることになる。

また, (202)について説明していく。

(202)

- 050373 J でも帰ってくる頃は？また、寒くなりよるんか
050374 I そう、寒くなりよる時に帰ったら、暑いんだ、いや、どうっけ？いつ帰ってくるんけ？
050375 J あ、そうそう、そういう事
050376 I 早いよね
050377 J 早い
050378 I 5月とかよね
050379 J 5月とか、でも、海外でインターンシップとかするのもありだなとは思って
050380 I あー、インターンシップね
050381 J うん
050382 I インターンシップかー、はあ、そんなものもあるね
050383 J (笑)なんか、やばいね、なんか、自分がさー
050384 I うん
050385 J 今、なんか、留学が一番みたいな感じだからさ
050386 I うん
050387 J 何になるか分からん
050388 I そう、分からんよね

ここでは、050387の発話のうち、「分からん」が反復されている。「分からん」は主節であり、「分からん」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表86】のようになる。

【表 86】 (202)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
なる		*	*
☞ 分からん			*

【表 86】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「なる」「分からん」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。050387の話者Jの発話「何になるか分からん」の統語構造を(203)のように示す。

(203) [_{S1} [_{CP} [_{VP1} [_{NP} [_N何] [_Pに]]] [_Vなる]] [_{FP}か]] [_S [_{VP2} [_V分からん]]]]]

相対的に文末に近いVは「分からん」である。「分からん」が候補となる。そして、談話

的な制約(157)が適用される。「留学」は、050385の発話で話者Jが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050373～050387という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「なる」「分からん」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「分からん」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「分からん」が反復されることになる。

次に、(204)について述べたい。

(204)

- 030065 E 酔っているときの頭がぐるぐるぐるぐる回る感じを(うん)楽しむ感じ
 030066 F ああーまあまあ確かに確かに、そうかそうか、その感じはあったかも俺も
 030067 E 酔ったときのほうが、たぶんね、頭いい気がするんですよ
 030068 F (笑) いやいやそれはないでしょ
 030069 E 頭がよくぐるぐる回る気がするんですよ
 030070 F (笑) 確かに、なんか止まらんもんな
 030071 E うん
 030072 F たかが外れる、というか
 030073 E たかが外れる?(笑) うーん、確かに
 030074 F 昨日はもう意味わからんツイートも十連続ぐらいでつぶやいてしまった、なんか思わず
 030075 E じゃそれが、それが本来なんですよ、内に秘めているって言う
 030076 F (笑) 言うよね、言うよね、なんか談志が言ってたよな

ここでは、030075の発話のうち、「言う」が反復されている。「言う」は主節であり、「言う」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 87】のようになる。

【表 87】 (204)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
秘めている	%	*	*
☞ 言う	%		*

【表 87】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「秘めている」「言う」が動詞であるため、候補となるが、「内に秘めている」「って言う」はコロケーションと見なし、「秘めている」「言う」がコロケーション内の動詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(184)が適用される。030075の話者Eの発話「内に秘めているって言う」の統語構造を

(205)のように示す。

(205) [_{S1} [_{CP} [_{VP1} [_V内に秘めている]] [_Pって]] [_S [_{VP2} [言う]]]]

相対的に文末に近いVは「言う」である。「言う」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「酒で酔っぱらう」ことは、030065の発話で話者Eが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030065～030075という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「秘めている」「言う」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「言う」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「言う」が反復されることになる。

また、(206)についても検証していく。

(206)

- 334JM014 でも一、でもね、1つはあんだよ。
- 335JM014 =あの「人名2」と一緒に何かやってるときに(うん)、おれ結構ついていけないって思うときがあるんだよね。
- 336JM013 あー、それ「人名3」にも言われた。
- 337JM014 <笑い>。
- 338JM013 ばかなんだよ、多分。
- 339JM014 <笑い>。
- 340JM013 でもね一、あいつとはね、ばかの波長が合うの。
- 341JM014 あー、そうなんだ<笑いながら>。
- 342JM013 うん。
- 343JM013 なんかね、楽なのよね。
- 344JM014 <軽い笑い>。
- 345JM013 だか普段(うん)、結構自分の中で我慢してるばかキャラを(うん)、出せるのよね、あいつといると。
- 346JM013 あいつが、ばかだから。
- 347JM014 あー。
- 348JM013 分かる?。
- 349JM014 分かる、分かる。
- 350JM014 おれもね、なんつーの、お前といるときとは違って、もっと何て言うの、今思
ってること適当にバンバン言えちゃうやつっていうのは他にいるね。
- 351JM013 いるでしょ?。

ここでは、350JM014 の発話のうち、「いる」が反復されている。「他にいるね」は主節であり、「いる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 88】のようになる。

【表 88】 (206)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
思ってる		*	*
言えちゃう		*	*
いう	%	*	*
☞ いる			*

【表 88】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「思ってる」「言えちゃう」「いう」「いる」が動詞であるため、候補となるが、「っていう」はコロケーションと見なし、「いう」がコロケーション内の動詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(184)が適用される。350JM014 の話者 JM014 の発話「今思ってること適当にバンバン言えちゃうやつっていうのは他にいるね」の統語構造を(207)のように示す。

(207) [S₁ [VP₁ [NP₁ [CP₁ [VP₂ [CP₂ [NP₂ [CP₃ [VP₃ [NP₃ [VP₄ [NP₄ [N 今]] [V 思ってる]] [FN こと]] [AP [A 適当] [P に]] [Adv バンバン] [V 言えちゃう]]] [FN やつ]]] [P って] [V いう]]] [FN の] [P は]] [NP₅ [N 他] [P に]] [V いる]] [FP ね]]

相対的に文末に近いVは「いる」である。「いる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「人名2」と波長が合うことは、340JM013 の発話で話者 JM013 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、334JM014~350JM014 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「思ってる」「言えちゃう」「いう」「いる」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「いる」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「いる」が反復されることになる。

また、(208)についても検証していく。

(208)

- 37JM015 今日から、車が帰ってくるのよ。
 38JM015 修理に出してたの=。
 39JM016 =あー、そっかそっか。
 40JM015 うん、バン<パーがさ>{<} 【】。

- 41JM016 **】** <結構かか>{>}った、1万とか言ってたっけ?。
- 42JM015 うんうんうん。
- 43JM016 てかね、でもね、バンパー以外ではっきりい直したとこ、いっぱい[→]。
- 44JM015 中、中だよね、<むしろ><{>。
- 45JM016 <うーん>{>。
- 46JM015 うん。
- 47JM015 <でも><{> **【**。
- 48JM016 **】** <エン>{>}ジンがやばいと思う。
- 49JM015 あー、エンジン…、あー、そっか。
- 50JM015 <なんか><{> **【**。
- ……(中略)
- 77JM015 え、じゃ、走りはそんなに悪くなくない?、あの車。
- 78JM016 うん。
- 79JM015 うん。
- 80JM016 エンジンは相当、強いけどもと(うん)もとは。
- 81JM015 うん。
- 82JM015 しかも、あんま走ってないからだいじょぶなんじゃないかなとか<軽い笑い>(あー)思ったりするけど。
- 83JM016 でも(うん)、なに、卒業したらもう、あれは捨てるの?=。
- 84JM015 =捨てる、うん。

ここでは、83JM016の発話のうち、「捨てる」が反復されている。また、83JM016の発話のうち、「なに」は一文であり、「卒業したらもう、あれは捨てるの」も一文である。「もう、あれは捨てるの」は主節であり、「捨てる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 89】のようになる。

【表 89】 (208)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
卒業したら		*	*
☞ 捨てる			*

【表 89】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「卒業したら」「捨てる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。83JM016の話者 JM016の発話「卒業したらもう、あれは捨てるの」の統語構造を(209)のように示す。

(209) [S₁ [C_P [V_P [V 卒業したら]]] [S [V_{P2} [Adv もう] [N_P [N あれ] [P は]] [V 捨てる]] [F_P の]]]

相対的に文末に近いVは「捨てん」である。「捨てん」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「車の修理」は、37JM015～38JM015の発話で話者JM015が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、37JM015～83JM016という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「卒業したら」「捨てん」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「捨てん」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「捨てん」が反復されることになる。

次に、(210)を見ていく。

(210)

- 147JM001 [JM002が、話題の紙に手を伸ばす]〈笑い〉。
148JM002 とうるる[歌いだす]。
149JM001 〈笑い〉そんな困った?、いま話題に〈笑いながら〉。
150JM002 〈大きな笑い〉〈話題に〈笑いながら〉〉{〈〉}。
151JM001 〈まあ、別〉{〈〉}にいいけど〈笑いながら〉。
152JM002 うん〈笑いながら〉。
153JM001 別にいいけど〈笑いながら〉。
154JM002 うん〈笑いながら〉。
155JM002 ちゃうちゃう、これがさ(うん)、すっごい楽しい話題かもしれない〈笑いながら〉×2人で笑い。
156JM001 じゃ、そうしようか〈笑いながら〉。
……(中略)
185JM002 “こんな機会だから言える、普段相手に対して抱いている印象”[この間、JM001は声にならない感じで笑っている]。
186JM001 あのねー〈笑いながら〉×2人で笑い。
187JM002 むだ?〈軽く笑いながら〉。
188JM002 じゃま?〈軽く笑いながら〉×笑い。
189JM001 いや、ちゅーか、おれ別に(うん)ねー、普段思ってること結構言ってるからな
□。
190JM002 あ、言ってるねー、別にねー。

ここでは、189JM001の発話のうち、「言ってる」が反復されている。「おれ別に」には話者JM002の相づち「うん」が挿入されるので、一文であり、「普段思ってること結構言ってるからな」も一文である。「結構言ってるからな」は主節であり、「言ってる」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表90】のようになる。

【表 90】 (210)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
思ってる		*	*
☞ 言ってる			

【表 90】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「思ってる」「言ってる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。189JM001 の話者 JM001 の発話「普段思ってること結構言ってるからな」の統語構造を(211)のように示す。

(211) [S₁ [VP₁ [NP [CP [VP₂ [Adv 普段] [V 思ってる]]] [FN こと]] [Adv 結構] [V 言ってる]] [FP からな]]

相対的に文末に近いVは「言ってる」である。「言ってる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「こんな機会だから言える、普段相手に対して抱いている印象」が185JM002の発話で話者JM002が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、185JM002~189JM001という発話の集合体に共通しているので、話題となる。すなわち、189JM001の発話には「言ってる」が話題の要素となっているので、候補となる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「言ってる」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「言ってる」が反復されることになる。

また、(212)について説明していく。

(212)

- 393JM001 <だから、書>{>}いて消して、書いて消してっていう授業はダメなんだって。
 394JM001 あ、<そうなの?>{<}。
 395JM002 <「人名8」ね>{>}<2人で大きな笑い>。
 396JM002 「人名8」、すごかったよ[この間、JM001は笑っている]。
 397JM001 「人名8」はー(うん)、<笑いながら>「人名8」は、バンバン消したでしょ?(うん)、あの人。
 398JM002 だって、おれら(うん)書き写してる時間にさー、しゃべってー<笑い>(うん)、終わって“はー、た、か、また始まった”つつって<2人で笑い>。
 399JM002 ね。
 400JM001 あと、あの人ダメなのね、
 401JM002 誰?。
 402JM001 あの、「人名9」ね。

- 403JM002 あー<笑い>。
 404JM001 “あー、書いといてー” っつって<2人で笑い>。
 405JM001 あの、あの、最後にさ、授業終わってさ、黒板見たら、もう何が起こったか分からんしょ?<笑いながら><2人で笑い>。
 406JM002 ぴやーって、<笑いながら> “なんじゃ、この線は?” って[この間、JM001は笑っている]。
 407JM001 “なんじゃ、あれは” ってなるでしょ<笑いながら><2人で笑い>[この間、JM002は笑っている]。
 408JM002 ちょっと、そういうのもいいよ。
 409JM001 だから、ダメらしいんだよね。
 410JM001 だから、「人名10」先生(うん)とかも、基本的にはダメなんだよね。
 411JM002 あ、そうだねー><{>。
 412JM001 <2年><{>とき(うーん)、「人名10」先生でしょ?。
 413JM001 「人名10」先生、もうばーばーって書いて、ばーばーって<消しとったでしよ?><{>。
 414JM002 <消しとったねー><{>。

ここでは、413JM001の発話のうち、「消しとった」が反復されている。「人名10」先生、ばーばーって消しとったでしよ」は主節であり、「消しとった」は動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表91】のようになる。

【表91】 (212)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
書いて		*	*
☞ 消しとった			*

【表91】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「書いて」「消しとった」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。413JM001の話者JM001の発話「人名10」先生、もうばーばーって書いて、ばーばーって消しとったでしよ」の統語構造を(213)のように示す。

(213) [S₁ [NP [N「人名10」先生]] [CP [VP₁ [Advもう] [Advばーばーって] [V書いて]]] [S [VP₂ [Advばーばーって] [V消しとった]] [CPLでしよ]]]

相対的に文末に近いVは「消しとった」である。「消しとった」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「授業と板書」は、393JM001の発話で話者JM001が取り

上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、393JM001～413JM001 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「書いて」「消しとった」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「消しとった」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「消しとった」が反復されることになる。

5.2.2.2. 従属節に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が従属節に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1] 述語成分に起こる場合

この節では、動詞の話者間反復が従属節の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(214)を見られたい。

(214)

- 636JM014 おれはさー、あの、「サークル名2」ってやつにあって、外人の友達でも作ろ
うかと思って<軽く笑う>。
- 637JM013 あー、おれそれ(うん)、真剣に行こうかと思ってんだよ、おくれも<>{<}。
- 638JM014 <うん>{<}。
- 639JM013 ね。
- 640JM014 うん。
- 641JM013 てか、そういうの行って、英語、ばな、
- 642JM014 そう<そうそう>{<}。
- 643JM013 <学び>{<}たくない?。
- 644JM014 ちょっとさー、なんかさー、留学に、い、
- 645JM013 行こう。
- 646JM014 のきっかけになるか<なって>{<}。
- 647JM013 <行こう>{<}、じゃあ。
- 648JM014 <うん>{<}。
- 649JM013 <おれ>{<}も行っていい?。
- 650JM014 うん、いいよ。
- 651JM014 来週の金曜にでも。
- 652JM013 うん。
- 653JM013 <まい>{<} 【。
- 654JM014 】 <来>{<} 週ってか、今週か。
- 655JM013 うん、いいよ、全<然>{<}。

- 656JM014 <今>{}週の木曜日でも行く<か>{}。
- 657JM013 <昼>{}休み?。
- 658JM014 うん?。
- 659JM013 昼休み?。
- 660JM014 いや、なんか、えーと、かぶってんだよ、「サークル名 1」と。
- 661JM013 よくない?、金曜日ぐらい。
- 662JM014 うん。
- 663JM014 だか、1回休んで行こうかと思ってさ。
- 664JM013 うん、行こう[↑]。

ここでは、663JM014 の発話のうち、「行こう」が反復されている。「1回休んで行こうか」とは従属節であり、「行こう」は従属節の動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 92】のようになる。

【表 92】 (214)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
休んで		*	*
☞ 行こう		*	
思って	%		*

【表 92】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「休んで」「行こう」「思って」が動詞であるため、候補となるが、「と違って」はコロケーションと見なし、「思って」がコロケーション内の動詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(184)が適用される。663JM014 の話者 JM014 の発話「1回休んで行こうかと思ってさ」の統語構造を(215)のように示す。

(215) [_{S1} [_{CP} [_{VP1} [_{NP} [_{N1} 回]]] [_V 休んで]] [_{VP2} [_V 行こう]] [_{FP} か] [_P と]] [_S [_{VP3} [思って]] [_{FP} さ]]]

相対的に文末に近いVは「思って」である。「思って」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「サークル名 2」に行くことは、636JM014 の発話で話者 JM014 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、636JM014~663JM014 という発話の集合体に共通しているので、話題となる。すなわち、663JM014 の発話には「行こう」が話題の要素となっているので、候補となる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「行こう」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「行こう」が反復されることになる。

次に、(216)について述べたい。

(216)

- 123JM014 気んなってるんだけど、BBS とチャットってどう違うの?。
- 124JM013 チャットはリアルタイムじゃない?。
- 125JM014 BBS は違うの?。
- 126JM013 BBS はだっさ、たとえば、杵つきじゃん、なんか。
- 127JM013 例えばー,,
- 128JM014 え?。
- 129JM013 “東京都在住の「JM014 苗字」”って書いてー、“From 「JM014 苗字」”って(うん)書いてー、“何々の件ですが”って書いて、メッセージ書いてー(うん)、それに対する答えがある。
- 130JM013 別にでも、リアルタイムじゃないじゃん、あれって。
- 131JM014 チャットってリアルタイム<なの?>{<}>。
- ……(中略)
- 149JM014 そうか。
- 150JM014 ちゃ、は一、チャットはリアルタイムじゃなきゃいけないのか。
- 151JM013 うん、多分。
- 152JM014 <へー>{<}>。
- 153JM013 <チャット>{>}はリアルタイム。
- 154JM013 だ、チャットって、ほ、おしゃべりじゃん,,
- 155JM014 うん。
- 156JM013 もともと。
- 157JM014 うん。
- 158JM014 だか、おれもよく分かんなくってさ、とりあえず何か書いたけどさ、あの一、何にも返ってこないし、みたいな。
- 159JM013 返ってこない<笑いながら>、ひ、いなかったんじゃないの?、人が。

ここでは、158JM014 の発話のうち、「返ってこない」が反復されている。「何にも返ってこないし」は従属節であり、「返ってこない」は従属節の動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 93】のようになる。

【表 93】 (216)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
分かんなくって		*	*
書いた		*	*
☞ 返ってこない			*

【表 93】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「分かんなくって」「書いた」「返ってこない」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。158JM014 の話者 JF014 の発話「おれもよく分かんなくってさ、とりあえず何か書いたけどさ、何にも返ってこないし、みたいな」の統語構造を(217)のように示す。

(217) [S₁ [CP₁ [VP₁ [NP₁ [N おれ] [P も]] [Adv よく] [V 分かんなくって]] [FP さ]] [CP₂ [VP₂ [Adv とりあえず] [NP₂ [N 何] [P か]] [V 書いた]] [P けど] [FP さ]] [CP₃ [VP₃ [NP₃ [N 何] [P にも]] [V 返ってこない]] [P し] [CPL みたいな]]]

相対的に文末に近いVは「返ってこない」である。「返ってこない」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「BBS とチャット」は、123JM014 の発話で話者 JM014 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、123JM014~158JM014 という発話の集合体に共通しているもので、これが話題となる。従って、「分かんなくって」「書いた」「返ってこない」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「返ってこない」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「返ってこない」が反復されることになる。

次に、(218)を見ていく。

(218)

- 256JM016 「人名5」はな(〈軽い笑い〉)、ここ一番で言うからな、
 257JM015 そう<そうそう>{<笑いながら>×2人で笑い}。
 258JM016 <みたいなね>{>}<笑いながら>。
 259JM015 ちょ、ちゃんと口止め(〈笑い〉)しとかないと怖いんだよね。
 260JM015 なんか、前、「人名5」と2人で飲んでてさ(うん)、うん、それを、話したらさ(うん)、あの『「JM015 あだ名」、みじ、みずくせーよ』とかい<笑い>。
 261JM016 うーん、おれ何にも聞いてないからー(〈笑い〉)。
 262JM015 「JM016 あだ名」も隠してたじゃん<若干笑いながら>。
 263JM015 あ<一の、彼女のこと>{<}>。
 264JM016 <あー、まあ>{>}ね。

- 265JM015 うん。
 266JM016 隠してたくっていうか {<},,
 267JM015 <隠してた> {>}。
 268JM015 <まー、別に> {>}。

ここでは、266JM016 の発話のうち、「隠してた」が反復されている。「隠してたって」は従属節であり、「隠してた」は従属節の動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 94】のようになる。

【表 94】 (218) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 隠してた		*	
いう	%		*

【表 94】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「隠してた」「いう」が動詞であるため、候補となるが、「っていう」がコロケーションと見なし、「いう」がコロケーション内の動詞であるため、優先性が低い。次に、統語的な制約(184)が適用される。266JM016 の話者 JM016 の発話「」の統語構造を(219)のように示す。

(219) [_{S1} [_{VP1} [_{VP2} [_V 隠してた]] [_P って] [_V いう]] [_{FP} か]]

相対的に文末に近いVは「いう」である。「いう」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「JM016 が彼女を隠してた」ことは、262JM015～263JM015 の発話で話者 JM015 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、262JM015～266JM016 という発話の集合体に共通しているので、話題となる。すなわち、266JM016 の発話には「隠してた」が話題の要素となっているので、候補となる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「隠してた」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「隠してた」が反復されることになる。

5.2.2.3. 倒置文に起こる場合

本節では、動詞の話者間反復が倒置文に起こる場合の会話データを見ていく。

[1] 述語成分に起こる場合

本節では、動詞の話者間反復が倒置文の述語成分に起こる場合の会話データを見ていく。まず、(220)を見られたい。

(220)

- 010121 B あれ、あいつ何してんじゃあいつ、結構さぼってる、意外とさぼってるんよね、あいつ、あ、今日、明日さぼるわって平気で言っとるけさ
- 010122 A 出席とらんのやない？
- 010123 B あー
- 010124 A 出席とらんやつやったらさ、まあ良心を咎めるけど、さぼれるやん
- 010125 B まあね、そりゃあね
- 010126 A でも出席取るやつが多いもん、うち
- 010127 B あ、そうなん？
- 010128 A うん、出席とるやつと、あともう自分の研究室の先生のやつ
- 010129 B あー、さずがにな
- 010130 A 研究室の先生のやつってさ、顔ばれてるから
- 010131 B あれ、おらんやんあいつってなるね
- 010132 A そうそう、なるなる、やけん、さぼれん

010131 の発話では、「おらんやんあいつってなるね」は倒置文であり、通常の語順の文である「あいつおらんやんってなるね」の「あいつ」と「おらんやん」に倒置が起こっている。その上で、「なる」が反復されている。「なる」は主節の動詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 95】のようになる。

【表 95】 (220)の話者間反復に関する制約のタブロー

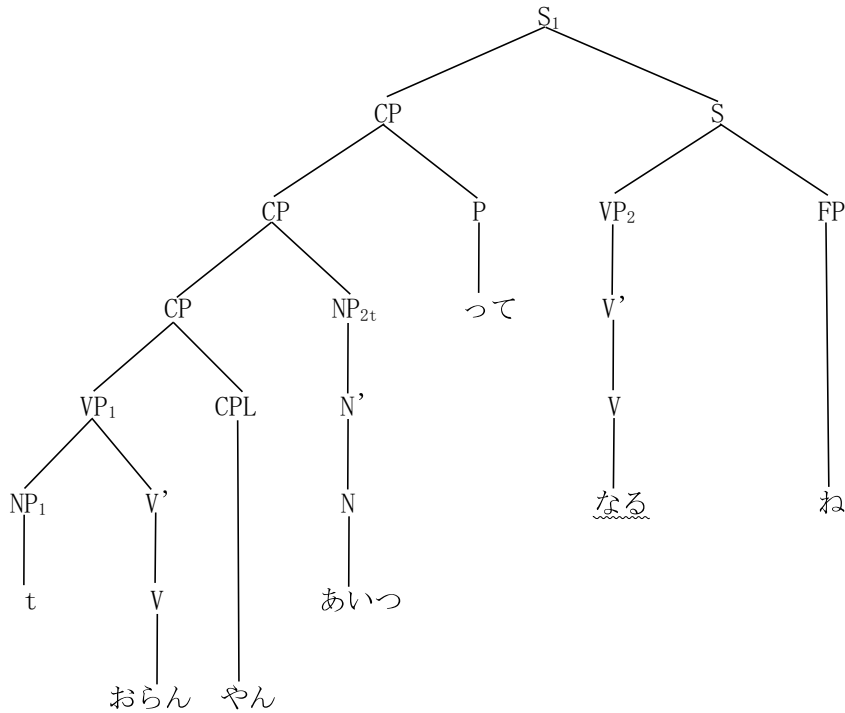
候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おらん		*	*
なる			*

【表 95】において、まず、形態的な制約(190)が適用され、「おらん」「なる」が動詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(184)が適用される。010131 の話者 B の発話「おらんやんあいつってなるね」の統語構造を(221)のように示す。

(221) [_{S1} [_{CP} [_{CP} [_{VP1} [_{NP1+t}] [_Vおらん]]] [_{CPL}やん]]] [_{NP2} [_Nあいつ] _t] [_Pって]] [_S [_{VP2} [_Vなる]] [_{FP}ね]]]

具体的に樹形図で示すと、(222)のようになる。

(222)



この文構造は NP₂「あいつ」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって NP₂に位置している。倒置した後、相対的に文末に近い V は「なる」である。「なる」が候補となる。そして、談話的な制約(157)が適用される。「さぼる」ことは、010121 の発話で話者 B が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、010121~010131 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「おらん」「なる」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「なる」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「なる」が反復されることになる。

5.2.3. 話者間反復(V)の制約について

5.2 では、動詞が 1 つの場合と、動詞が 2 つ以上の場合の会話データを観察した。動詞が 1 つの場合では、形態的・統語的・談話的な制約の仮説を立てて検証した。動詞が 2 つ以上の場合では、その仮説を修正し検証した。動詞が反復される場合の形態的・統語的・談話的な制約を再掲すると、次の通りである。

(223) (=190) 話者間反復(V)の形態的な制約：

文(S₁)を構成する要素の中で、以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

動詞 > コロケーション内の動詞

(224) (=184) 話者間反復(V)の統語的な制約:

S_1 の文末に相対的に近いVが反復される。

(225) (=157) 話者間反復(V)の談話的な制約:

文(S_1)においては、話題となる動詞が反復される。

(223)の形態的な制約では、動詞が反復されやすいが、コロケーション内の動詞は相対的に反復されにくい。現時点までの会話データに現れたコロケーション内の動詞は、「っていう」の「いう」、「と思う」の「思う」、「内に秘めている」の「秘めている」である。コロケーション内の動詞は動詞より独立性が相対的に低いため、反復されにくいと考えられる。

(224)の統語的な制約で、 S_1 の文末に相対的に近いVが反復されるというのは、反復されるVはおそらく S_1 の中で「文末により近い位置を指向」しているのではないかと考えられる。

(225)の談話的な制約で、話題となる動詞が反復されるというのは、話者間反復には先行研究で言及されたような話題の継続、展開、提示など、談話構成上の機能が働いていると考えられる。

以上より、動詞が反復される場合、動詞が S_1 のどこに起こっても、同じ形態的・統語的・談話的といった3つの制約に従って、最適な要素が選ばれて反復されることが分かった。

5.3. 形容詞が反復される場合

本節では、形容詞が反復される場合を分析していく。S₁内にある形容詞の数によって、形容詞が1つの場合と、形容詞が2つ以上の場合に大きく分けて分析し、形容詞が反復される場合の形態的・統語的・談話的な制約を立てて検証していく。

5.3.1. 形容詞が1つの場合

本節では、形容詞が1つの場合を分析していく。そして、話者間反復がS₁に起こる位置によって、次のような3種類が観察されている。

- 話者間反復が主節に起こる場合
- 話者間反復が従属節に起こる場合
- 話者間反復が倒置文に起こる場合

以下、これらを順に観察していく。

5.3.1.1. 主節に起こる場合

この節では、形容詞の話者間反復が主節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 述語成分に起こる場合

この節では、形容詞の話者間反復が主節の述語成分に起こる場合の会話データを扱う。まず、(226)を見られたい。

(226)

- 881JF097 花火大会行きたいですね。
882JF096 行きたくない?、ほんとあたしきー、え **【**。
883JF097 **】** あたし買いました、花火大会どこであるかっていう本。
884JF096 え、え、今度見してよ。
885JF097 うん。
886JF096 え、<やったー>{<}。
887JF097 <700円もした>{>}。
888JF096 え、あ、土曜日土曜日。
889JF096 土曜日さ、今度バイトが<あるの>{<}。
890JF097 <あ>{>}、持ってきますよ。
891JF096 そうそう。
892JF096 見て、計画立てて、花火行きてー。
893JF097 行きたい、超行きたい<ですよ>{<}。

ここでは、892JF096 の発話のうち、「行きてー」が反復されている。「花火行きてー」は主節であり、「行きてー」は形容詞述語である。

なぜ「行きてー」が反復されるのかについて、形態的な観点、統語的な観点、談話的な観点から観察し、それぞれの制約を仮定していく。

まず、形態的な制約から見ると、反復される「行きてー」は形容詞である。そこで、次のような話者間反復反復(A)の形態的な制約を仮定する。

(227) 話者間反復(A)の形態的な制約：

文(S_i)を構成する要素の中で、形容詞が反復される。

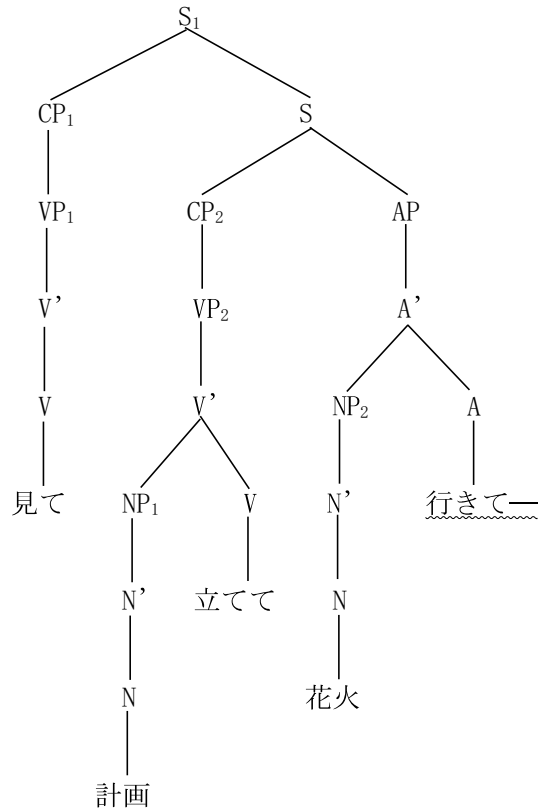
(227)では、形態的な情報のうち、品詞の情報を参照している。

次に、統語的な観点から見ていく。892JF096 の話者 JF096 の発話「見て、計画立てて、花火行きてー」の統語構造を(228)のように示す。

(228) [S₁ [CP₁ [VP₁ [V 見て]]]] [CP₂ [VP₂ [NP₁ [N 計画]] [V 立てて]]] [S [AP [NP₂ [N 花火]] [A 行きてー]]]]

具体的に樹形図で示すと、(229)のようになる

(229)



この樹形図から見ると、反復される「行きてー」はAに支配されている。そこで、次のような話者間反復(A)の統語的な制約を仮定する。

(230) 話者間反復(A)の統語的な制約：

文(S₁)のAに支配されている要素が反復される。

最後に、談話的な観点から見ていく。「花火大会に行きたい」ことは、881JF097の発話で話者 JF097 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、881JF097～892JF096 という発話の集合体に共通しているので、話題となる。すなわち、反復される「行きてー」が話題の要素となっている。そこで、次のような話者間反復(A)の談話的な制約を仮定する。

(231) 話者間反復(A)の談話的な制約：

文(S₁)においては、話題となる形容詞が反復される。

以上、形容詞が反復される場合の形態的な制約、統語的な制約、談話的な制約を仮定した。それぞれの制約で選ばれた要素を【表 96】のように分析する。

【表 96】 (226)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 行きてー			

【表 96】において、まず形態的な制約(227)が適用され、「行きてー」が候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用され、「行きてー」が候補となる。そして、談話的な制約(231)によって、「行きてー」が候補となる。「行きてー」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「行きてー」が反復されることになる。

次に、(232)を見ていく。

(232)

- 050676 I 髪染めたい、やっぱり、でもな、すぐ落ちるけさ
- 050677 J 落ちるよね、すぐ落ちた
- 050678 I よね、落ちるよね、やっぱ
- 050679 J 染めてあげようか？
- 050680 I (笑)
- 050681 J (笑)遠慮しとく
- ……(中略)
- 050713 J なんかね、もう一回アッシュ挑戦しようか迷ったけど、ブリーチも考えたけど、ブリーチ入れた人がさ、めっちゃきれいにアッシュ入っとんよね
- 050714 I あー、そうよね
- 050715 J それをみて、あー、ブリーチしてアッシュいれたいなと思ったけど、ピンクで我慢しようかな
- 050716 I うん
- 050717 J ブリーチをすることに、まだ抵抗がある
- 050718 I いや、それはね、やめた方がいいと思うよ、まじで、すごい痛むもん、やめた方がいいよ
- 050719 J うん
- 050720 I って言われるいつも美容室行ったら
- 050721 J やったことないん？
- 050722 I ない、この色がいいって言ったら、これ無理っていつも言われるもん

ここでは、050721の発話のうち、「ない」が反復されている。「やったことないん」は主節であり、「ない」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、

【表 97】 のようになる。

【表 97】 (232) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ ない			*

【表 97】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「ない」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。050721 の話者 J の発話「やったことないん」の統語構造を(233)のように示す。

(233) [_{SI} [_{LAP} [_{NP} [_{VP} [_V やった]]] [_{FN} こと]] [_A ない]] [_{FP} ん]]

A に支配されている要素は「ない」である。「ない」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「髪を染めたい」ことは、050676 の発話で話者 I が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050676～050721 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「ない」は談話的な制約に違反していることになる。「ない」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「ない」が反復されることになる。

次に、(234)について述べたい。

(234)

- 030099 E 会話が途切れない人って一定の数いますよね
 030100 F ああ、はいはい、あつという間に時間がたつみたいなの
 030101 E 元カノもそうでしたし
 030102 F ああ、はいはいはいはいはい
 030103 E 会話が途切れるまで、どこまで会話できるんかやってみようって行って(ああ)、
 カフェで五時間つぶしたことがあります
 030104 F あー、聞いたことあるな、やばいよなー
 030105 E いうほど、話題に事欠かんわけじゃないんですよ別に、話題が豊富ってわけでも
 ないし
 030106 F うん、はいはい
 030107 E 波長？
 030108 F 波長
 030109 E 波長が合うみたいなの
 030110 F なんだろう波長って、考え方と違ってことなんかな

030111 E 考え方は割と真逆ですね

030112 F 真逆のほうがバチバチなんのかな、バチバチというか、盛り上がるかな

ここでは、030111の発話のうち、「真逆」が反復されている。「考え方は割と真逆ですね」は主節であり、「真逆」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表98】のようになる。

【表98】 (234)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 真逆			*

【表98】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「真逆」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。030111の話者Eの発話「考え方は割と真逆ですね」の統語構造を(235)のように示す。

(235) [S_I [A_P [N_P [N 考え方] [P は]] [Adv 割と] [A 真逆]] [CPL です] [FP ね]]

Aに支配されている要素は「真逆」である。「真逆」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「元彼女と会話が途切れない」ことは、030099~030101の発話で話者Eが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、030099~030111という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「真逆」は談話的な制約に違反していることになる。「真逆」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「真逆」が反復されることになる。

また、(236)について説明していく。

(236)

040112 H うん今は休みよ、ずっと休み今、やけんバイト、そう、日々バイトやなー

040113 G うちもめっちゃバイト、今頑張るとるよ、最近最後まで残りよるんよ

040114 H ラストみたいな？

040115 G ラスト、うん、荒稼ぎ

040116 H お金大事

040117 G したい、できとるかはわからん、カテキョ始めようかな

040118 H えっ、マジで言いよる？

040119 G うん、髪染めていいけ

040120 H あそうなんや

- 040121 G うん
 040122 H え, 何, 何の学生? 中学生?
 040123 G うん, かなー, 高校は無理っしょ
 040124 H うん無理や, 私は, 中学生も怪しいけど

ここでは, 040123 の発話のうち, 「無理」が反復されている。「高校は無理っしょ」は主節であり, 「無理」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 99】のようになる。

【表 99】 (236) の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 無理			*

【表 99】において, まず, 形態的な制約(227)が適用され, 「無理」が形容詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(230)が適用される。040123 の話者 G の発話「高校は無理っしょ」の統語構造を(237)のように示す。

(237) [_{S1} [_{AP} [_{NP} [_N 高校] [_P は]]] [_A 無理]] [_{CPL} っしょ]]

A に支配されている要素は「無理」である。「無理」が候補となる。そして, 談話的な制約(231)が適用される。「バイト」は, 040112 の発話で話者 H が取り上げたことから, 既知情報となっている。この既知情報は, 040112~040123 という発話の集合体に共通しているので, これが話題となる。従って, 「無理」は談話的な制約に違反していることになる。「無理」は唯一の候補であり, 最も多くの制約が満たされているものとして, 最適な候補となる。従って, 実際の会話では, この最適候補である「無理」が反復されることになる。

また, (238)について説明していく。

(238)

- 651JF094 <この前さー>{>}, ウルドゥー語の男の子がさー,,
 652JF095 うん。
 653JF094 ロシア語の先生の授業とっててー(うん)、かなり専門的なやつ、ね。
 654JF095 うん。
 655JF094 それ、知ってる?。
 656JF095 ううん。
 657JF094 ちょっと…、ワイルドな感じ。
 658JF095 《沈黙 2 秒》ワイルド?<笑い>。

- 659JF094 うん。
 660JF095 《沈黙 2 秒》〈どういふ?〉{<}。
 661JF094 <タメじゃないかな〉{>}。
 662JF095 どんなの、ワイルド?。
 663JF094 ワイルドだった。
 664JF095 <ワイルドな人なんていたっけー〉{<}。
 665JF094 <なんか、あの一〉{>}、ファントムみたいな。
 666JF095 ファントム、あー。
 667JF094 <##〉{<}。
 668JF095 <あ〉{>}、分かった。
 669JF094 分かった?<笑い〉。
 670JF095 うん。
 671JF095 ひた…、結構体がでかくて。
 672JF094 でかい、のかな。
 673JF094 体はあんまり<見なかったけどー〉{<}。
 674JF095 <顔丸い?>{>}。
 675JF094 丸い。

(238)では、2箇所話者間反復が起こっている。まず、671JF095の発話のうち、「でかくて」が反復されている。「結構体がでかくて」は主節であり、「でかくて」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 100】のようになる。

【表 100】 (238)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ でかくて			*

【表 100】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「でかくて」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。671JF095の話者 JF095の発話「結構体がでかくて」の統語構造を(239)のように示す。

(239) [S₁ [A_P [A_{Adv} 結構] [N_P [N 体] [P が]]] [A_A でかくて]]]

Aに支配されている要素は「でかくて」である。「でかくて」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「ウルドゥー語の男の子」は、651JF094の発話で話者 JF094が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、651JF094~671JF095という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「でかくて」は談話的な

制約に違反していることになる。「でかくて」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「でかくて」が反復されることになる。

一方、(238)の会話データではもう1箇所話者間反復が観察される。すなわち、674JF095の発話のうち、「丸い」が反復されている。「顔丸い」は主節であり、「丸い」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 101】のようになる。

【表 101】 (238)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 丸い			*

【表 101】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「丸い」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。674JF095の話者 JF095の発話「顔丸い」の統語構造を(240)のように示す。

(240) [_{S1} [_{AP} [_{NP} [_N 顔]] [_A 丸い]]]

Aに支配されている要素は「丸い」である。「丸い」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「ウルドゥー語の男の子」は、651JF094の発話で話者 JF094が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、651JF094~674JF095という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「丸い」は談話的な制約に違反していることになる。「丸い」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「丸い」が反復されることになる。

5.3.1.2. 従属節に起こる場合

この節では、形容詞の話者間反復が従属節に起こる場合の会話データを取り上げる。

[1] 述語成分に起こる場合

この節では、形容詞の話者間反復が従属節の述語成分に起こる場合の会話データを取り上げる。

まず、(241)を見られたい。

(241)

040327 G え、ユニバの熊のキャラおるよね？

040328 H あれ？ミニオンの可愛いやつやろ

- 040329 G めっちゃ可愛いよねあれ
- 040330 H 私はエルモをかぶるけどね、確かにあの熊めっちゃ可愛いけどね
- 040331 G めっちゃ可愛い
- 040332 H え、知っとるんよく？
- 040333 G いや、よく知らんけど(笑)
- 040334 H 私も全然知らんけど(笑)
- 040335 G インスタとかにあがって(そう) めっちゃ可愛いって思って
- 040336 H 可愛い、可愛い、目がボタンのやつか

ここでは、040335 の発話のうち、「可愛い」が反復されている。「インスタとかにあがって」には話者Hの相づち「そう」が挿入されるので、一文であり、「めっちゃ可愛いって思って」も一文である。「めっちゃ可愛いって」は従属節であり、「可愛い」は従属節の形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 102】のようになる。

【表 102】 (241)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 可愛い			

【表 102】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「可愛い」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。040335 の話者Gの発話「めっちゃ可愛いって思って」の統語構造を(242)のように示す。

(242) [_{S1} [_{CP} [_{AP} [_{Adv} めっちゃ] [_A 可愛い]]] [_P って]] [_S [_{VP} [_V 思って]]]

Aに支配されている要素は「可愛い」である。「可愛い」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「可愛い熊のキャラクター」は、040327～040328の発話で話者Gと話者Hが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040327～040335という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「可愛い」は話題の要素となっているので、候補となる。「可愛い」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「可愛い」が反復されることになる。

5.3.1.3. 倒置文に起こる場合

本節では、形容詞の話者間反復が倒置文に起こる場合の会話データを見ていく。

[1] 述語成分に起こる場合

本節では、形容詞の話者間反復が倒置文の述語成分に起こる場合の会話データを見ていく。

まず、(243)を見られたい。

(243)

- 040125 G え、すごくない？めっちゃバイトしとる
 040126 H え、それどれがあれ？
 040127 G 点々ついとるの全部バイト
 040128 H あっはっは
 040129 G あ、でもいろんなやつやったら楽しいかもしれん
 040130 H それは確かにあるかもね、毎日温泉で暇を持て余しとるからな
 040131 G 温泉入らんの？あそこで
 040132 H なんか入れるんよ、あがって、フロントの人に「温泉今日入ってきます」って
 言ったらなんかタオルとかそういうセットもらえて
 040133 G え、めっちゃいいじゃん
 040134 H なんとなく、あれ、私2年生にあがったら利用しようと思って
 040135 G なんで？え、でも嫌じゃない？入ってて先輩と会ったら(笑)
 040136 H (笑)そう、それが嫌なんよ、やけん先輩がおらんくなってから行こうかなって

040135 の発話では、「嫌じゃない、入ってて先輩と会ったら」は倒置文であり、通常の話順の文である「入ってて先輩と会ったら、嫌じゃない」の「入ってて先輩と会ったら」と「嫌じゃない」に倒置が起こっている。その上で、「嫌」が反復されている。「嫌」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 103】のようになる。

【表 103】 (243)の話者間反復に関する制約のタブロー

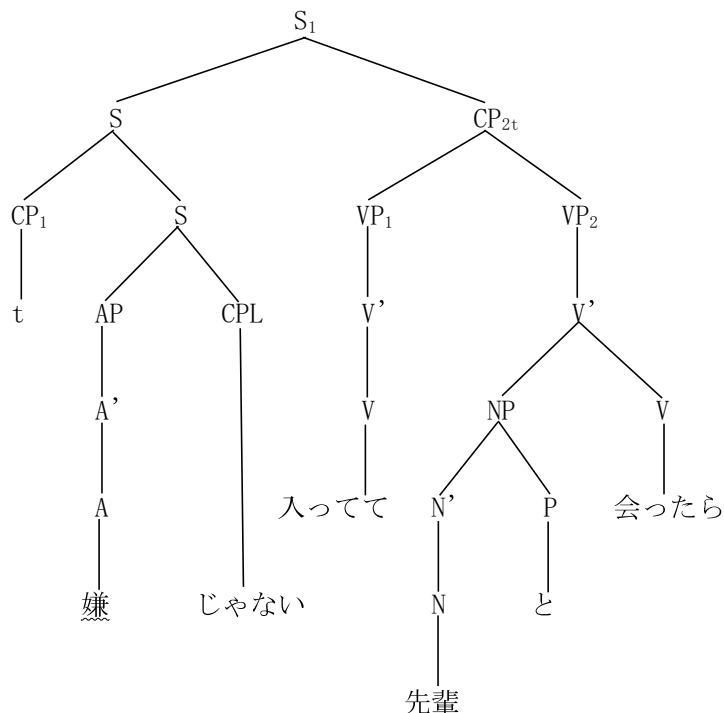
候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 嫌			*

【表 103】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「嫌」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。040135 の話者 G の発話「嫌じゃない、入ってて先輩と会ったら」の統語構造を(244)のように示す。

(244) [S₁ [S [CP₁t] [S [AP [_A嫌]] [CPL じゃない]]] [CP₂ [VP₁ [V 入ってて]] [VP₂ [NP [N 先輩]
 [P と]] [V 会ったら]] t]

具体的に樹形図で示すと、次のようになる。

(245)



この文構造は CP₂「入ってて先輩と会ったら」が倒置した後のものである。CP₁は移動によって文末の CP₂に位置している。倒置した後、A に支配されている要素は「嫌」である。「嫌」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「バイト先の温泉に入る」ことは、040130 の発話で話者 H が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、040130～040135 という発話の集合体に共通しているので、これが話題となる。従って、「嫌」は談話的な制約に違反していることになる。「嫌」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「嫌」が反復されることになる。

また、(246)についても検証していく。

(246)

- 328JF096 でも一、高校の時の、福岡の高校の、体育祭が一番超楽しくて一(あ一)、<なんか>{<>, ,
- 329JF097 <いいです>{>}ね一、高校で体育祭 【。
- 330JF096 】 応援団とか超かっこよかった。
- 331JF097 <笑い>。
- 332JF096 みんな、袴、なんか、ほんと袴??. ,

333JF097 あー。
 334JF096 着て、《少し間》演舞とかってなんか、応援合戦じゃないの、
 335JF097 <笑い>。
 336JF096 名前が。
 337JF096 演舞なの、かっこいいの。
 338JF096 演じて舞うと書いて、演舞なのね。
 339JF097 あ、演じて舞うんだ<笑いながら>。
 340JF096 そうそうそう<笑いながら>。
 341JF096 だってほんとにバック転とかしてたからね、先輩、
 342JF097 すごい。
 343JF096 袴で<笑いながら>。
 344JF097 かっこいい、やっぱ<それは>{<}。
 345JF096 <超>{>}かっこよかった、ほんとに。
 346JF097 いいなー、やっぱ高校も体育祭あるべきですよ。
 347JF096 そう。
 348JF096 で福岡はなんか、ほんとにねー、楽しいんだよ。
 349JF096 =いじめとか全然なかった=。
 350JF097 =あー=。
 351JF096 =たまたまあたしのいた学校がそうだったのかも知らないけどー、
 352JF097 学校によりますよね。
 353JF096 超楽しくて、ほんつとに。
 354JF096 高校の時制服かわいかったしね<笑い>。
 355JF097 言っていましたよね、制服で<笑いながら>。
 356JF096 そう、制服で。
 357JF097 ##たって<笑い>。
 358JF096 うん。
 359JF096 で、###= **【**。
 360JF097 **】** =大事ですよ、制服。
 361JF096 大事。

(246)では、2箇所話者間反復が起こっている。まず、344JF097の発話では、「かっこいい、やっぱそれは」は倒置文であり、通常の語順の文である「やっぱそれはかっこいい」の「やっぱそれは」と「かっこいい」に倒置が起こっている。その上で、「かっこいい」が反復されている。「かっこいい」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 104】のようになる。

【表 104】 (246)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ かつこいい			*

【表 104】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「かつこいい」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。344JF097の話者 JF097の発話「かつこいい、やっぱそれは」の統語構造を(247)のように示す。

(247) [S₁ [S [S [AP [Adv₁t] [NP₁t] [Aかつこいい]]] [Adv₂やっぱ t]] [NP₂ [Nそれ] [Pは] t]]

この文構造は Adv₂「やっぱ」、NP₂「それは」が倒置した後のものである。Adv₁は移動によって Adv₂に位置している。NP₁は移動によって文末の NP₂に位置している。倒置した後、Aに支配されている要素は「かつこいい」である。「かつこいい」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「高校の体育祭」は、328JF096の発話で話者 JF096が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、328JF096~344JF097という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「かつこいい」は談話的な制約に違反していることになる。「かつこいい」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「かつこいい」が反復されることになる。

一方、(246)の会話データではもう1箇所話者間反復が観察される。すなわち、360JF097の発話では、「大事ですよ、制服」は倒置文であり、通常の話順の文である「制服大事ですよ」の「制服」と「大事ですよ」に倒置が起こっている。その上で、「大事」が反復されている。「大事」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 105】のようになる。

【表 105】 (246)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
☞ 大事			*

【表 105】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「大事」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(230)が適用される。360JF097の話者 JF097の発話「大事ですよ、制服」の統語構造を(248)のように示す。

(248) [S₁ [S [AP [NP₁t] [A大事]]] [CPLです] [FPよね]] [NP₂ [N制服] t]]

この文構造は NP₂「制服」が倒置した後のものである。NP₁は移動によって文末の NP₂に位置している。倒置した後、A に支配されている要素は「大事」である。「大事」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。「高校の制服」は、354JF096 の発話で話者 JF096 が取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、354JF096～360JF097 という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「大事」は談話的な制約に違反していることになる。「大事」は唯一の候補であり、最も多くの制約が満たされているものとして、最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「大事」が反復されることになる。

5.3.2. 形容詞が2つ以上の場合

本節では、形容詞が2つ以上の場合を分析していく。そして、話者間反復が S₁に起こる位置によって、話者間反復が主節、従属節、倒置文に起こる場合を順に観察していく。

5.3.2.1. 主節に起こる場合

本節では、形容詞の話者間反復が主節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 述語成分に起こる場合

本節では、形容詞の話者間反復が主節の述語成分に起こる場合の会話データを扱う。

まず、(249)を見られたい。

(249)

- 050281 J てかさ、すごい一生懸命働いとるのにさ(うん)、やっぱお金欲しいんだけど
(笑)
- 050282 I (笑)
- 050283 J ダメかな、こんなんじゃ
- 050284 I いや、欲しい
- 050285 J なんかさ、すごい動いとるのにさ、意外と4000円とかさ
……(中略)
- 050300 I 高すぎるけー
- 050301 J 服も高いし、あれも高い、なんか、交通費とかも高いけー
- 050302 I 高い
- 050303 J もうなんか
- 050304 I 高ーい
- 050305 J もうなんかさ、ね
- 050306 I ね
- 050307 J でも、おいしいご飯も食べたいじゃん

ここでは、050307 の発話のうち、「食べたい」が反復されている。「おいしいご飯も食べたいじゃん」は主節であり、「食べたい」は形容詞述語である。

まず、形容詞が1つの場合で仮定した形態的な制約、統語的な制約、談話的な制約は、形容詞が2つ以上ある場合に適用できるかどうかを見ていく。

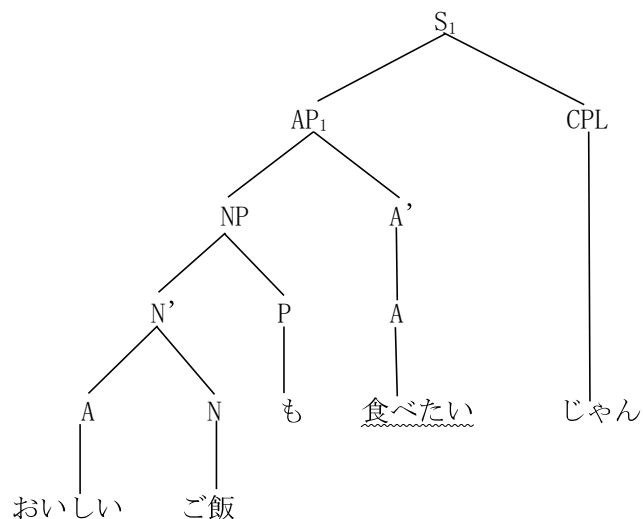
まず、形態的な制約(227)が適用され、「おいしい」「食べたい」が形容詞であるため、候補となる。

次に、統語的な制約(230)を適用してみる。050307 の話者Jの発話「おいしいご飯も食べたいじゃん」の統語構造を(250)のように示す。

(250) [_{S1} [_{AP} [_{NP} [_Aおいしい] [_Nご飯] [_Pも]] [_A食べたい]] [_{CPL}じゃん]]

統語的な制約(230)によると、Aにある要素が反復されるが、Aにある要素は「おいしい」「食べたい」の2つある場合、どれが候補になるかは分からない。ここでは、具体的に樹形図で示すと、(251)のようである。

(251)



ここでは、反復される「食べたい」の位置を観察していく。まず、「おいしい」を支配するAはNPに支配されている。NPと「食べたい」を支配するA'は同位要素である。反復される「食べたい」の位置を観察すると、「食べたい」を支配するA'はNPの右側にあるので、「おいしい」より「食べたい」の方が右側にあることになる。すなわち、「食べたいは」相対的に右にあることが分かる。相対的に右にあるというのは、S₁の文末に相対的に近いことを意味する。すなわち、S₁の文末に相対的に近い「食べたい」が反復されるのである。従っ

て、話者間反復(A)の統語的な制約(230)を次のように改訂する。

(252) 話者間反復(A)の統語的な制約：

S_1 の文末に相対的に近いAが反復される。

(252)の統語的な制約によって、「食べたい」が選ばれることになる。

最後に、談話的な制約(231)が適用される。「お金がほしい」ことは、050281の発話で話者Jが取り上げたことから、既知情報となっている。この既知情報は、050281～050387という発話の集合体に共通しているため、これが話題となる。従って、「おいしい」「食べたい」は談話的な制約に違反していることになる。

以上、統語的な制約を改訂した上で、それぞれの制約で選ばれた要素を【表106】のように分析する。

【表106】 (249)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おいしい		*	*
☞ 食べたい			*

候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「食べたい」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「食べたい」が反復されることになる。

次に、(253)を見られたい。

(253)

050319 J でも、かわいい服も欲しいじゃないですか

050320 I そう、そこよ、そこよね

050321 J そこよね

050322 I ね

050323 J まじ

050324 I そこよね、どうしたらいいんだろうね

050325 J 春服ほしいわ、もうちょい

050326 I ね、自分ももうちょい欲しい、けど

050327 J でも、もうこれで精一杯だったわ

050328 I え、かわいいよ

050329 J ありがとう、(笑)これと靴買ったの

- 050330 I (笑)あ, いいね
 050331 J うん
 050332 I やっぱ, それかわいいよね
 050333 J うん, つるつるの, てかてかの
 050334 I ね
 050335 J そう
 050336 I やっぱ, かわいいよね, うわ, かわいいよ(笑)
 050337 J (笑)うん, かわいいよ
 050338 I かわいいね, やっぱかわいいよね
 050339 J うん
 050340 I そうだよ
 050341 J うん, そう, もうね, 春服, 今すごいほしいの, でも
 050342 I うん, ほしいんよ

ここでは, 050341 の発話のうち, 「ほしい」が反復されている。「もうね, 春服, 今すごいほしいの」は主節であり, 「ほしい」は形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと, 【表 107】のようになる。

【表 107】 (253)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
すごい		*	*
☞ ほしい			

【表 107】において, まず, 形態的な制約(227)が適用され, 「すごい」「ほしい」が形容詞であるため, 候補となる。次に, 統語的な制約(252)が適用される。050341 の話者 J の発話「もうね, 春服, 今すごいほしいの」の統語構造を(254)のように示す。

(254) [S₁ [AP [Adv もうね] [NP₁ [N 春服]] [NP₂ [N 今]] [A すごい] [A ほしい]] [FP の]]

相対的に文末に近い A は「ほしい」である。「ほしい」が候補となる。そして, 談話的な制約(231)が適用される。「かわいい服がほしい」ことは, 050319 の発話で話者 J が取り上げたことから, 既知情報となっている。この既知情報は, 050319~050341 という発話の集合体に共通しているので, 話題となる。すなわち, 050341 の発話には「ほしい」が話題の要素となっているので, 候補となる。候補として残った要素の中で, 最も多くの制約が満たされているものは「ほしい」であり, これが最適な候補となる。従って, 実際の会話では, こ

の最適候補である「ほしい」が反復されることになる。

5.3.2.2. 従属節に起こる場合

本節では、形容詞の話者間反復が従属節に起こる場合の会話データを扱う。

[1] 述語成分に起こる場合

本節では、形容詞の話者間反復が従属節の述語成分に起こる場合の会話データを扱う。
まず、(255)を見られたい。

(255)

050001 J すごいかわいらしい方だった
050002 I ね、めっちゃかわいいよね

ここでは、050001の発話のうち、「かわい」が反復されている。「すごいかわいらしい」は従属節であり、「かわい」は従属節の形容詞述語である。この話者間反復に関する制約のタブローを示すと、【表 108】のようになる。

【表 108】 (255)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
すごい		*	*
☞ かわい			*

【表 108】において、まず、形態的な制約(227)が適用され、「すごい」「かわい」が形容詞であるため、候補となる。次に、統語的な制約(252)が適用される。050001の話者Jの発話「すごいかわいらしい方だった」の統語構造を(256)のように示す。

(256) [_{S1} [_{NP} [_{AP} [_Aすごい] [_Aかわい] [_{CPL}らしい]]] [_{FN}方]] [_{CPL}だった]]

相対的に文末に近いAは「かわい」である。「かわい」が候補となる。そして、談話的な制約(231)が適用される。この会話は050001から始まり、話者Jは「かわいい人」という話題を提示したが、話者Iがまだどう受け止めるか判断できないため、050002の発話する時点までは、話題は存在しないので、候補もない。従って、「すごい」「かわい」は談話的な制約に違反していることになる。候補として残った要素の中で、最も多くの制約が満たされているものは「かわい」であり、これが最適な候補となる。従って、実際の会話では、この最適候補である「かわい」が反復されることになる。

5.3.2.3. 倒置文に起こる場合

形容詞の話者間反復が倒置文に起こる場合の会話データは現時点までまだ見られない。

5.3.3. 話者間反復(A)の制約について

5.3 では、形容詞が1つと、形容詞が2つ以上現れる会話データを観察した。形容詞が1つの場合では、形態的・統語的・談話的な制約の仮説を立てて検証した。形容詞が2つ以上の場合では、その仮説を修正し検証した。形容詞が反復される場合の形態的・統語的・談話的な制約を再掲すると、次の通りである。

(257) (= (227)) 話者間反復(A)の形態的な制約：

文(S₁)を構成する要素の中で、形容詞が反復される。

(258) (= (252)) 話者間反復(A)の統語的な制約：

S₁の文末に相対的に近いAが反復される。

(259) (= (231)) 話者間反復(A)の談話的な制約：

文(S₁)においては、話題となる形容詞が反復される。

(257)の形態的な制約では、形容詞が反復されやすい。(257)では、形容詞が反復される場合の優先順位はまだ見られないが、その優先順位も存在するだろうと予想されている。形容詞が反復される会話データを増やし観察することが今後の課題である。

(258)の統語的な制約で、S₁の文末に相対的に近いAが反復されるというのは、反復されるAはおそらくS₁の中で「文末により近い位置を指向」しているのではないかと考えられる。

(259)の談話的な制約で、話題となる形容詞が反復されるというのは、話者間反復には先行研究で言及されたような話題の継続、展開、提示など、談話構成上の機能が働いていると考えられる。

以上より、形容詞が反復される場合、形容詞がS₁のどこに起こっても、同じ形態的・統語的・談話的といった3つの制約に従って、最適な要素が選ばれて反復されることが分かった。

6. まとめ

第5章では、最適性理論の考え方を利用し、形態的・統語的・談話的な観点から、先行研究の機能的な観点だけでは解決できない問題、すなわち、どのような要素が選ばれて反復されるのか、なぜこの要素が選ばれて反復されるのかという2点について分析した。その結果、名詞・動詞・形容詞それぞれが反復される場合の形態的・統語的・談話的制約が得られた。ある話者が話者間反復の要素を選ぶ際に、それぞれの制約によって選ばれたいくつかの候補から、最も多くの制約に満たされている最適な候補を選んで反復することが分かった。

本章では、話者間反復の形態的・統語的・談話的な制約をそれぞれまとめて、記述する。

6.1. 話者間反復の形態的な制約について

ここでは、話者間反復の形態的な制約についてまとめる。

まず、名詞・動詞・形容詞それぞれが反復される場合の形態的な制約を以下に挙げる。

(260) (= (149)) 話者間反復 (N) の形態的な制約 :

文 (S_1) を構成する要素の中で、以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

名詞 > 疑問詞(名詞) > コロケーション内の名詞・形式名詞

(261) (= (223)) 話者間反復 (V) の形態的な制約 :

文 (S_1) を構成する要素の中で、以下に示す優先順位が高い要素が反復される。

動詞 > コロケーション内の動詞

(262) (= (257)) 話者間反復 (A) の形態的な制約 :

文 (S_1) を構成する要素の中で、形容詞が反復される。

以上から見ると、名詞・動詞が反復される場合、それぞれ異なる範疇内の優先順位に従って、反復される要素が選ばれるのである。現時点では、形容詞が反復される場合における優先順位はまだ見られない。

これらの形態的な制約では、疑問詞(名詞)は定性が相対的に低いため、反復されにくい。また、コロケーション内の名詞・形式名詞、コロケーション内の動詞は独立性が相対的に低いため、反復されにくい。従って、話者間反復の形態的な制約を以下のようにまとめられる。

(263) 話者間反復の形態的な制約

文 (S_1) を構成する要素の中で、定性あるいは独立性が相対的に高い要素が反復される。

6.2. 話者間反復の統語的な制約について

ここでは、話者間反復の統語的な制約についてまとめる。

まず、名詞・動詞・形容詞それぞれが反復される場合の統語的な制約を以下に挙げる。

(264) (= (150)) 話者間反復 (N) の統語的な制約 :

S_1 の文末に相対的に近い N が反復される。

(265) (= (224)) 話者間反復 (V) の統語的な制約 :

S_1 の文末に相対的に近い V が反復される。

(266) (= (258)) 話者間反復 (A) の統語的な制約 :

S_1 の文末に相対的に近い A が反復される。

以上から、話者間反復の統語的な制約は以下のようにまとめられる。

(267) 話者間反復の統語的な制約

S_1 の文末に相対的に近い要素が反復される。

S_1 の文末に相対的に近い要素が反復されるということは、反復される要素がおそらく S_1 の中で「文末により近い位置を指向している」のではないかと考えられる。反復される要素は「文末への指向性」を持っていると考えられる。

6.3. 話者間反復の談話的な制約について

ここでは、話者間反復の談話的な制約についてまとめる。

まず、名詞・動詞・形容詞それぞれが反復される場合の談話的な制約を以下に挙げる。

(268) (= (151)) 話者間反復 (N) の談話的な制約 :

文 (S_1) においては、話題となる名詞が反復される。

(269) (= (225)) 話者間反復 (V) の談話的な制約 :

文 (S_1) においては、話題となる動詞が反復される。

(270) (= (259)) 話者間反復 (A) の談話的な制約 :

文 (S_1) においては、話題となる形容詞が反復される。

以上より、話者間反復の談話的な制約は以下のようにまとめられる。

(271) 話者間反復の談話的な制約

文(S₁)においては、話題となる要素が反復される。

話題となる要素が反復されるということは、話者間反復には先行研究で言及されたような話題の継続、展開、提示など、談話構成上の機能が働いていると考えられる。

6.4. 話者間反復について

以上より、話者間反復の制約を明らかにすることができた。3つの制約を以下に再掲する。

(272) (= (263)) 話者間反復の形態的な制約

文(S₁)を構成する要素の中で、定性あるいは独立性が相対的に高い要素が反復される。

(273) (= (267)) 話者間反復の統語的な制約

S₁の文末に相対的に近い要素が反復される。

(274) (= (271)) 話者間反復の談話的な制約

文(S₁)においては、話題となる要素が反復される。

本稿の分析結果を踏まえると、話者間反復という現象は、1つの領域の制約だけが関与しているものではなく、形態的・統語的・談話的といった3つの制約の相互作用によって起こるものであると考えられる。

7. 問題点・今後の課題

本稿では、話者間反復に関わる3つの制約を判明した。しかし、未解決の問題点が多数残っている。本章では、その問題点や今後の課題について述べる。

7.1. 会話データに関する問題

ここでは、会話データに関する残された問題をまとめる。

本稿で使用された日本語自然会話データは、筆者独自で収集した会話データ(7本、合計約350分)と、BTSJコーパスから抽出した会話データ(7本、合計約315分)である。

まず、会話データの全体量が不足していることは否めない。今後、さらに会話データを増やし、本稿の結果に対して、厳密な検証を行う必要がある。

次に、筆者独自で行う言語調査の被調査者は、同性友人同士の10代~20代の大学生だけである。また、本稿で使用されたBTSJコーパスの会話データについては、言語調査の被調査者と統一するために、そこから10代~20代同性大学生(友人同士)の日本語自然会話を7本抽出した。被調査者の属性は全体的に単一であることが問題として挙げられる。被調査者は他の組み合わせ(男女の2人ペア, 多人数など), 他の関係(初対面, 教師と学生など), 他の世代(30代, 40代など)で調査することが考えられる。

また、筆者独自で行う言語調査は2人の被調査者に対面で自由に会話してもらうものである。他の異なる場面(電話, 討論など)の会話データを収集する必要もある。

現時点では、話者の社会的属性、会話場面などが異なっても、本稿の結果は変わらないという仮説を立てているが、大量または多種多様な会話データを収集し、本稿の結果を様々な角度から検証し、比較することが今後の課題として残されている。

7.2. 話者間反復に関する問題

ここでは、話者間反復に関する問題をまとめる。

7.2.1. 合成語の話者間反復について

まず、以下のような会話データを見られたい。

(275)

050703 J でも、ピンク系も懂れる

050704 I うん

050705 J 春やし

050706 I うん、やっぱ、ピンクいいよね

050707 J ねー、でも、オレンジ系も好きやけどね

050708 I うんうんうん、でも、オレンジでも落ちればなるけ

(276)

- 50JF096 「大学名 5」大、超一ぼろかったよ。
- 51JF097 <笑い>。
- 52JF096 <笑い>「大学名 5」大は、あの一、なんかで、なん、セン??、なんか、センタ
一模試かなんかで、
- 53JF097 あーあーあー。
- 54JF096 1 回行ったことがあって。
- 55JF096 だって<軽く笑い>,,
- 56JF097 <けっこう>{<>, ,
- 57JF096 <教壇>{>とか、(うん)穴あいてるんだもん<笑いながら>。
- 58JF097 国立ってけっこう、ぼろい系、<多いですよ>{<>。
- 59JF096 <ぼろいぼろい>{>。

(277)

- 214JF093 そこで、『ミスアジア』みたいなやつ、大会をすとかいって、超応募した
かったん。
- 215JF092 え、「JF093 名」が行ってる時に?、やってんの?。
- 216JF093 なん、なん、忘れたけど、それは募集してんのかなー。
- 217JF093 あたしがいたときに、大会が行われたのかは知らないけどー、
- 218JF092 うん。
- 219JF093 『ミスアジア』とかいってた。
- 220JF092 あー。
- 221JF093 ##でしょー?。
- 222JF092 でも、ほんとにアジアっぽい子が選ばれるんだろうね。
- 223JF093 アジアじゃん。

(278)

- 616JM013 附属もないしさー、なんか、ちゃらけてるやつがいなくない?。
- 617JM013 ほんとにちゃらけてるやつが。
- 618JM014 <軽い笑い>ほんとにちゃらけてるって、<どんな>{<>?。
- 619JM013 <附属>{>校上がりのちゃらけてるようなお坊ちゃんぽいやつ。
- 620JM014 あー、附属校が全然来ないからね<軽い笑い>。

(279)

- 010541 A え、ジーパンって結構高くない?
- 010542 B 高いよ

- 010543 A ね, 五千円ぐらいするでしょ?
- 010544 B え, そんなするっけ?
- 010545 A えーしない?
- 010546 B あんま記憶にないわ, いくらかは, 親に買ってもらっとるし
- 010547 A まあまあ, するのはする, なんか ジープもどきみたいなやつは, 分かる?
- 010548 B もどき, 分かるよ

以上より, 派生語全体が反復されるわけではなく, その一部分が反復されている会話データが見られる。(275)では, 「オレンジ系」の「オレンジ」が, (276)では, 「ぼろい系」の「ぼろい」が, (277)では, 「アジアっぽい」の「アジア」が, (278)では, 「附属校あがり」の「附属校」がそれぞれそれらしか反復されていない。すなわち, 接尾辞の「系」「っぽい」「上がり」は反復されていないのである。しかし, (279)では, 「ジープもどき」の接尾辞「もどき」が反復されている。また, 以下のような会話データを見られたい。

(280)

- 010432 A 嫌だねー
- 010433 B 梅雨が, 明日は晴れだけどね
- 010434 A いつまで続くんだろう
- 010435 B 分からん, でも日曜月曜日は雨やね, その後は曇りとか晴とか
- 010436 A まあ, 天気予報って当てにならないからね
- 010437 B まあ予報だから

(281)

- 010226 A あとは, もう大学辞めちゃった人もいるし
- 010227 B あー
- 010228 A ちゃんも行ってる人もいるよ, もちろん(笑)
- 010229 B いや, (笑)そりゃそうやろ, それがほとんど, 8割くらいそうじゃない? 8割9割は, そりゃそうやろう
- 010230 A 大変だなーみんな
- 010231 B 嫌だなーもう単位めんどくさい, ほしいな単位, ただでくれんかな単位
- 010232 A 単位なー, え, 世界の銘酒辞典とかある
- 010233 B 銘酒? お酒

(282)

- 060098 L 催しか, なんか考えとこ, 困るなー, で, 一年後帰ってきたら三年生で始まり?

それかもう？

- 060099 K 四年
060100 L 四年なんか、で卒業できるんか、交換留学やし
060101 K もしね単位、単位の問題
060102 L でもいいね、自分交換留学制度とってないから、在籍期間が足りんって言
われて
060103 K 交換留学せんやったん？

(283)

- 050805 J でも(人名1)ちゃんらとも飲みたいなー、3人でも飲みたいなー
050806 I 飲みたいね
050807 J ね、絶対楽しいやろ(笑)
050808 I (笑)
050809 J 絶対楽しい、うん、もう確定事実だわ
050810 I 確定、いいなー、飲みたいね

(284)

- 030273 E テレビよりユーチューブの方が見とるから
030274 F あー、そっかそっか、えー、何やろうな近頃、テレビに出てきてる人、何かお
ったかな、ちょっとね、聞いてみたいよな
030275 E うちの姉に、このなんかよく分からん女性二人、何か知らん？この人たち芸人
なんだってって言われたら普通に信じるんすよね
030276 F (笑)
030277 E 一回それ、普通に信じて、そうなんやって言ったらいや違う違う違うって(笑)
030278 F (笑)
030279 E 言うほどみんな、テレビ世代かっていう
030280 F いやテレビとともに育ったよ、こんな、俺たちは

(285)

- 030161 E あ、福山雅治は通った
030162 F いやー、ちょっと違うんだよなー
030163 E 小5、6で福山雅治にハマりました
030164 F 平成初期の、その青春ソングっぽいよな、なんか
030165 E だからレパトリーというか、ね、はやりの歌とかそういうものよくわからな
いんですよ

030166 F あ、そう、ユーチューブとかでさ、出てくるじゃないか、おすすめというか新着動画レスは

030167 E あー、新着動画の中に音楽の(あー、はい)、あなたにおすすめの中に出てこないんですよ(笑)

(286)

435JM019 最後、最後おれ出るよ、多分、最後の、まだば、順番決まってないけど。

436JM019 ステージ登ってきてよ(軽い笑い)。

437JM019 みんなのむ、登るからさ、<多分>{<}。

438JM020 <そう>{>}なの?。

439JM019 <確か、去年で>{<}[ささやくように]。

440JM020 <え、どう、どう>{>}だけ?、あれって。

441JM020 水上ステージなくなった、ん<だよね?>{<}。

442JM019 <あーのー>{>}、普通のステージで、広場のさ、ステージあるじゃん。

(287)

803JF096 今の店長はいちいち口出してくるから、やりたくないの、こっちも、<新人教育>{<}。

804JF097 <そうなんです>{>}よね。

805JF096 うん。

806JF097 なんか自分色に染めたいんですよね。

807JF096 そう。

808JF096 とにかくだったらもう、自分で最初からやってって思うけど、

以上より、複合語の一部が反復されている会話データも見られる。(280)では「天気予報」の「予報」が、(281)では「銘酒辞典」の「銘酒」が、(282)では「交換留学制度」の「交換留学」が、(283)では「確定事実」の「確定」が、(284)では「テレビ世代」の「テレビ」が、(285)では「新着動画レス」の「新着動画」が、(286)では「水上ステージ」の「ステージ」が、(287)の「自分色」の「自分」がそれぞれそれらしか反復されていない。

なぜこれらの合成語が部分的に反復されるのかは問題として残されている。本稿で扱った会話データの中で、このような会話データは13例しか見られない。出現数としては少数であるため、その理由については不明である。これは、反復をする話者がどのような発話意図を持って、どのような意味を表出したいのかという問題に関わるかもしれない。ひょっとしたら、会話の展開にも関わると予測しているが、今後は会話データを増やすことで、同じような会話データをまとめて観察する必要がある。

7.2.2. S₂の考察について

次の問題点として、本稿では話者間反復の S₁ しか観察していないことである。特に、話者間反復の統語的な制約によって、反復される要素は S₁ の中で「文末により近い位置を指向」しているという結論に至ったが、S₂ の方にはどのような傾向が存在しているのかは考察されていない。これは、発話者の認知プロセスを念頭に置いているからである。S₁ の発話を聞いた話者（聞き手）は、本稿で仮定した 3 つの制約に基づいて、どの要素を話者間反復させるかを決定するという認知プロセスを採っていると考えている。従って、聞き手は基本的に S₁ しか聞き取っていないことになる。そのため、本稿においては S₁ だけを観察している。しかし、もし S₂ までも関与するとなると、聞き手のターンになったときに、すでに聞き手は S₂ の構造までもプランニングしていることになる。しかも、そこに、もし S₂ における Y が統語的に左寄り、すなわち「文頭により近い位置を指向している」というような制約があるとすると、X と Y の統語的な隣接性の度合いによって話者間反復を説明できるかもしれない。これは今後の課題とする。

7.2.3. 複数回反復される話者間反復について

次に、以下のような会話データを見られたい。

(288)

- 284JF093 え、でも、昨日の、あれはおもしろ、内ピーは面白かった。
285JF092 内ピーだ、途中から見たんだよね、〈内ピーは〉{< }。
286JF093 <カバディ>{>}。
287JF093 カバディやってみたい。
288JF093 カバディ超やりたい。
289JF092 カバディカバディカバディ。

(289)

- 030358 F ジャファンタの CM, 小学校の時は, ファンタの CM, いろんな先生が出てくるやつ, 3年何組, 何々先生, みたいな
030359 E 確かに
030360 F 殿, 殿みたいなんが
030361 E 何回か見たことあります
030362 F 次々, 次の問題はー, みたいな, ああ, あれは分かるか
030363 E 分かります分かります

(290)

- 030512 F (笑) あー, じゃストーリーもね, 全然, ほんまやなー, 小さいころ読んだ漫

- 画ってたぶん大事よね、やっぱスポーツマンガとか読んどきゃよかったよ
- 030513 E (笑) いや、めちゃくちゃ古い漫画読んでましたけどね、なんかおじさん、うちのおじさんが買ってみたいいな、こち亀はありましたもんね、うちに
- 030514 F (笑) あーそういう感じか
- 030515 E こち亀と、あとガッツ乱平っていう漫画が
- 030516 F (笑) 何漫画や、ガッツ乱平
- 030517 E いや、コメディですよ
- 030518 F コメディなんや、ギャグの
- 030519 E めちゃくちゃ面白いんですけどね、誰も知らないんですよ
- 030520 F 知らん知らん、絵が思い浮かばんもん、絵が(笑)ここに渦巻はありそうやもん、
類に

(291)

- 541JM020 あ、でもさ、「大学名1」…。
- 542JM019 おれら今年出るんだよ、「サークル名2」。
- 543JM020 まじで?。
- 544JM019 合同でライブをやらしてもらうことになって一、んで一、だから、昼間からね、6時ぐらいまでやってる。
- 545JM019 飲み会来る?、って<2人で笑う>。
- 546JM020 無理だろ<笑い>。
- 547JM019 あー、じゃあ水曜日にさー、
- 548JM019 水曜日って授業詰ってる?。
- 549JM020 うーんと、詰ってる、詰ってるわ。
- 550JM020 1、2、3、4 ‘し’ ある。

(292)

- 120JM015 トラックとかも来るよ、たまに。
- 121JM016 来る来る。
- 122JM015 トラックとか[小さい声で]。
- 123JM016 軽、あの、でかいやつじゃないけど(うん)、まーまーでかいのが来る。
- 124JM015 おーおー。
- 125JM015 なんか、結構怖いよね。
- 126JM015 そこに自動車工場が<軽い笑い>あるんだよ<軽く笑いながら>。
- 127JM016 あー、あるある、<ある>{<}。

以上の話者間反復の会話データでは、(288)の「カバディ」が3回、(289)の「分かる」

が2回、(290)の「知らない」が2回、(291)の「詰まってる」が2回、(292)の「ある」が3回反復されている。これらの会話データでは、同じ要素が2、3回反復されているが、動詞が複数回反復される場合が多く見られる。なぜ動詞の場合が多いのか、なぜ複数回反復されるのか、それは反復される要素の形態的な特徴と話者間反復の機能と関連しているかもしれないが、今後の課題として残されている。

7.2.4. 話者間反復の繰り返しについて

次に、以下のような会話データが挙げられる。

(293)

- 010433 B 梅雨が、明日は晴れだけどね
010434 A いつまで続くんだろう
010435 B 分からん、でも日曜月曜日は雨やね、その後は曇りとか晴とか
010436 A まあ、天気予報って当てにならないからね
010437 B まあ予報だから
010438 A 降るときは降るし、晴れてても、風がさー、ぶんびゅん吹いてたらさー、洗濯物干せないし
010439 B そんな簡単に飛んでいく？
010440 A 飛んでいかないけど、えでも結構強いじゃん、強い時
010441 B まあ、うん
010442 A てか結構いつも強くない？風、山口
010443 B 強いね
010444 A 山口風強いよ
010445 B 強いね、確かに強いつて言われてるわ、なんか
010446 A 強い強い、もう何て傘折れそうぐらい風吹くじゃん

(293)においては、話者間反復が010443～010446で繰り返されている。同じ要素「強い」が反復されている。

(294)

- 010591 A うん、もう冬とか履けない、スカート
010592 B 寒いやろ
010593 A 寒い
010594 B ズボンじゃないと
010595 A 本当に寒い
010596 B スカート

- 010597 A 寒いしね, ここね
 010598 B うふふ, 盆地だもん, 寒い
 010599 A ね, 雪めちゃ降るし
 010600 B そんな降るかなー
 010601 A 降るよ
 010602 B そんな降るかな
 010603 A 降る降る

(294)においては、話者間反復が 01599～010603 で繰り返されている。同じ要素「降る」が反復されている。

(295)

- 010736 B うける(人名7)
 010737 A 懐かしいわ
 010738 B おもろ, (人名7)も受け身やからな
 010739 A うんー, まあでもこうさ, ずっと聞ってるから気付く事もあるんだろうね
 010740 B あー, あるんかな
 010741 A あると思う
 010742 B そっか
 010743 A まあ, いいと思うわ, あの2人は, 良いと思う
 010744 B 良いですか?
 010745 A うん, 良い良い
 010746 B (人名1)ちゃんから良いが出ましたね
 010747 A 良いを頂きました

(295)においては、話者間反復が 010743～010747 で繰り返されている。同じ要素「良い」が反復されている。

以上のように、話者間反復が会話データの特定の箇所では集中的に繰り返される場合が存在する。どのような箇所では集中的に繰り返されるのか、なぜこのように集中的に繰り返されるのかを今後の課題として研究していきたい。特に、言語調査のデータ 01に見られることが多いことから、話者の性質と関連性があるかもしれない。また、話者間反復の繰り返しという現象を考察する際に、同じ形態素が繰り返されている「重複」、あるいは程莉(2020)の意味的重なる「重複」という観点から、新たに説明できるかもしれない。今後の課題とする。

7.2.5. 集中的に起こる話者間反復について

次に、以下のような会話データが見られる。

(296)

- 060077 K ほかの道もあるしね
- 060078 L そうそうそう，だから，メインはやっぱ一人で向こうを動くこと(うんうん)，やし，その時間が長すぎるっていうのと，一年間もあるし(うんうん)，っていうのと，やっぱ英語力持ち上げといた方がスムーズに行くかなっていうので(うんうん)，フィリピンの学校行きたいなって思ったくらいやし(うんうん)，そっちはメインじゃないけど(うん)，行けたら行こうかなって
- 060079 K なるほどね，その，一人で行ける準備じゃないけど
- 060080 L そうそうそう，ただの通過点っていうか
- 060081 K 通過点
- 060082 L そう，一緒の時期よね？たぶん
- 060083 K うん，一緒一緒，9月くらい？
- 060084 L うん，9月，あ，でも 9月は俺ね長男が結婚式でんといけん
- 060085 K ああ，結婚式，聞いた聞いた聞いた
- 060086 L 初出席，服装もわからん，スーツよね？
- 060087 K スーツスーツ，その服装で行くなよ，(笑)それならあれやったらたぶん絶対催しとかせんといけんのやない？

(296)では、異なる要素の話者間反復が060080～060087で集中的に起こっている。

(297)

- 030103 E 会話が途切れるまで，どこまで会話できるんかやってみようって行って(ああ)，カフェで五時間つぶしたことあります
- 030104 F あー，聞いたことあるな，やばいよなー
- 030105 E いうほど，話題に事欠かんわけじゃないんですよ別に，話題が豊富ってわけでもないし
- 030106 F うん，はいはい
- 030107 E 波長？
- 030108 F 波長
- 030109 E 波長が合うみたいな
- 030110 F なんだろう波長って，考え方とかってことなんかな
- 030111 E 考え方は割と真逆ですね
- 030112 F 真逆のほうがバチバチなんのかな，バチバチというか，盛り上がるかな

(297)では、異なる要素の話者間反復が 030107～030112 で集中的に起こっている。

(298)

- 010073 A まあねー、タイトスカートよりいいと思うわ
010074 B 私はあるなん履きたくないわ、絶対嫌だ
010075 A ねー、なんかちょっとさ、あのなに、バーコードが取れてるときとか取りに行
かなきゃいけないじゃん
010076 B うん
010077 A そういうときとかもう、ズボンがいいなーって思う
010078 B ああ、あれ歩き辛い?
010079 A 歩き辛いっていうかなんかね、あんま、うーん、人目をはばかり
010080 B はばかり、へーそうなんだ、ゆめタウン、もうちょっとゆったりしてるから
010081 A スカートが?
010082 B なんか、スカートに見えるズボン?なんかちょっと、分かれてる股が

(298)では、異なる要素の話者間反復が 010078～010082 で集中的に起こっている。

(299)

- 010531 A (笑)あなたはな、こうダンスから、こうダンスを開けてさーもう目に入ったも
のを着るっていうタイプやる?
010532 B あーそうそう、だってだってループだもん、二日に一回同じやもん(笑)
010533 A (笑)シャツが
010534 B シャツ、シャツ、ジーパンもまあ同じやし
010535 A ジーパン毎回洗ってるの?
010536 B 洗ってるよ、もちろん、全部毎回洗ってるよ、あー(えー)でも上着は着て、毎
回洗ってないわ、さすがにちょっと、うん

(299)では、異なる要素の話者間反復が 010533～010536 で集中的に起こっている。

以上のように、異なる要素の話者間反復が会話データの特定の箇所で集中的に起こって
いる場合も存在する。話者間反復がどのような箇所で集中的に起こっているのか、なぜこの
ように集中的に起こっているのか、これは会話の進行方略とどのように関連しているのか
を今後の課題として研究していきたい。また、同じ要素の話者間反復が集中的に繰り返され
る場合と、異なる要素の話者間反復が集中的に起こっている場合を比較し、その共通点と相
違点を追究する必要もあると考えられる。

7.2.6. 副詞の話者間反復について

また、以下のような副詞が反復される会話データが見られる。

(300)

- 050537 J (笑)これ一枚目にして次、二枚目になんとか覚ね
050538 I (笑)自分売るね
050539 J (笑)なんかもう、ここまできたら、もう、全力でやるよね
050540 I (笑)
050541 J プロやけさ、やっぱ (笑)
050542 I やっぱ違うね

(301)

- 010368 A やば、忘れちゃいそう
010369 B だから2ヶ月ぐらいあるやん
010370 A 忘れちゃいそうじゃん
010371 B うん、あ、気付いたら、TOEIC だみたいな感じになりそう
010372 A うん、えー
010373 B やばい、全然もう
010374 A もう忘れてるよね

(302)

- 050387 J 何になるか分からん
050388 I そう、分からんよね
050389 J え、もう、まじで、見失ったわ、(笑)国総のせいで
050390 I そう、入ってさ
050391 J うん
050392 I なんか、入ったらわかると思っと思ったんよね
050393 J うん、見失ったわ
050394 I ね、逆に見失うね
050395 J 逆に今、迷走中よ

(303)

- 280JM013 普通だよ。
281JM014 普通っていうか<吹出すように笑って>。
282JM013 うん。
283JM014 ほ<一ん>{<>}。

284JM013 <てい>{}、優しいみたいな。

285JM014 優しい<笑いながら>。

286JM013 うん、意外と優しい。

287JM014 意外と<笑いながら>。

(300)では「やっぱ」が、(301)では「もう」が、(302)では「逆に」が、(303)では「意外と」が反復されている。副詞は名詞・動詞・形容詞を修飾するものである。これらの副詞が反復されるのは、形態的・統語的・談話的な制約以外に原因があると考えられる。例えば、(300)では、050542の話者Iが「やっぱ」を反復することで、話者Jの発話を継続しているように見える。また、(301)では、010374の話者Aが「もう」を反復することで、話者Bが言い切らないことを続けるように見える。これらのことから、まるで1人が発話しているのではないかと考えられる。このように考えることによって、話者間反復が異なる話者間で起こる反復現象であるが、実際は話者間反復によって話者交替がないような、会話を進行させる仕組みも考えられるのではないだろうか。これは話者間反復と話者交替の関連性を追究すること必要となる。今後の課題として残っている。

7.2.7. 話者間反復の定義について

次の問題点は、話者間反復の定義において、XとYが類似している場合である。本稿では、「降った～降ってた」、「分かる～分かります」、「酒～お酒」、「出してきた～出した」、「教えて～教えてもらいました」などのような場合は、「XとYが類似している」こととして扱った。「降った～降ってた」は方言表現であり、「分かります」「お酒」は待遇表現である。「出してきた」「教えてもらいました」は移動の方向と恩恵的事態を表す補助動詞と関わる表現である。これらの表現にある違いを改めて検討する必要がある。

本稿では、形態上の類似性によって、話者間反復であるかどうかを判断しているが、形態上の「類似性」についてきちんと定義していないことも問題として残されている。現時点では、単語の語幹が同じ場合、類似していると考えたいが、「類似性」について統一したルールを立てていないので、今後は様々な場合を想定しながら、客観的な根拠を用いて、形態上の「類似性」を規定していく必要があると考えている。

また、本稿では、話者間反復が隣接している話者間で起こる反復であると規定したが、論文の最初で挙げた(5)のような、離れている話者間で起こる反復も話者間反復の一種として扱うことも可能である。そうすると、話者間反復の定義を問い直す必要がある。また、このような場合、発話の展開を考慮することも必要であろう。例えば、話者Aの発話「冬の方が好きやわ」から、話者Bの発話「いや冬は寒いやん」までの会話がどのように展開されていくことによって、話者Bは「冬」を選んで反復するのか、どのような会話展開パターンが存在するのか、という問題を探究していく必要があると考えている。

7.2.8. 話者間反復と感動詞について

ここでは、以下の会話データを見ていく。

まず、(304)を見られたい。

(304)

060077 K ほかの道もあるしね

060078 L そうそうそう、だから、メインはやっぱ一人で向こうを動くこと(うんうん)、やし、その時間が長すぎるっていうのと、一年間もあるし(うんうん)、っていうのと、やっぱ英語力持ち上げといた方がスムーズに行くかなっていうので(うんうん)、フィリピンの学校行きたいなって思ったくらいやし(うんうん)、そっちはメインじゃないけど(うん)、行けたら行こうかなって

060079 K なるほどね、その、一人で行ける準備じゃないけど

060080 L そうそうそう、ただの通過点っていうか

060081 K 通過点

060082 L そう、一緒の時期よね? たぶん

060083 K うん、一緒一緒、9月くらい?

【表 109】 (304)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
一緒		*	*
☞ 時期			*

(304)の060082の発話で起こる話者間反復は、【表 109】の計算によると、「時期」が最適な候補であるが、実際の会話では「一緒」が反復されている。060083話者Kの発話では、反復される「一緒」の直前に、感動詞「うん」が現れる。次の(305)も同じである。

(305)

010140 A 山口県の言葉ってあるよ、山口県

010141 B ちややろ、ちょ、ちよるとか

010142 A 山口県の言葉、でも、おばあちゃんとかめっちゃもう、方言やね山口

010143 B ああ、うん、おばあちゃん、

【表 110】 (305)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おばあちゃん		*	*
方言		*	
☞ 山口			

(305)の 010142 の発話で起こる話者間反復は、【表 110】の計算によると、「山口」が最適な候補であるが、実際の会話では「おばあちゃん」が反復されている。010143 話者 B の発話では、反復される「おばあちゃん」の直前に、感動詞「ああ」と「うん」が現れる。

以上より、感動詞が現れることが反復される要素の選択に影響を与えるのではないかと推測している。しかし、話者間反復が起こるところに現れる感動詞がどのような意味・機能を持つのか、反復される要素の選択と感動詞とがどのように関連しているのかについては現時点では不明である。今後の課題とする。

7.3. 話者間反復と最適性理論に関する問題

本稿では、最適性理論の考え方を利用した。どの候補でも反復される可能性があるが、最適な候補が最も選ばれやすい。しかし、最適ではない候補が反復される会話データも見られる。この節では、最適ではない候補が反復される場合と関連する可能性を論じていく。

7.3.1. 倒置文に起こる話者間反復について

本稿では、話者間反復が倒置文に起こる場合、そこには「かきまぜ規則(scrambling)」が適用されているという考え方を採る。しかし、以下のような倒置文に起こる会話データはかきまぜ規則を適用せずに説明できるかもしれない。

まず、(306)を見られたい。

(306)

070091 N 普通の電卓持ってないや、百均で買おう

070092 M それやったらあれで

070093 N まじ？貸してほしい

070094 M もちろん

070095 N そうよね、普通に電卓あるだけでも計算ミスらんもんね

070096 M うん、うん、そうそう

070097 N いつが暇？(人名 4)

070098 M え？もう来週とか暇よ、ていうかなんならこの土日もバイト以外ない、あ、土曜日はPBLあるけど(うんうん)、え、今日も、金曜日？

【表 111】 (306)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
いつ	%	*	*
暇		*	*
☞ (人名 4)			*

(306)では、070097の発話のうち、「(人名 4)」は文末に移動されている。【表 111】の計算によると、「(人名 4)」が最適な候補であるが、実際の会話では「暇」が反復されている。

次に、(307)を見られたい。

(307)

- 050484 I なんか、ポスター感出したいよね、なんか、ポスターじゃないけど
 050485 J うんうん
 050486 I なんか雑誌のあれみたいな、出来んかな、これじゃなんかちよっとさ
 050487 J うんうん
 050488 I ダメやん
 050489 J うん
 050490 I たて？自分を幸せにしたい、(人名 7)、選挙か、選挙ポスター
 050493 J あ、選挙ポスター、縦やな、字
 050494 I 縦って出来んのよね、これね、一個一個やらんと

【表 112】 (307)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
縦		*	*
☞ 字			*

(307)では、050493の発話「縦やな、字」のうち、「字」は文末に移動されている。【表 112】の計算によると、「字」が最適な候補であるが、実際の会話では「縦」が反復されている。

また、(308)を説明したい。

(308)

- 040405 G 行って、普通に楽しんで、夜も下道で帰ってもう日付超えたぐらいに
 040406 H やば
 040407 G 送ってもらったんよ、帰り
 040408 H めっちゃエンジョイするじゃん

- 040409 G めっちゃエンジョイした(笑)
 040410 H (笑)
 040411 G で、行きはさ
 040412 H うん
 040413 G 電車だったんよ、防府から乗ろうみたいな
 040414 H え、電車で行ったん？

【表 113】 (308)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
電車		*	*
☞ 防府			*

(308)では、040413の発話のうち、「防府から乗ろうみたいな」は文末に移動されている。
 【表 113】の計算によると、「防府」が最適な候補であるが、実際の会話では「電車」が反復されている。

また、(309)を見ていく。

(309)

- 030135 E ウェーイって、ウェーイって言葉で発することあります？(笑)
 030136 F (笑)いやだって、ウェーイってみたいな、カンパーイってみたいなさ
 030137 E うーん
 030138 F やるじゃーんみたいな意味で言ったりすんじゃないの？
 030139 E まあ、場にね、合わせるってことはしますけど
 030140 F あ、はい
 030141 E うーん、アルクのバイト先の飲み会が割とそんな感じがあったんですよ
 030142 F (笑)あー本当、うん、はいはい
 030143 E それはそれで楽しいんやけど(うん)、ね、ちょっときついんすよね、たまにならいいかなぐらい(あ、はいはい)、年に一回でいいけど(笑)
 030144 F (笑)いやいや、めちゃくちゃ少くないか、それ誘うより、疲れるんやろうな、無理してたら
 030145 E 二次会が一番疲れますね、二次会っていうか、カラオケが

【表 114】 (309)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
誘う		*	*
疲れる		*	*
☞ 無理してたら			*

(309)では、303144 の発話「それ誘うより、疲れるんやろうね、無理してたら」のうち、「無理してたら」は文末に移動されている。【表 114】の計算によると、「無理してたら」が最適な候補であるが、実際の会話では「疲れる」が反復されている。

次の会話データを見られたい。

(310)

- 241JM019 <臨床>{}の、なんか、授業つつーか、セッションとか行ってないからー(あーん)、全然。
- 242JM020 やってないの?、あそこで。
- 243JM019 あ、そゆ、研究会ではやってなくてー,,
- 244JM020 あーあー、あーあー。
- 245JM019 別のでやらなきゃいけないらしくて。
- 246JM020 あーあー、なんか、じぎよ、授業でってこと?、それ。
- 247JM019 授業とかー、そういう他の、けん、まー、そういう会に出てー、やってないと、なんか、卒論ーが、できないつつーか、臨床しか認めてないみたいな(あー)、感じで。
- 248JM019 だから,,

【表 115】 (310)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
授業		*	*
こと	%	*	*
☞ それ			*

(310)では、246JM020 の発話「授業でってこと、それ」のうち、「それ」は文末に移動されている。【表 115】の計算によると、「それ」が最適な候補であるが、実際の会話では「授業」が反復されている。

最後に、(311)を述べたい。

(311)

- 426JM019 あの一、あったよね、会館の前のとこだよね、郵便局とかの。
427JM020 あーあー、そうそうそう。
428JM020 どこだろう、今年。
429JM020 わかんないな。
430JM019 おれら、ステージ3日目だから、今年[伸びをしながら]。
431JM020 最後、3日目[↑]、昼?。
432JM020 ま、多分いける。

【表 116】 (311)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
おれら		*	*
ステージ		*	*
3日目		*	*
☞ 今年			*

(311)では、430JM019の発話のうち、「今年」は文末に移動されている。【表 116】の計算によると、「今年」が最適な候補であるが、実際の会話では「3日目」が反復されている。

以上のように、倒置文に起こる会話データでは、かきまぜ規則が適用されてしまうと、最適ではない候補が反復される。かきまぜ規則が適用される前の語順で説明できるかもしれないが、今後の課題として残されている。

7.3.2. 話者間反復の優先順位について

また、以下のような会話データを見られたい。

(312)

- 020085 C かなり材料を買いまして家から一歩も出なくていいぐらいのずっと料理して
(うん)食べて、皿洗って、料理して、食べて、(うん)皿洗ってみたいなのんびり
とした生活がこう繰り返り広げられているというか、まあちょっと鼻水が花粉症
できつくて
- 020086 D ああ、俺も花粉症、この前山口県庁に行って、山口県庁って山で囲まれてるから
- 020087 C 確かに
- 020088 D そこでなんか花粉症をもらってたっていうか
- 020089 C もらった?

【表 117】 (312)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
もらってた		*	*
☞ いう	%		*

(312)の 020088 の発話で起こる話者間反復は、【表 117】の計算によると、「いう」が最適な候補であるが、実際の会話では「もらってた」が反復されている。このタブローを見ると、「もらってた」を選ぶのは形態的な制約である。

次に、(313)を見ていく。

(313)

- 040429 G そう、まあ後で言うわ(笑)
- 040430 H (笑)はい、めっちゃ響いた、笑い声が、え、久しぶりに人と話したからやった、やば、こわいな(笑)
- 040431 G 楽しかった
- 040432 H バイトしかしてない、大阪旅行が終わったらマジで楽しみがないなー、もう学校始まるじゃん
- 040433 G ゴールデンウイークなんかせんのか？
- 040434 H あ、ゴールデンウイークはね、福岡に帰る、ちょっとだけだけど、たぶん2、3日ぐらいしか帰らんとと思うけど

【表 118】 (313)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
ゴールデンウイーク		*	*
☞ なん	%		*

(313)の 040433 の発話で起こる話者間反復は、【表 118】の計算によると、「なん」が最適な候補であるが、実際の会話では「ゴールデンウイーク」が反復されている。このタブローを見ると、「ゴールデンウイーク」を選ぶのは形態的な制約である。

また、(314)を見られたい。

(314)

- 020001 C ああ、もう始まっとるんか
- 020002 D お疲れ

- 020003 C いやいや、お疲れお疲れ、なんか、あれやね、一週間ぶり？どのぐらい？どのぐらい？
- 020004 D 一週間以上空いてるんじゃないかな？
- 020005 C けっこう空いとるんやね、え？どう？最近何しとる？
- 020006 D 最近は

【表 119】 (314)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
最近		*	*
☞ 何	%		*

(314)の 020005 の発話で起こる話者間反復は、【表 119】の計算によると、「何」が最適な候補であるが、実際の会話では「最近」が反復されている。このタブローを見ると、「最近」を選ぶのは形態的な制約である。

最後に、(315)を見ていく。

(315)

- 20JM002 で、あっちは？。
- 21JM001 あれが一、「施設名 1 略称」、「施設名 1」っていう(うん)、うん、おれもよく分からん=。
- 22JM001 =行ったことがない。
- 23JM001 ちょっと、あんまり近寄りがたいところ=。
- 24JM002 =学食とかどこにあるん？。
- 25JM001 学食、あれ。

【表 120】 (315)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
学食		*	*
☞ どこ	%		*

(315)の 24JM002 の発話で起こる話者間反復は、【表 120】の計算によると、「どこ」が最適な候補であるが、実際の会話では「学食」が反復されている。このタブローを見ると、「学食」を選ぶのは形態的な制約である。

以上のことから、3つの制約のうち、形態的な制約が優先されると考えられるかもしれない。本稿では、最適性理論の考え方を利用したが、最適性理論で用いられているような制約

のランキングは現時点導入していない。形態的・統語的・談話的な制約には、優先順位が存在するのか、どのような優先順位になるのかを今後検討する必要がある。さらに、なぜそのような優先順位なのかという原因まで辿り着くべきであろう。

7.3.3. 話者間反復の制約と生起環境について

ここでは、以下のような会話データを見られたい。

(316)

- 030512 F (笑) あー、じゃストーリーもね、全然、ほんまやなー、小さいころ読んだ漫画ってたぶん大事よね、やっぱスポーツマンガとか読んどきゃよかったよ
- 030513 E (笑) いや、めちゃくちゃ古い漫画読んでましたけどね、なんかおじさん、うちのおじさんが買ってたみたいなの、こち亀はありましたもんね、うちに
- 030514 F (笑) あーそういう感じか
- 030515 E こち亀と、あとガッツ乱平っていう漫画が
- 030516 F (笑) 何漫画や、ガッツ乱平

【表 121】 (316)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
こち亀		*	*
ガッツ乱平		*	*
☞ 漫画			

(316)の030515の発話で起こる話者間反復は、【表 121】の計算によると、「漫画」が最適な候補である、実際の会話では「漫画」が反復されているが、「ガッツ乱平」も反復されている。その原因は不明である。

次に、(317)を見ていく。

(317)

- 010188 A シャべらないもんね、お母さんと
- 010189 B シャべらないけー、そう、シャべらんけー
- 010190 A まったくお前は
- 010191 B え?なんで?シャべらんもんマジで、何喋ればいいん?
- 010192 A うち仲良しだから
- 010193 B (笑)ベラベラベラベラ
- 010194 A 今度二人で旅行行くから
- 010195 B まじで?

- 010196 A うん
 010197 B 全然，絶対嫌だもん(笑)
 010198 A えー
 010199 B 絶対嫌だ，親と二人で旅行なんて行きたくない
 010200 A でも親も嫌だって思ってたのかな

【表 122】 (317)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
親		*	*
二人		*	*
☞ 旅行			*

(317)の010199の発話で起こる話者間反復は，【表 122】の計算によると，「旅行」が最適な候補であるが，実際の会話では「親」が反復されている。その原因は不明である。

また，(318)について説明していく。

(318)

- 112JM019 友達としてどう思う?、って<軽い笑い>[ふざけた口調]。
 113JM019 どうしたらいいっすかね?、ぼくは[ふざけた口調]。
 114JM020 やっちゃえばいい<2人で笑い>。
 115JM020 知らない。
 116JM020 どう、どうしたらいいんだろうね。
 117JM020 合わないんでしょ?。
 118JM019 合わないねー。
 119JM020 なんか、番号とか分かんないの?。
 120JM019 番号もわ、分かるけどー、そうなんか、
 121JM020 あ<一、名簿>{<}<。</>
 122JM019 <連絡網>{<}<2人で大きな笑い>、連絡網でしか分かんない<笑いながら>[この間、JM020は笑っている]。
 123JM019 その時に一、本当の、なんかね、その時に一、その飲み会のときに一、聞こう
とか思ってたんだけど、まー、そうなってしまい<2人で笑う>。
 124JM020 聞く間もなく。

【表 123】 (318)の話者間反復に関する制約のタブロー

候補	形態的な制約	統語的な制約	談話的な制約
聞こう		*	*
思ってた	%	*	*
☞ なってしまい			*

(318)の 123JM019 の発話で起こる話者間反復は、【表 123】の計算によると、「なってしまい」が最適な候補であるが、実際の会話では「聞こう」が反復されている。これは、形態的な制約には、「なる」という動詞が反復されにくいのではないかと考えられるが、会話データを増やして検証する必要がある。

本稿では、形態的・統語的・談話的という3つの制約が得られたが、それ以外の制約も存在するかもしれない。他の制約は何であるのかは今後の課題として追究していく。また、本稿では話者間反復の反復される要素 X と S_1 しか考察していないが、話者間反復の生起環境に注目する必要もあるかもしれない。この2点も今後の課題とする。

8. おわりに

本稿では、日本語自然会話で観察される反復現象の一つである話者間反復を対象とし、最適性理論の考え方をを用いて、「会話の中のどの要素が選択されて反復されるのか、なぜこの要素が選択されて反復されるのか」という問題について、形態的・統語的・談話的な観点から、解明を試みた。その結果、形態的・統語的・談話的な制約を仮定し、それらの相互作用によって話者間反復が生じることを明らかにした。

本稿での3つの観点からの記述や制約は、少なくとも先行研究の意味・機能的アプローチを補うものであり、それゆえ非常に意義があるものであると考える。多面的なアプローチによって、話者間反復という現象に潜む仕組みを解明するための、新たな一步を踏み出したのではないかと考える。また、最適性理論という考え方は、音韻部門だけではなく、部門を越えた制約同士の相互作用を仮定できる可能性があるということが分かったことも、本稿の意義があるところである。

しかし、第7章で記述したように、多くの課題も残されている。話者間反復の S_1 と反復される要素 X しか考察しなかったことは、問題点が多く残る主な原因であると推測している。従って、話者間反復が起こる周辺に現れる感動詞などの要素に注目する必要がある。話者間反復と感動詞の関連性に関する研究は大きな課題として残る。

また、本稿に基づく今後の研究の最終的な目的は、話者間反復のみに適用される制約を立てることではない。本稿で扱った話者間反復は単なる反復現象の一種類であるが、その成果から考えると、反復現象が異なる側面に関わっていることが予想できる。反復現象に関わる普遍的なルールを目指そうとしている。ただ、多種多様な反復現象が存在し、反復現象全体を解明することは、現時点では難しいと考える。それは最大の課題として残っているが、本稿の成果は、反復現象を解明するための複合的アプローチの新たな一步であると考えられる。本稿の成果を利用し、今後も他の反復現象の研究を継続していく必要があるだろう。

さらに、話者間反復及び反復現象全体は、言語学という分野だけの問題ではない。認知心理学、脳科学など、他分野との連携を図ることも考えられるだろう。また、話者間反復および反復現象は他の言語の会話にも現れる。他の言語との対照研究も可能であろう。多分野・多言語に亘って、反復に関する理論を構築していくことは今後の課題である。さらに、応用面では、これらの研究成果が日本語教育にも反映されることが期待される。

参考文献

<日本語文献>

- アラン・プリンス, ポール・スモレンスキー, 深澤はるか [訳] (2008) 『最適性理論—生成文法における制約相互作用』 岩波書店
- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』 くろしお出版
- 石黒圭 (2007) 「第 10 講 繰り返しとリズム—反復文体—」 『よくわかる文章表現の技術 V—文体編—』 明治書院 pp. 206-228
- 井上和子 (2009) 『生成文法と日本語研究: 「文法」と「談話」の接点』 大修館書店
- 宇佐美まゆみ監修 (2018) 『BTSJ 日本語自然会話コーパス(トランスクリプト・音声)2018 年版』 国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 サブ・プロジェクト 「日本語学習者の日本語使用の解明」 (リーダー: 宇佐美まゆみ)
- 宇佐美まゆみ (2019) 「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)2019 年改訂版」 国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 サブ・プロジェクト 「日本語学習者の日本語使用の解明」 (リーダー: 宇佐美まゆみ)
- 大谷麻美 (2018) 「日・英語の初対面会話における話題の連鎖と展開—共-選択の観点からの分析—」 『社会言語科学』 第 21 巻第 1 号 pp. 96-112
- 岡部悦子 (2003) 「課題解決場面における「くり返し」」 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』 第 16 号 pp. 97-116
- 沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子 (2011) 『図解日本の語彙』 三省堂
- 落合るみ子・植野貴志子・野村佑子 (2006) 「日本語会話における同調促進装置としてのあいづち、繰り返し、テイクオーバー: 米語会話との比較から」 『日本女子大学大学院文学研究科紀要』 第 12 号 pp. 29-41
- 小野寺典子 [編] (2017) 『発話のはじめと終わり—語用論的調節のなされる場所』 ひつじ書房
- 小野尚之ほか [編] (2014) 『生成文法の軌跡と展望』 金星堂
- 河内彩香 (2003) 「日本語の雑談の談話における話題展開機能と型」 『早稲田大学日本語教育研究』 第 3 号 pp. 41-55
- 串田秀也 (1997) 「会話のトピックはいかにつくられていくか」 谷泰 [編] 『コミュニケーションの自然誌』 新曜社 pp. 173-212
- 熊谷智子 (1997) 「くりかえす」 佐久間まゆみほか [編] 『文章・談話のしくみ』 おうふう pp. 38-48
- 小林一貴 (1998) 「文章表現における語の繰り返しの機能—作文分析の観点としての「結束的連鎖」を中心に—」 『人文科教育研究』 第 25 号 pp. 57-64
- 佐久間まゆみ (1993) 「日本語の文章構造 I」 宮地裕ほか [編] 『日本語の表現と理解』 放送

- 大学教育振興会 pp. 90-98
- ザトラウスキー, ポリー(1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』
くろしお出版
- 塩澤和子(2005)「コラムに観察されるくり返しの機能」『文藝言語研究・言語編』第47号 筑
波大学文藝・言語学系 pp. 15-31
- 柴谷方良(1978)『日本語の分析—生成文法の方法』大修館書店
- 柴谷方良・影山太郎・田守育啓(1982)『言語の構造—理論と分析—意味・統語論』くろし
お出版
- 常艶麗(2021)「日本語自然会話における「話者間反復」についての統語的分析の試み—格成
分が関わる場合を対象として—」『比較文化研究』第145号 pp. 121-136
- 常艶麗(2022)「日本語自然会話における「話者間反復」について—名詞が反復される場合を
対象として—」『東アジア研究』第20号 山口大学東アジア研究科 pp. 90-120
- 白川博之(1990)「「カラ」で言いさす文」『広島大学教育学部紀要(第2部)』第39号 pp. 249-
255
- 白川博之(1996)「「ケド」で言い終わる文」『広島大学日本語教育学科紀要』第6号 pp. 9-17
- 白川博之(2001)「接続助詞「シ」の機能」中右実教授還暦記念論文集編集委員会 [編]『意
味と形のインターフェイス(下巻)』くろしお出版 pp. 825-836
- 白川博之(2008)「「言いさし文」の談話機能」串田秀也・定延利之・伝康晴 [編]『「単位」
としての文と発話』ひつじ書房 pp. 1-25
- 白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- 菅原和孝(1996)「ひとつの声で語ること—身体とことばの「同時性」をめぐる—」菅原和孝・
野村雅一 [編]『コミュニケーションとしての身体』大修館書店 pp. 246-278
- 杉山ますよ(1998)「進行役とゲストの発話に見られる繰り返しの機能」『言語文化と日本語教育』
第16号 pp. 46-57
- 杉山ますよ(2002)「くり返しの形状・分布と機能」『別科論集』第4号 大東文化大学 pp. 67-
87
- 竹田らら(2017)「どの場面で、誰が、何を、何のために「繰り返す」のか—二種類のジャン
ルにおける「反復」の機能とそれがもたらす協調性—」『日本語学』36(4) 明治書
院 pp. 70-80
- 田中妙子(1997)「会話における〈くりかえし〉—テレビ番組を資料として—」『早稲田大学
日本語研究教育センター紀要』第9号 pp. 47-67
- 田野村忠温(2012)「日本語のコロケーション」堀正広 [編]『これからのコロケーション研究』
ひつじ書房 pp. 193-226
- 程莉(2020)『「重複」の文法的研究』ひつじ書房
- デボラ・カメロン, 林宅男 [監訳] (2012)『話し言葉の談話分析』ひつじ書房
- 伝康晴(2007)「発話冒頭付近での語句の繰り返しの機能」串田秀也ほか [編]『時間の中の文

- と発話』ひつじ書房 pp. 103-133
- 中田智子(1992)「会話の方策としてのくり返し」国立国語研究所[編]『国立国語研究所研究報告集 13』秀英出版 pp. 267-302
- 中村明(2003)「文章・談話のレトリック」佐久間まゆみ[編]『朝倉日本語講座 7 文章・談話』朝倉書店 pp. 191-210
- 野呂健一(2016)『現代日本語の反復構文—構文文法と類像性の観点から—』くろしお出版
- 橋内武(1999)『ディスコース：談話の織りなす世界』くろしお出版
- 福富奈美(2010)「日本語会話における「くり返し」発話について」『言語文化学研究言語情報編』(5) 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科 pp. 105-125
- 堀内奈美(2001)「会話における「くり返し」の発話について」『龍谷大学国際センター研究年報』第 10 号 pp. 19-31
- 牧野成一(1980)『くりかえしの文法』大修館書店
- 町沙恵子(2010)「日英語会話内に見られる繰返しの対照的メカニズム—他者の発話の繰返しの考察—」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』第 16 号 pp. 57-74
- 松田文子(1998)「日常談話における反復表現の機能に関する一考察」『言語文化と日本語教育』第 16 号 pp. 58-69
- 三牧陽子(2013)『ポライトネスの談話分析—初対面コミュニケーションの姿としくみ—』くろしお出版
- メイナード, 泉子・K (1993)『会話分析』くろしお出版
- メイナード, 泉子・K (1997)『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性—』くろしお出版
- メイナード, 泉子・K (2004)『談話言語学—日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版
- メイナード, 泉子・K(2005)『談話表現ハンドブック』くろしお出版
- 森恵理香・前原かおる・大浜るい子(1999)「ターン譲渡の方略としての「繰返し」と「問い」」『広島大学日本語教育学科紀要』第 9 号 pp. 41-49

<英語文献>

- Chomsky, N. (1986=1986b) *Barriers*. Cambridge, Mass.: MIT Press
- Jakobson, R. (1960) "Linguistics and Poetics." In Sebeok, T.A. (ed.) *Style in Language*. Cambridge, Mass.: MIT Press
- Tannen, D. (1989) *Talking Voices: Repetition, Dialogue, and Imagery in Conversational Discourse*. Cambridge University Press.

<辞典類>

- 亀井孝・千野栄一・河野六郎(1996)『言語学大辞典 第 6 巻 術語編』三省堂

- 金田一秀穂 [監] (2006) 『知っておきたい日本語結びついたことばコロケーション辞典』 学習研究社
- 仁田義雄ほか [編] (2014) 『日本語文法事典』 大修館書店
- 原口庄輔ほか [編] (2016) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社
- 飛田良文ほか [編] (2007) 『日本語学研究事典』 明治書院

謝辞

この博士論文を執筆するにあたり、ご指導とご支援をいただいた多くの方々に、謹んで感謝の意を申し上げたいと思います。

まず、研究生の頃から未熟な私を引き受けてくださり、それから6年間指導してくださった、指導教授である有元光彦先生には、言葉に尽くせない感謝の気持ちを捧げたいと思います。本稿の発想から、分析を経て、結論を得るまで、ほとんどすべての問題について、詳細な議論につきあっていただき、最初の草稿段階において、きめ細かく疑問点を洗い出していただいた有元先生には、特に感謝を申し上げます。有元先生の終始一貫の優しく丁寧なご指導とご鞭撻のおかげで、博士論文の完成だけでなく、今後独自で研究をやるための思考方法、分析の順序、また「分かりやすく丁寧に説明することが重要である」という、持つべき研究姿勢など、研究全般に亘ってあらゆることについて、ご教示をいただきました。心から感謝いたします。有元先生の下で始めた研究を長年続けて、曲がりなりにもこのような形でまとめることができ、心から深く御礼を申し上げたいと思います。研究につまずいた時でも、論文の投稿が失敗した時でも、学位論文提出に迫っており、ストレスがたまっていた時でも、有元先生からご激励とご理解をいただいたのおかげで、諦めずにこの成果を達成することができました。これは、有元先生の包容力があってこそのことです。心から厚く御礼を申し上げます。

また、本論文を提出するにあたり、副査を引き受けてくださった中田充先生、松岡勝彦先生、山本冴里先生にも特別の感謝の言葉を申し上げます。そして、県立広島大学の友定賢治先生には、御多忙の中、外部審査委員を快く引き受けていただき、深謝いたします。原稿すべてに目を通していただき、細かく丁寧なご指摘と、数多く貴重なご意見をいただいたことを、深い感謝の念とともに記しておきたいです。自分が気付かなかった小さなミスから、思いもしなかった新しい視点まで、多分野にわたる先生方のご指摘とご助言を賜りました。深く感謝の意を申し上げます。

そして、この場をお借りして、大学時代の張瑜先生にも御礼を申し上げたいと思います。張瑜先生から人生の分かれ道で温かく有益なご助言をいただいたからこそ、今の自分があります。ここに記して深く感謝いたします。

さらに、言語調査の実施にあたって、山口大学の学部生の方々から、ご協力をいただき、会話データのチェックも丁寧にいただきました。心より感謝します。

最後となりましたが、家族や友達に心から厚く感謝します。日本での留学生生活を精神的にも、経済的にも支えてくれた両親には、「ありがとう」の言葉だけで伝えきれないほど感謝の気持ちで溢れています。両親をはじめ、兄、嫂、甥も温かく応援してくれました。また、研究や生活上の相談相手である友人たちからも、助言と励ましをもらったことに、深く感謝したいです。家族・友達と一緒にいた楽しい時間を思い出すたびに、癒されることが多く、家族・友達からたくさんの愛と応援をもらったことは、私の動力源になります。お名前を出

したい気持ちでいっぱいですが、個人情報保護のため、割愛させていただきます。

博士論文の成立は、先行研究の精読、会話データの収集・分析、論文の記述・修正などによる日々の積み重ねとともに、多くの方々のご支援とご協力をいただいたことから生まれた結果だと思います。このように、6年間の研究生活の実を結ぶことが見えてきました。本当にありがとうございました。この感謝の気持ちを忘れず、今後も研究活動に取り組んで精進していきたいと思います。

常艶麗

【付録】

【付録 1】 言語調査に関する話者承諾書

【付録 2】 話者間反復の会話データ

【付録 3】 言語調査の会話データ

【付録 1】には、言語調査に関する「話者承諾書」（「調査にご協力くださる方へ」「調査研究への参加の同意書」「同意の取り消し」を含む）を掲載する。なお、記号*は、個人情報保護の観点から表示していない箇所である。

【付録 2】には、話者間反復の会話データ（言語調査による会話データから抽出したもの、BTSJ コーパスによる会話データから抽出したものを含む）を掲載する。全体で 274 例の会話データを掲載している。なお、会話データの表記法は本論文で挙げたものと同じである。

【付録 3】には、筆者独自で行った言語調査による 7 本の会話データ全体（音声データを文字化したもの）を掲載する。それぞれの会話データは、約 300～800 の発話から構成されている。ここでは、左から「通し番号」、「発話者」、「発話内容」といった順で表記している。

付録1 言語調査に関する話者承諾書

調査にご協力くださる方へ

この調査についてのご説明：

1. 研究課題名（博士論文題目）：

日本語自然会話における「話者間反復」に関する研究

2. 調査の目的

本調査は、常艶麗（調査担当者、山口大学大学院東アジア研究科）の博士論文作成における言語データを収集するために、実施するものです。

3. 調査の方法

- ・調査は、参加者2人ペアで自由に会話（雑談）をしていただくという方法で行います。会話の中身については、制限はございません。何をしゃべっていただいても結構です。
- ・調査の際に年齢やお仕事、これまでに住んだことのある地域などについてお尋ねすることがあります。会話の特徴をまとめるときに、これらの情報を考慮する必要があるためですが、これらの個人情報に関しては、十分な注意を払い、責任をもって管理いたします。

4. 調査の場所と時間

- ・調査は、山口大学教育学部の演習室で行います。
- ・調査に参加していただくのは、「30分程度」です。

5. 調査を実施する者

- ・調査担当者：常艶麗（山口大学大学院東アジア研究科・大学院生）

6. 調査に関する資料の開示について

この調査に関するご質問がありましたら、いつでも調査担当者にお尋ね下さい。

7. 調査への参加が任意であること

この調査には、自由な意思で参加してください。調査の途中でも、やめることができます。また、調査が終わったあとに、調査への参加の同意を取り消すこともできます。その場合、別紙「同意の取り消し」の文書に署名して、下記までお申し出下さい。

同意を撤回する場合の連絡先：

住所：〒*****-*****-*****

電話：*****-*****-*****

電子メール：*****@yamaguchi-u.ac.jp

8. この調査への参加に伴う危害の可能性について

この調査により、健康被害等の危険や、痛み等の不快な状態、その他あなたに不利益となることが生じる可能性はありません。

調査中に疲れた場合などは、おっしゃってください。

9. 個人情報の取り扱い

あなたの個人情報や言語データが記された資料は、厳重に保管します。また、あなたの個人情報をコンピュータに入力する場合は、情報が漏れることのないよう、対策を十分に施したコンピュータを使用し、厳重に情報を保管し、紛失、盗難などのないようにします。

10. 調査終了後の対応と研究成果の公表

この調査が終わった後、お伺いした内容は、個人情報を厳重に管理したうえで保存します。また、この調査で得られた成果を、博士論文以外にも調査報告書や専門の学会誌、学術雑誌などに発表することがあります。その際は、あなたのプライバシーに十分配慮します。

録音音声を公開する場合は、事前にご承諾を得るようにいたします（現時点では公開は予定していません）。

11. 調査に伴う参加者の方への謝金等

調査担当者が大学院生であるため、調査にご協力くださった方に、お礼を差し上げることができません。ご容赦ください。

12. 問い合わせ先・苦情等の連絡先

- ・調査担当者：常艶麗

住所：〒*****-*****-*****

電話：*****-*****-*****

電子メール：*****@yamaguchi-u.ac.jp

- ・指導教員： 有元 光彦（山口大学大学院東アジア研究科・教授）

住所：〒*****-*****-*****

電子メール：*****@yamaguchi-u.ac.jp

以上の内容をよくご理解いただいたうえで、この調査に参加することに同意していただける場合は、別紙の「調査研究への参加の同意書」に署名し、日付を記入して調査担当者にお渡し下さい。

調査研究への参加の同意書

山口大学大学院東アジア研究科・大学院生

常 艶麗 様

私は「日本語自然会話における「話者間反復」に関する研究」の調査に関する説明を受け、この調査研究に参加することに同意します。

また、調査の内容が言語の学術的研究を目的として使用されることに同意します。その際、個人情報については、以下のようにお願いします。

(1) 博士論文、調査報告書、研究発表、研究論文等での発表について

・次の中で公表してもよい内容があれば をしてください。

生年（年齢） 性別 居住歴 職業

(2) 録音したあなたの声をホームページ等で公開することについて

・公開することを 承諾する 承諾しない

・承諾する場合、次の中で公表してもよい内容があれば をしてください。

生年（年齢） 性別 居住歴 職業

その他（特にご希望があれば、以下にご記入ください）

.....年.....月.....日

参加者署名.....

調査担当者署名.....

同意の取り消し

山口大学大学院東アジア研究科・大学院生

常 艶麗 様

私は、「日本語自然会話における「話者間反復」に関する研究」の調査に参加することに同意し、同意書に署名しましたが、その同意を取り消します。

- 同意の取り消し前のデータについては 利用しても構いません。
 利用せずに破棄してください。

年 月 日

署名.....